種々の美麗なる歴史畫あり佛の神通の圖觀自在菩薩神通の圖其他數多聖者の神通を現し居る圖宗喀巴の改革の爲萬難を侵して成功の歴史畫及歴代達賴喇嘛の畫像等なり、殿の背面室には美麗なる壁絨及緞子を掛けて其形は(「ギャル、ツァン」と名くる)長圓形の佛教旗なり床は滑かにして輝けり赤黒く塗りたる戸や窓は西藏美術家の餘り巧ならざるを示す此全體の大建築物は壁の外部屋根の頂き皆赤く塗りたり(中央の建築物は九層にて宏壯なり)之を「ポーダンマルポー」(赤宮)と云ふ給仕は金瓶より法王の金碗に茶を注げり他に數多の給仕あり參詣前にも皆碗を出し茶を注ぐ法王茶碗を唇に着けるまて皆之を呑む能はず此間皆食前の祈禱を爲す其大要に曰く

常に三寶を尊重せん願くは三寶の福德を授け玉へと

給仕茶を注ぐこと三回之を喫するに決して音さすべからず給仕は次に金皿に盛りたる白米を法王の手に觸れて後之を參詣一同に分配せり此時一同唱て曰く

最も勝れたる佛は最も完全にして無雙の師なり最も確實なる案内者は僧伽なり最も失敗なき保護者は妙法なり我々此三寶に歸依し供養をなす云々

次には法王或る誦文を唱ひ後一同之を唱ふ又中央より一人立て法王に奏して曰く

「オムソジュラ」「ヴァーミ、アー、フム」……オム大勢力地、……「オムワジュラ、リシ、アーフム」……外壁に圍繞せられて大世界あり其中央に「リーラブ」山(須彌山)即諸山の大王屹立し山の東方には「ルーバ、グバ」國南方には「ヴアン、ブー、リン」國西方には「バ、ラン、チイ」國北方には「ダミ、ナン」國あり此外數多の大島嶼あり「ルイ」「ルイバ、グ」「ナヤブ、シャン」「ヨー、ダン」「ラン、チョグドー」及び「ダミ、ナン、ダオ」等なり寶石の山一切物を出現する不思議の木不思議の牛乳耕さずして實を得るもの寶念車、勝將軍、勝皇后、寶珠、賢大臣、象王、馬王、寶鉢、舞伎、花環工、唱歌女、舞踏者、花供給者、司香水者、司燒香者、司飾光者、月、日、寶傘、勝旗此等都てのものを以て人天幸福合同して積み立てたる都ての寶物を有する勝れて圓滿なる剌麻導師殊に聖觀自在及其臣僚從者の一切に供養す謹んて願くは法王一切衆生の爲めに此供養を受けよ

と彼は法王の坐前に投禮すること三回にして立ち次に嚴肅なる式あり式終り法王坐を立たるゝ時拜謁者皆直立して敬禮を爲す

色拉寺(黄金寺)

色拉寺は召の北十里山に據り勢を成し鰐房層樓參差として高く聳へ圍墻廓の如く内に金殿三座園亭數處あり達賴喇嘛歳毎に至り續經すること一回寺に掌教の呼圖克圖あり之を主る喇嘛約五千あり寺に鐵杵一枝あり金剛即ち降魔杵と云ふ長さ約二尺一頭は三稜鋼の如く一頭は人頭狀の

如きものあり昔寺を建つるの時西天より飛來せるものと稱す人咸な爭ふて之を禮す

別蚌寺（「デー」は米「ブン」は推の義にして米推寺と云ふ意なり印度に有名なる「スリーダンニヤ、カタカ」郡米推寺院と云ふあり

「デーブン」は此名を取りたるものなりと之ふ

別蚌寺は拉薩の西二十里にあり山に據り層樓を佈列す金殿内三座に達賴喇嘛避暑の花園一所あり毎年此處に至り經を講すると一回寺内には漢人蒙古、西蕃楊土司、魯土司、布爾康布木地方の人住居し藏經を習學す達賴喇嘛より派遣せられ黄教を掌る呼圖克圖北薩楞布氣此處に居往す山を下り里許にして垂仲殿あり乃ち護法喇嘛の居る所なり此處の垂仲は妻室なし亦神を降して體に附し禍福を判斷す其地垂仲は到る處にあり妻あるもの妻なきもの枚舉に遑あらず（垂仲殿後節にあり）

噶爾丹寺

噶爾丹寺は召の東九里形勢布達拉に同じ頗る華麗を極む乃ち宗喀巴坐床の所なり山上に多く遺跡あり黄教發源の地となす

桑鳶寺

桑鳶寺は召の東二日行程にあり内に關聖帝君を供す傳へ云ふ唐以前此附近に鬼怪多く害を爲す人民安んぜす帝君降聖之を除く人始めて安息す土民寺を建て以て奉ず尊號を稱して革塞結波と曰ふ其寺喇嘛頗る衆し達賴毎年此處に至り經を講す此地に查洋宗山あり山上に石多し機札古寺に洞あり高さ二千餘丈石梯ありて之に上る洞内石蓮華佛座前の石机石盒内に白土あり食ふことを得味糌粑の如し次日に至れは又生すと其洞に入るには火を點して入るへし座後に一大海あり惡を作すの人此に至れは必す失脚して海中に墮つと稱し土人頗る畏憚す

垂仲殿

垂仲殿は大召の東半里許にあり寺を噶嗎震と名く内に神像を塑し猙獰惡煞なり内居護法乃ち喇嘛の裝束にして仍ほ妻を娶り子を生み其術を世傳す所謂巫の類なり毎月二日及ひ十六日に神を下す其法頭に金盔を戴き上に鷄羽一束を挿む高さ約そ二三尺なり甲を穿ち背に小旂五面を挿む全身皆白き哈達を以て結束し足に虎皮靴を穿ち手に弓刀を執り法台に登坐す凡む人吉凶を叩問すれは人言に托し禍福を判す外に出つるには則ち從者あり鬼怪なる裝束を爲し旂を執り鈸を皷し導引す寺内に多く放生の野獸熊狼等を畜ふ凡そ各大寺には皆垂仲あり亦婦女にして之を爲す者あり共に土人敬信崇奉する所と爲す

木鹿寺

木鹿寺は大召の北小召の東に在り樓の高さ四層亦頗る裝麗廣濶なり西番の僧經を習ふの所にし

て寺西に經園あり各種の經文を造り各處に頒行す

菊崗寺（シーカン）

菊崗寺は經園に接連し各種蒙古僧侶の經を學ぶ所にして樓の高さ三層なり

玉奪三巴（ユイトロサンパ）橋

玉奪三巴橋は拉薩の西一里許に在り緑色の琉璃瓦を以て之を蓋ふ唐時より建つる所と稱す漢人呼て琉璃橋と爲す此處より西行すること一里許即ち布達拉なり

招拉筆筒山寺（チャクラビトンサン）

招拉筆筒山寺は布達拉の西南山脚に在り亦平地に石山を湧起せしものなり山頂に寺あり形ち磨盤の如し漢人呼て磨盤山と爲す其巔上登るに甚だ險なり山の南崖の下は即ち藏江寺なり寺内の喇嘛は皆醫道を業とせり

祿康（カンチー）挿木（ムー）

祿康挿木は布達拉の後に在り一方池あり周圍約そ四里中に一臺を築き上に八角形の璃璃亭を建つ高さ四層なり又水閣涼亭と名く皮船を以て通渡す達賴第五世坐靜の地たり

宗角（ツォン　ナック）

宗角は布達拉の北二里許に在り達賴喇嘛避暑の地なり後ち佛姉の居性となす（呼弟爾字ノ姉雍正十二年病故ス）

卡契（チャチー）園

卡契園は布達拉の西五里許勞湖柳林内にあり經頭回々教徒の禮拜所なり魚地、經堂、禮拜處あり花草芳菲共に愛すべし

疏日（ソウリー）崗（カン）

疏日崗は布達拉の西七里許に在り達賴班禪兩喇嘛往來停驂飲茶の所なり人呼て經園と呼ぶ

仍仲寧翁結巴（ルンチョンニンウンチャーパ）寺

仍仲寧翁結巴寺は拉薩の西八日行程後藏札什倫布寺是なり（札什は榮光の意にして倫布は塊の意）

山を背ひ河に臨み院宇敞麗佛像莊麗なり班禪喇嘛坐床の所たり各處朝禮の土民道に絶へず凡て經を學び成るものは必ず此に至りて戒を受く名を熬茶施衆に取る

薩斯迦（サスチャ）寺

薩斯迦（撒家）寺は扎什倫布の西南にあり喇嘛紅教の大本山にして紅教の始祖昆貢確（コンコンイチャカボー）嘉トの之を開ける所なり世襲の住持あり蓋し其教は喇嘛年少の時に妻を娶り子を生し子ある後を俟ち復た再ひ室家に近かす始めて法座に登る達賴、班禪の如し又此寺は大圖書館を以て名あり其書籍は非常に多く書中の文字は黄金又は銀を以て彫り上けられたるものありと云ふ

多爾吉拔姆宮

多爾吉拔姆宮は雅木魯克湖中にあり拉薩より西行半ヶ月行程なり湖中に山あり上に寺を建つ宏麗を極む寺内に一人の女呼圖克圖多爾吉拔姆之を統督す北斗の精の化生にして昔蒙古朕巴三節の藏を亂せし時第一世の僧院長は不思議の妙力を現はして其寶物の掠奪を防禦せり蒙古兵の寺門内に侵入するや唯數匹の牝豚ありて守護せるを見たりしが之を追ひ拂ひて掠奪せんとするや蠢爾たる豚は忽然變して尊敬すべき僧侶と比丘尼とに現して莊嚴なる容貌を示せしかは流石に貪慾無慚の蒙古人も俄に畏敬の念を生し其毒手を收めたりと云ふ現在の貴女は決して横臥して就眠すること能はす終日椅子に凭りて眠り夜は沈思默考の狀態にて長時間座せり拉薩に來ることあれは人々最敬禮を以て之を迎ふと云ふ(西藏にて猪を呼て拔と云ふ故に名く)

達隆寺

達隆寺は拉薩より北行し郭納山を過き一日行程にあり寺亦宏麗にして喇嘛約千余あり

熟正寺

熟正寺は拉薩より東北行二日行程にして角子拉上にあり寺内喇嘛甚だ衆し山徑曲折し鳥獸寂として無きも之を觀んと欲するとき喇嘛鐸を振へば俄に山禽麓鹿の儔類畢く集まると云ふ

楚布寺業郎寺

楚布寺、業郎寺は拉薩の北七十里の浪子地方にあり掌教呼圖克圖ありこを主とる紅帽の宗を噶瑪と名け黑帽の宗を沙瑪納と名く明萬歷の時曾て入觀し封號冊印を勅賜す世祖章皇帝に至り勅封大寶法王の印を賜ふ今衣鉢を承襲する者は一を札哇楞布氣と名け一を革桑楞布氣と名く

江巴林寺

江巴林寺は昌都(察木多)に在り其寺内に金頂一座あり樓臺院宇宏濶壯麗亦一勝區なり寺に掌教呼圖克圖二人あり一を敎喇巴戈喜丹奔俄木と名け一を拔巴丹奔姜錯と名く

第二節　寺院の内部及禮拜

各寺院の中央部は即ち殿堂なり通常民家にても各種の室の外に毎日の禮拜に供せんが爲め少くも必ず一箇の佛壇を有せり寺院の殿堂の内面は奇麗に彩色を施し壁には壁畫を繪き赤色の梁には蓮華等の花卉を畫けり轉法輪は通常其玄關前に畫けり佛壇上には三箇の寶物即ち佛、法、僧の寶あり此を佛の三位一體とも云ふべきか此の三者の記號は禮拜を爲す際には何れの所にても見ざるはなし佛像は佛を代表し書籍は法を代表し寶塔は敎旨を代表せり

喇嘛の本堂にては毎日各種の物體を模造せるものを供へて佛に供養せり其模造品は麥粉又は米の粉を揑ねて造りたるものなり喇嘛は之を佛前に供へて鄭重なる儀式と念佛とを以て供養する

なり儀式終れば左の如き祈禱を爲せり

總ての萬物に幸福を與へ給へ我々をして煩腦の域を脱せしめ給へ

堂内の坐次は秩序誠に整然たり通常の僧及新參の僧は本堂の兩側に位席を正して長くして低き曲祿に坐せり曲祿の右方彼方の一端には僧院長の法座ありて其次に役僧の坐あり其反對の側には此營造物の管理者及其助手の坐席ありて何れも一齋に讀經するなり門に接して禮拜の間ありて佛に手向くべき茶を置くべき卓あり此の入口には祈禱筒ありて場所の許す限りは大く之を作れり禮拜の間の一側には祭壇あり其祭壇は簡易なるものにても高低、二列をなせり低き方の棚には水、米、花及燈明の供物をなし高き棚には二三の經典、金剛、御水鉢、金屬の鏡、鐃鈸、法螺貝、長き望遠鏡の如き號角、人の大腿骨にて製したる喇叭及大鼓を置けり大なる鼓は架に懸け時としては其一極に孔を穿ちて之れに支ふることあり小鼓は其形我が國の小鼓に髣髴たるものにて革の緒を結ひ付けたる球頭の抱にて之を擊つ其他人の頭蓋骨にて製したる鼓もあり

第三節　喇嘛の訓練

喇嘛教育の科程は長くして且つ嚴格なり八歳にして寺院の學校に入學せしめ體格檢査を爲し「アルハベット」より始め次第に古人の金言及日常義務の一端を暗記せしむ其親族は一ヶ月間に一度此の小兒に面會することを許さる斯の如くして十二ヶ年を經過す此間を試驗生即ち喝食と稱せり其後保護者は之を學友に紹介し仲間入りをなさしめ姓名を僧錄に登錄して捺印せしめ袈裟には銀貨の如き徽章を附し削髮して嚴格なる宣誓式を擧げ始めて法名を得るなり而して自費若くは兩親の費用を以て寺僧全體に茶の饗應を爲す斯くて初めて僧見習即ち沙彌となる尙ほ進んで住職となるには更に十二年間の研學を爲さゞるべからず其課程は加持祈禱に關する書籍、高僧傳及び夥多の經典より成れり試驗は頻繁にして公開の問答、論難に勝を得ざるべからず此の問答法は頻に之を行ひて其修行を研く一方法とせり時としては二千人の學友たる聽衆の目前に直立し一生懸命の勢力を奮ひて問答を爲さゞるべからず但し眞に熱心に此問答法により學を研き膽を練るものは少くして多くは唯形式的に之を行ふに過ぎざるなり然れども「喇嘛の食物を喫するものは鐵の顎を要す」との諺を玩味せば自ら幾分の消息を發見すべきなり

第十五章　交通

西藏と其隣接諸邦との交通及西藏内各地の交通は共に地形上頗る困難にして高嶺雲に聳へ大河空に横はるの處僅に覺束なき道路を有するのみ故に崎嶇嶮峻固より砲車輜重の通する所にあらず運輸は悉く駄獸の背に倚らざるへからす今其概略を擧ぐれば左の如し

第一、支那本部方面よりするもの

一、四川省成都府より打箭爐を經て拉薩に通するもの

二、甘肅省西寧府より青海蒙古を經て拉薩に通するもの

三、雲南省大理府より西藏洛隆宗に出て拉薩に通するもの

四、新疆省より後藏の北部喀齊高原を經てて薩に至るもの

第二、印度方面よりするもの

一、揑伯爾方面よりするもの

二、大吉嶺方面よりするもの

甲、大吉嶺より拉薩に至るもの

乙、太吉嶺より札什倫布に至るもの

三、不丹（ブータン）の都府達旺（イダヒン）よりするもの

第三、克什米爾（カシミル）方面よりするもの

以下右の主なるものを詳說す

第一節　支那本部方面よりするもの

其一、一、四川省成部府より打箭爐を經て拉薩に通するもの

此道路は支那本部より西藏に通するの正驛とす沿道驛舍の設けあり其驛站及里程左の如し但し成都より打箭爐に至る間は全く支那本部に屬するを以て驛站を除きて單に治道景況のみを擧ぐ

イ、自打箭爐至拉薩驛站

打箭爐	
折多	四〇（清里）
提茹	五〇
阿娘壩	四〇
東俄落	五〇

高日寺	二五(清里)
臥龍石	六〇
八角樓	四〇
中渡汛	五〇
麻藍中	四〇
翦子灣	四〇
西俄落	四〇
咱瑪拉洞	四〇
亂石窖	三〇
火竹卡	三〇
火燒坡	四〇
裡塘汛	三〇
頭塘(公徹塘)	五〇
乾海子	四〇
拉爾塘	六〇

喇嘛了	二五
二郎灣	五〇
三壩	六〇
松林口	五〇
大所(大翔)	五〇
奔察木(崩又木)	九〇
小巴冲(長壩冲)	三〇
巴塘	五〇
牛谷渡	四〇
竹巴隴	四〇
公拉	四〇
空子頂	五〇
莽里	四〇
邦木拉	六〇
南墩	四〇

占樹　四〇
普拉　四〇
江卡汛　六〇
大壩（澡河）　五〇
梨樹　七〇
阿拉塘（阿布拉）　六〇
石板溝　三〇
阿足　六〇
噶爾塘　五〇
洛嘉宗　四〇
俄倫多　三〇
乍了汛　四〇
雨撒　二〇
昂地汛　五〇
噶々（空撒）　一五

汪卡　五〇
巴貢　五〇
窟隴山　六〇
包墩　四〇
猛卜（猛舖）　六〇
小恩多　二〇
察木多（昌都）　六〇
俄洛橋　三〇
浪蕩溝　三〇
裏角塘（過角塘）　三〇
拉貢（納貢）　六〇
恩達寨　六〇
恩達寨　二〇
牛糞溝（鐵匠溝）　四〇
河塘　七〇

瓦合寨　二〇
麻里　七〇
嘉裕橋（翻馭橋）　五〇
鼻奔山根（地貢大山）　三〇
洛隆宗　五〇
紫駝（曲齒）　一二〇
碩板多　四〇
博密喇嘛廟（中義溝）　五〇
巴里郎　六〇
拉子　一〇〇
邊坝　六〇
母達廟　七〇
察羅松多　五〇
朝吉宗　五〇
大窩　五〇

阿南多　五五
阿關卡　四〇
甲貢塘　五〇
大板橋　四〇
多洞　四〇
擦竹卡　五二
拉里汛　六〇
阿咱　六〇
山灣　九〇
常多塘　五〇
寗多塘　五〇
拉松多　四〇
江達汛　三〇
柳林野（順達）　五〇
鹿馬嶺塘　六〇

推達塘（磊達）	一〇六
烏蘇江	六〇
仁進里	六〇
墨竹工卡	七〇
南摩（拉穆寺）	五〇
占達塘	二〇
德慶	二〇
栄里	二〇
拉薩	二二
合計	四千九百四十六里

四川省成都府より打箭爐に至る里程約九百七十里（清）

ロ、自成都至打箭爐沿道

成都南門萬里橋を過ぎ四十里にして雙流縣に至る此地方沃野平坦なり南林舗、黄水河、羊馬河、西河（即ち岷江）を過ぎ五十里新津縣とす道路平坦なり又五十里にして涉江河に至り六十里にして功州に至る君平の故里なり城内に卓文君の當爐處、司馬相如の讀書亭あり南門を出て南河

大渡を過ぎ大通街に上り土地堡に至る小坡に上り臥龍場を過ぎ四十里にして大塘埔に至る蒲江縣の界なり乾溪舗より萬江坡、下田坝を過ぎ五十里にして橋を過ぐれば即ち是れ白鈷又百丈縣と稱す明の洪武年間雲南道を開く糧道の不通に因れり益州の牧藍玉は石を鑿け道を開く計費萬餘工即ち東北の萬坡是れなり後に縣に改め站を此に設く東三里に一穴あり周圍百丈あり此を以て名を得たり今訛り呼て白鈷と爲す新店古城和尚腦を過ぎ共に五十里にして名山縣に至る即古の嚴道縣なり縣西十五里即蒙山なり山頂に茶數株あり進上の物と爲す茶譜に曰く山は五嶺あり頂に茶園あり中頂を上青峯と曰ふ所謂蒙頂なり頂上に甘露井あり其水異香あり二十里にして燒橋を過ぎ坡に上れば即ち金雞關とす山崗大ならず上に關帝廟を建つ山を下り三十里にして雅州府に至る即ち古の靖府なり其より大河青衣江を過ぐ古名は平羌渡今呼て官渡と爲す昔諸葛武侯羌を此に平く故に名く其地黄蓮雅茶を產す南門を出て嚴道山に上り靈官堂を過ぎ涼水井に下り六十里にして觀音舗に至る山谿の間に在り門を出て遠からず飛龍關に上る十五里山の頂上に古刹あり龍興寺と名く山を下れば煎茶坪　蘇柳灣下脚下高橋關なり山脚を走り大廟を過ぎ七縱河に至る其水瓦屋山下に在り發源す船を泛へ岸に上る共計六十里にして營經縣に至る古名孟州なり二水環繞し昔孟獲武侯の爲めに初めて擒にせらるゝ所なり城西に宋節度使李泌の籌邊樓あり今改めて東嶽觀と爲す山脚下より塹に順ひ土地橋を過ぎ山に上る古城と名く乃ち孟獲の舊城に

して武侯穴を穿ち城に入り獲を擒にせし所なり形勢尙ほ存す而して城中所出の穴は已に一塘を爲し不時に霧を出し雨を下す名けて古城烟雨と爲す其地黃茶を產し又太湖茶、觀音茶あり亦進上の物とす四十里鹿角堰水池舖を過ぎ簿口站に至り溝に順て進み大渡橋、芭房、安樂堰、黃泥、舖を過ぎ共に七十里小關山に至る山谿の內に在り晴明の日少く陰雨の日多し迷霧霏々陽境にあらざるに似たり溝に沿ひ直に上ること約そ十里大關山と名く又九折坡と云ふ上に關帝廟を祀る故に關上と名く明末に張獻忠の叛兵雅に屯し西南一帶を犯さんと欲す漢源街の民李華亭なるものあり年七十餘なり鄉兵を率領し連りに獻忠を破り七たび九坡の上に戰ふ坡下皆守隘あり故に分て大小關山と爲す江を過ぎ下ること遠からずして復溝に沿ふて上る即ち丞相嶺なり昔武侯屯兵の處なり本と功僰山と名く其山冬春は雪凌甚だ大にして險滑にして行路難し曲折盤旋直に霄漢に揷む果親王此を過ぎ詩を題して曰く「奉旨撫西戎冬登丞相嶺古人名不朽千載如此永」山を下れば象鼻子と名く二十四盤あり洪武年間金川侯曾震修整して以て行旅を通ぜり羊棒門を過ぎ兩路あり一は牛屎花椒坡に至り一は清溪縣城に走れり總計七十里にして清溪縣に至る即ち唐の通望縣、隋の朝陽縣なり城の形像は下山無頭龜の形の如し南は大田司土の界に走り漢源街に至り建昌に通ず即ち古の漢源縣なり漢の時馬岱鎭守す今尙ほ馬姓の土人あり即ち其後なり大田は縣治を離る三十里にして大井水田あり萬歷間改設して黎州千戶縣と爲す署內に黎椒樹あり進上の物と爲す俗傳に唐僧取經の時椒杖を此に揷し而して生ずる者と云ふ地は曲々烏に近し北門を出て坡を下り溝を過り山に上り塘に順ひ富庄に至る共に七十里にして泥頭汛に至る溝に順ひて進み老君劒を過ぐ對巖に係る上に水あり急にして劒の如し故に道路崎嶇たり其地人物衣冠又是れ一種にして名けて猓猓と曰ふ乃ち昔の羌人なり三十里にして林口に至る溝に順ひて進み坡に上り頭道橋を過ぐ堆卞あり橋を過ぎ溝に由り遠からずして飛越嶺に上る陡峻なること相嶺に過ぎ終年積雪飛霜あり下に層雲を視る天際に在るが如し山頂中に隘古剎關帝廟あり隘を過ぐれば即ち山を下る存足の處なし共計三十里にして化林坪に至る「即ち泰寧營なり果親王詩あり云ふ泰寧城到化林坪峻嶺臨江鳥道行天限華羌開此地、塞垣宣建最高平」山を下り二十里にして隆堰舖を過ぎ右に走れば沈村土司住牧の處たり左邊より少河を過ぎ冷磧に行く共に三十里にして冷磧土司住牧の處に至る五十里にして爐定橋に至る地稍溫暖なり河は即ち瀘水なり向に橋梁なかりしか打箭爐を開くの後始めて鐵索を建つ聖祖仁皇帝御製の碑文あり左に勒石す橋の東西長さ三十一丈一尺寬さ九尺にして九股を施す索の長さは橋身より八丈を餘す木板を上に覆ひ鎭ずるに梁柱を以てし翼するに扶欄を以てす橋名を御賜し瀘定と曰ふ橋を過ぎ十里にして咱里と名く土司住牧の處なり二十里にして大烹堤に至り小坡に上り下ること十里にして冷竹關なり溝に入り即ち大崗に上る山は陡險なり唐提督の兵此に阻せらる山脚河邊に尙ほ兵營の基址あり曲折

して上る十里にして黄草坪と名く果親王詩あり曰く「已過連雲棧幾重、如何首險大崗峯、行人湧々生勞頓、萬水千山不易逢」と下れは即ち釵花扁なり其路窄險にして峭壁の上に在り木石を以て偏橋を培砌す一たび失足れは則ち形影全く失うに至る之より二道あり一は十里にして頭道水に至る此舊路已に頹る一は冷足關對岸の新道路に由り山岸に沿ひて行けば峻嶺江に臨めり約そ二十里にして頭道水に至る高崖峽峙し一水中に流る店房舖戸半は山麓に在り半は水邊にあり聲雷の如し山後に瀑布あり飛湧して下る果親王詩あり曰く「微雪竪壁挿青天一線中通鳥道難馬過溪頭蹄帶雪斷崖千尺掛龍泉」と此より楊柳深坑一路に由り七十里にして打箭爐に至る

打箭爐は四川の最西部にして往昔は此地を以て西藏との境界となせり氣候寒冷にして三山環繞し二水竝流す相傳ふ武侯此に於て箭を造る其匠人郭姓乘る所の一羊已に仙去すと廟あり爐にあり形容古怪なり夷人敬して之を畏る爐城は只三門あり墻垣なく出水を以て城郭となす乃ち口外各種番夷貿易の總滙市茶の要區にして人烟輻輳し市井繁華なり珠寶等の物支那本部に無きものにして却て此地にあるものあり人物衣冠風俗言語又自ら同しからす居る處の屋は外は虎皮石を以て砌成し内は木を以て柱となす或は三五層等しからす名けて碉房と云ふ能く銃砲の射擊に抵抗す耕す所のものは荳麥青稞にして牧する所のものは牛羊食ふ所のものは黄油、炒麵、乳、茶、羊肉にし飲む所のものは青稞釀成の酒なり土人名けて冲と日ひ又鹵ひと云ふ終年皆冷食とす信する所のものは喇嘛にして病て服藥せす唯喇嘛を延き經を念し黄油燈を燃し蠻香を焚く旋ち蠻經を念し旋ち蠻酒を飲む供する所のものは則ち牛肉花果の類なり

ハ、打箭爐より巴塘に至る沿道

打箭爐より北行し河に順て進み遠からす二道橋と名く溫泉あり上に房屋を建つ土民漢人共に沐浴す土人の婦を名けて紗布と曰ふ又阿家と名く共に此處に沐浴す海子山を過くれは即ち惠遠廟なり俗に噶達城と名け通志に折多と稱す各部番夷並に西寧青海西藏の各地に通するの要點たり果親王惠遠廟の詩に曰く「曙色歡欣動列屯、西南蜀國共朝之、滴蘇熬芋充供佛、宣德還稱百樂樽」、南門を出て拱竹橋に走り沿山に順ひて上る約そ二十餘里にして頂に達す折多山と名く高しと雖甚た險ならす秋冬は積雪山の如し山崗に由り進めは惠遠に往く舊路なり山下約そ二十里にして人戸柴草あり食物なし共に五十里にして提茄塘に至る人戸柴草あり五十里にして納哇に至る路險ならす居夷あり烟瘴あり溝に順ひて進み四十里にして阿娘塁に至る地方頗る富豪なり其より瓦七土司官寨を經て俄松多橋を過き東俄落に至る碉房柴草あり其より約六十里にして高日寺大山に至る路險にして深林密箐し人烟を見す冬春の候雪深く路を失することあり山中喇嘛寺あり高山寺と名く

臥龍石は一驛なり人戸碉房あり亦燒料あり八角樓は漢人の店舗土民の家、碉房等を見る其より中渡河口に至る地方溫暖なり東西の兩岸皆土人の住牧せるあり往來の官吏は此地に於て烏拉人夫を(烏拉とは土人の人夫馬牛を云ふ)換ゆ雍正十三年外委一名兵數名を留め渡口を監視す官設の渡船四隻水手十名あり土人の渡るものは牛皮船にして其形龜に似て波に隨ふて滾動す冬春水落つる時は船を以て浮橋を架し夏秋は渡船す水勢洶湧險甚たし昔武候兵を將ひて此地に至り轉して南行せりと云ふ河を過き深林山溝を進み麻蓋中に至る人戸二三あり剪子彎を過き大雪山あり撥浪工山と名く冬蟲夏草を出す山を下り西俄囉に至る宿站なり昔年公の築ける城堡あり其より更に雪山を越へて咱喁納洞に至る其より賊首を梟示すると稱する人頭灣を過き亂石窖に至り更に不毛の地を經過し火竹上に至る宿站なり漢人土人房屋兩三あり其より一橋を過き河に浴ふて上る約三十里にして坡に上る火燒坡なり坡を下りて裡塘に達す

裡塘は宿地なり打箭爐よりの人夫馱馬は此に於て更換す地甚た寒冷にして道路散漫なり正副安撫土司三員を置く商民千余戸あり喇嘛寺院あり山原平濶にして夏日常に雪炮氷彈を雨にす地寒かき故に五穀を生せす徽しく燃料(柴草)あり毎年喇嘛の學生は八月に於て散館し回て朔竹鄉城道塊と雲南中甸麗江と接壌の地方に至り十月に於て入學す青稞麥糧を携帶し來り售賣す昔し年公堡を築き官兵を安設せんと欲せしも未た行はす現今糧務文職一人並に武官を置き漢兵を統率し駐防す

其より頭塘に至る山凹中にあり寒風凜冽として肌を刺す凹口を上れは一乾湖あり其より拉爾塘に至り小河に沿ひ喇嘛了に至る宿站あり此處に烏拉人夫を交換す其より二郎灣に至る吳王廟あり三霸を過き大雪山を踰へ奔察木に至る山を下り小塊冲を越へて巴塘に至る

巴塘は一大市驛なり地方遼濶にして沃野千里あり東は瓦述裡塘に接し南は滇省結黨中に連り北は瞻對桑昂帮德爾格或地方に至り西は南墩に至り西藏と剖界す正副安撫土司二名管糧務文官一名を置き又武官あり駐防す地方溫暖にして各種の瓜菓を出す葡萄、核桃を產の最となす

二、巴塘より察木多に至る沿道

一小山を越へ江に沿ふて行き河を渡て竹巴籠に至る氣候暖溫にして巴塘に同し河は金沙江の上流にして乳牛山に發源し巴塘より雲南永北一帶に至り復た叙州府に迂回す渡場に大船あり巴塘より竹巴籠まて舟行一日にして至るべし

工喇(公拉)より西北進し山を越えて空子頂に至る沿道葡萄核桃を產す莽里に至り烏拉人夫を換ふ那木塘を過き南墩に至る宿站あり之を支那本部と西藏との交界とす烏拉人夫を換ふへし寺院あり漢人寺と名く清朝の巴塘を招撫したる後に建つる所とす故に其山を寧靜山と名く分界の碑あり上に「西藏雲南巴塘分界」と鐫む字已に模糊たり維西の界に交る古樹を過き崎嶇たる一山を

越へ普拉に至り又山を過き江卡汛に至る宿站なり烏拉を換ゆべし營辨碉房柴草あり又臺站汛辨兵あり駐防す此一帶は猶ほ桑昂番夷に連る其より緣河を過き大雪山を過く雪凌浩大にして行步艱難なり梨樹を過き道路稍大となる阿布拉を過き石板溝に至る臺站官兵あり烏拉を換ゆべし河に順ひて下り雪山を過き阿足に至る烏拉を換ふ洛嘉宗より乍了に至るの間山路崎嶇たり乍了汛は宿站なり營官碉房あり人民頗る多し大寺院あり即ち札雅廟なり烏拉を換ふべし民俗不良搶刼に慣る雨撒に至るの間雪山を過く路道徒險にして石多し草あり柴なし其より昂地汛に至るの間大雪山を過く山高く徒險崎嶇にして雪多く積み烟瘴嵐氣あり其より空撒に至るの間大雪山あり路多く曲折す溫泉二あり汪卡に至り烏拉を換ふべし巴貢より兩大山の羊腸たる道路を過きて包墩に至り河に沿ひて又險峻なる山路を過き猛舖に至る其より山に沿ひて走り河邊に抵り河に跟て上り河を過く大橋あり四川橋と云ふ又河に順ひて下り遂に昌都に至る即ち察木多なり察木多は古名を康と曰ふ此地は西藏川滇の交界にして南は狆擒生蕃に通し北は西寧、玉樹、納克書地方に通す二水圍繞し北河を過き路の四川に通するを四川橋とし南河を過き路の雲南に通するを雲南橋となす地勢高下兩臺あり其兵營及漢人の舖戸は河の上流にあり高一臺は即ち喇嘛寺にして寺內には胡圖克圖大喇嘛並に倉儲巴ありて此に住す昔雲南提皆を置き後改めて四川に歸し臺糧務一名を設け糧務を管理し游擊一名兵を領して駐防す

ホ、察木多より碩般多に至る浴道

喇嘛寺の南河を過き俄洛橋に至る其より路稍平に浪蕩溝に至る過角塘を過き納貢に至るの間山險にして路狹く雪凌に遇へは通過困難なり恩達より鐵匠溝に至るの間山嶺を踰ゆ雪凌最も甚たし此山四雪山に相連り烟瘴甚た惡し行步或は上り或は下り盤旋百余里人烟を見す鳥獸亦至らすと云ふ行旅の人畜多く此山中に凍死するものありと云ふ路あり雲南の界に通す河塘より瓦合塞に至り烏拉を換ふ山を下り麻里を經て河邊至り河に跟て上る橋を渡り嘉裕橋となす土人之を三覇橋と云ふ大橋の謂なり其より地貢大山に上る山頗る險にして路は蛇行の如し山を下り溝に順ふて洛隆宗に至る宿站なり正副の地巴あり碉房柴草あり烏拉を換ふべし紫駝に至るの間山を越ゆ此附近青金石を出す其より碩般多に至る碩般多は宿站なり正副第巴碉房柴草あり烏拉を換ふべし路青海玉樹に通し緊要の地たり人戸稠密寺院整齊す此地馬鞍を出す最も佳なり

ヘ、碩般多より拉薩に至る沿道

中義に至るまて道路稍平之より巴里湖に至る一山あり其より拉子に至るの間山甚た險に積雪瘴氣あり拉子は宿站より碉房柴草あり亦馬鞍を出す其より山を越へて邊塋に至る烏拉を換ふべし丹達は沙工拉とも云ふ山脚に廟宇あり傳へ云ふ昔糧務官主僕二名あり此に凍沒し後靈應多く番人廟を立て像を塑して之を祀る此處を過くる官兵商客之を禱るに默佑平安ならさるなし人皆敬

畏す其より朗吉宗に至るの間斜坡に踉て山に上る甚た險にして夏未秋初の候は尚ほ行くへし其他は雪凌甚た大に山凹の中雪深さ數十丈あり倘し失足すれは人畜俱に影を見す山梁の上雪積て城の如く之を過くるの人馬雪を踏て槽を成し若し隆冬に遇へは堅凌にして故なきも春盡夏初の候一たひ鎔消に遇へは崩雪勢ひ山の傾くか如く頗る危險なり此山に走獸飛鳥を見すと稱す朗吉宗より大窩に至る二條あり一は山路により窄險一は谷地にして稍平坦なるも夏日は水漲り行くへからす其より阿蘭多に至る間道路崎嶇たり阿蘭多より甲貢塘に屋るの間一山を越え此山醉馬草を生す驟馬若し之を食すれは立時に醉倒す多洞に至るの間道路崎嶇たり其より擦竹卡に至るの間羅卜公拉嶺を過く峯高陡にして甚た險なり山凹中に一湖あり寛さ約七八里長さ十里餘あり冬春には凍て平地の如く履て大道を成す行人其湖なるを知らさるものあり夏秋の候には邊に沿て行く其路最も險なり擦竹卡は鹽水を出す山を下りて拉里に至る四通八達の地なり是より阿咱に至るの間拉嶺を越ゆ山甚た險にして四時氷雪を頂き不時に吹風ありて山頂の積雪を刮下す山灣を過き常多に至るの間瓦子山を踰ゆ四時皆冬して春夏なし山皆不毛にして畑瘴多し其より寧多塘を過き江達汛に達す

江達汛は宿站なり二水圍繞し地方險要なり西藏咽喉の重地とす鳥拉を換ふ

順達を過き鹿馬嶺を路へ磊達を過き鳥蘇江に至る河大なるも甚た險ならす此より以西西藏至る道路稍平なり仁進里墨竹工卡を過き拉穆を經て德慶に至る其より茱里を經て拉薩に至る

拉薩は地方平坦にして一水中に流れ東より西南に流れ浴に水朝西流と云ふ即ち此なり四山環拱して城の如し風を藏し氣を聚め四時溫暖なり冬來雪少く春至れは花開き桃紅に柳綠りに古柏喬松僧舍梵林あり風景甚佳故に西方極樂の名あり

ト、拉薩より後藏の首府扎什倫布に至る驛站並沿道

拉薩より扎什倫布に至る驛站は左の如し

拉薩	四〇清里
登龍岡	四〇
業黨	四〇
僵里	五〇
曲水	二〇
錢索橋	三五
岡把澤	四〇
馬隴	六〇
拜底城	

捷魯	五〇
朗噶孜	五〇
翁古	五五
熱龍	七〇
谷洗	七〇
江孜	七〇
人進岡	五五
白浪	五〇
春堆	五〇
扎什倫布	四〇
計	九百十五清里

拉薩を發し凡そ四十里にして登龍岡に達す一路平坦にして沿道居民房舍あり以て宿泊すへし此間米底克藏布河を渡る二回皆橋梁を架す米底克藏布河は雅爾藏布江の支流なり又四十里業黨に達す此れより優里を經て曲水に至る拉薩より優里の間一路河に順て而して行く特に崖壁の中を經過すと雖亦甚た險ならす曲水は要隘の地にして人烟稠密頗る柴草に富む此地一帶沃野平原百里の間に綿亘し物産少なからす道路亦平坦なり十五里鐵索橋に至る渡すに木船を以てす水勢洶湧甚た險なり三十五里岡把澤に至る房舍柴草あり噶穆巴拉嶺を上下す山路險峻なり四十里馬隴を過く柴草稀少にして宿するに堪へす又平地を行く五十里拜底に達す三十五里葉賽を過き十五里捷魯に至る道路岐れて二となる一は江孜に達し一は然巴に達す然巴は春夏の二季商買必經の所とす冬季は雪凌阻滯行旅全く往來を絶つ此れより朗噶孜、熱龍、谷洗、江卡等の諸驛を經て白浪に至る道路概ね平坦にして峻山高嶺を踰ゆるの難なく且沿道土地膏沃にして柴草肥茂唯谷洗の一驛土地稍荒涼にして人烟を見す白浪より迤邐して而して進み春堆を經て扎什倫布に達す此路線は拉薩より扎什倫布に至るの本道にして沿道雅爾藏布江の水域に屬し土地肥沃にして柴草に富み且つ概ね平坦なるを以て行旅第一本道を往來する如き困難を感せす此路線に於て要害の地は曲水、巴則、春堆等あり皆江孜以内に在り其迤東には錯納、工布等あり以て之れか蔽障を爲す均しく營管を置き以て地方の民治と兵事を兼管せしむ

又札什倫布より拉薩に至る別に捷徑あり巴則山の南より西北に向ひ仁本一帶の地を經過するものにして此道路に由れは本道を往來するより凡そ近きと二日行程なり此の外更に一道あり即ち札什倫布より路を東北に取り雅爾藏布江を渡り陽巴井の游牧地の經過す沿道十驛あり此道路は本道に比し遠近幾んと相等し又陽巴井より達木蒙古の游牧地に達する一路あり沿道僅に三驛に

して陽巴井より路を東北に取る者即ち是れなり

其二、甘肅省西寧府より青海蒙古を經て拉薩に通するもの

往昔は此道路を以て正驛となせり即ち古來最も舊く開けしものにして唐以來往來皆な之れに依れり清朝に至つて始めて四川省打箭爐を過くるものを正驛とせり此路線に由り北京に往來するには之を現今の正驛に比して其行程稍近し然れども荒涼無人の境を過くると多く時に燃料缺乏の憂あり其驛站左の如し

西寧府より拉薩に至る驛站　里數は詳ならざるを以て之を省く

西寧府　棟科爾　尼雅木溪

以上二站西寧府に屬す

日雅拉山　霍爾豬　霍約爾托羅該

察罕鄂博　哈陶拉　產達圖

珠爾朗章噶　沙拉圖　康昂拉

德爾敦　索呼拉崗　阿里湯泉

都壘淳爾　瑪爾津拉尼　特們庫珠

以上十五站青海蒙古に屬す

格巴噶中　沙巴爾圖　哩布

瑪爾豬札木　机克達昌　拉尼巴爾

錯尼巴爾　喇嘛綽克綽　噶爾瑪湯

噶達蘇赤卷　喇嘛托隆谷　噶嘎

巴產哈喇　喇嘛隆　格巴溫布

斯烏蘇木多　列布拉崗　豬瑪爾

豬那于　直撥多　科科薩里

察倉蘇木多　邢木溪　棟淵

三音庫本　彌多　多倫巴圖爾

伊克安達木　巴噶安達木　鼎谷瑪哩

畢巴魯魚

以上三十一站西寧府所轄土司に屬す

當拉　索克豬卡　尼各拉

琫豬卡　扎噶爾多　香迪

蘇木多　豬那子　察倉

錯瑪喇　巴魯　哈喇烏蘇
鄂多布拉克　机木褚卡　固瓦褚察
仲喇庫　那隆噶爾瑪　錯羅霜
拉康洞　彭多　沙連多
倫珠宗　嘉冲　嘉里察木
薩木多嶺　拉薩

計二十六站西藏に屬す

合計　七十四站凡そ五千清里餘

西寧府より棟科爾を過ぎ青海蒙古の地に入る此地方は游牧種族の居住する所にして雲烟渺茫の間を行く沿道十六站を經て特們庫珠に至る

特們庫珠より以下三十一站は西寧所屬土司の地にして沿道概ね野番族の聚落とす格巴噶中より喇嘛綽克に至る八站は全く寂莫たる無人の境にして哩布站一帶は毒草茂生し外來の牲畜誤て之を食せは斃死するに至る故に行旅者此地を至れは先つ馬口を兜して而して過く且つ此等諸站は概ね黄河の水源なる鄂敦他拉の地に接するを以て泉流百泓土地卑濕なり

當拉より哈喇烏蘇營に至る間は怒江の上流なる哈喇烏蘇河の水域に屬するを以て河水縈洄沿路其支流を渡るもの枚舉に遑あらす殊に降雨の時は河水漲溢し道路泥濘歩行頗る困難なるを以て褚那于より香迪站の間を迂回して間道に由るを常とす

喀喇烏蘇營より鄂多布拉克、札木褚卡を經て玉克褚河を渡り固瓦褚察に達す此れを哈喇烏蘇大道と稱す此地は西藏の咽喉を扼し頗る要害の地にして青海より西藏に至る往來の要衝に當れり故に往昔準噶爾（ジュンガル）の强盛に劣り西藏に進入する皆路を此に取り常に必爭の地たり

固瓦褚察より朗里山を過き仲喇庫に至る那隆噶爾瑪より錯羅霜の間には卓孜山の險あり其より褚康洞に至る四站は阿嘉胡圖克圖の管轄地にして路亦平坦なり

倫珠宗より南し嘉冲、嘉里察木、薩木多嶺等を經て拉薩に達す此間一帶の地は米底克藏布江の水域に屬するを以て河流縱横頗る灌漑の便あり且つ道路概して平坦なり

其三、雲南省大理府より西藏洛隆宗に出て拉薩に通ずるもの

雲南省より西藏に入るに二道あり一は天竺塞、察木多を經るものにして道路稍寛濶なりと雖過ぐる所高山大川多く賊匪出沒し旅人の害を爲すものあり然れとも之を雲南、四川兩省の大道とす一は中甸、卜自立、阿敦子、擦瓦、崩達、洛隆宗を經るものにして此道路は高坡峻嶺多く鳥道羊腸幾んど人跡の到る所にあらず然れども其近きを以て行旅往々此に由る

此間一般の地勢は峻山高嶺北より南に奔馳し怒江、瀾滄江、金沙江等の分水界を成せり其谷地

は即以上諸大河の流域に屬すと雖四方山岳層疊し平地曠原少く而して道路は此萬山環匠の中に貫通し山坡狹隘其甚だしき處幅一尺餘に過ぎず且崎嶇險峻にして固より輜重砲車を通ぜず運輸總て馬背に倚る沿道人烟稀少二三の市鎭ありと雖山間の僻陬なるを以て行旅の需用を充たす能はず殆んど荒凉無人の境を行くに異ならず此間峻山を跋涉し大江を横斷するを以て行旅の困難なる殆んど想像の外にあり而して地勢一般に北より南に傾斜するを以て雲南より西藏に入るには更に困難にして西藏より雲南に出つるには比較的容易なり

雲南より西藏に至る驛站

雲南省城より大理府に至る十四站

右は支那本部に屬するを以て詳說せず

大理府	九十清里	
沙坪	一五	
鄧川州	五五	
三營	三〇	
觀音山	七〇	
劒川州	九河關	六〇
	阿善	五〇
	黃草壩	六〇
	咱喇姑	五〇
	橋頭	一五
	螺螄灣	二〇
	土官村	三〇
	一家人	六〇
	拕木郎	五〇
	小中甸	五〇
	大中甸	五〇
	箐口	二〇
	湯碓	五〇
	泥西	五〇
	橋頭	四〇

卜自立	六〇
杵臼	六〇
龍樹塘	五〇
阿敦子	五〇
多木	五〇
橋頭	六〇
梅李樹	二三〇
甲浪	六〇
喇嘛臺	六〇
必兎	六〇
多臺	六〇
慾臺	七〇
臨米	一一八
喇嘛寺	二〇
江木滾	一〇

札乙滾	六〇
熱水塘	六〇
三巴拉	六〇
浪打	五〇
木科	二〇
寅達	四〇
烈達	五〇
擦瓦岡	六〇
天通	六〇
塔石	三〇
崩達	八〇
雪壩	六〇
魯體南	二五〇
瓦河	二〇
馬里衣	六〇

曉葉桑	六〇
山橋邊	七〇
洛隆宗	四〇
合計	三千六十三里

洛隆宗より拉薩に至る道路は本道に由るを以て之を略す

大理府より鄧川を經て北し劍川に至り更に東北して阿善驛に至る此地は西藏人種聚落の最終地とし此地を以て漢、藩二民の分界とす阿善以南は雲南省麗江府の管轄にして已に支那本部に屬すと雖沿道の居民未た全く藩風を脱せす往々氈帳に棲息するを見る麗江以南は道路驛に隨ふを以て行旅不便を感すると比較的少く沿道村落斷續し麗江以北の如く全く無人の境を經過するが如き事なし

阿善より金沙江を渡り江の左岸に沿ふて木櫛灣に至るの間沿道人烟稀少にして荒源不毛なり

黄草壩より咱喇姑に至るの間道路稍險惡ならざるも此地一帶虎害多く常に村落に出沒し旅人夜行ずべからず

中甸は大小二區に分る相距る五十餘里大中甸は雲南より西藏に至る沿道中の一大市驛にして土人は結黨と稱す居民二百餘戸あり屋舍の結構比皆木材を用ひ彼の帳幕を携へ水草を逐ふて遷徒する者と大に趣きを異にす營官の治所大山寺刹等あり貿易亦繁旺なり物貨を購ふに銀塊を使用し銅錢を用ひす銀塊を秤るに石の輕重を以て銀と相比較し鐵幹の戥子(秤)を用ゆ其分量の如き殆んと支那内地に於て使用する者に倍するを以て旅人往々損失を蒙ることあり然れとも銀塊に代ゆるに煙草、甎茶、針絲等を以て物貨に交換するときは土人喜んで之に應じ銀塊に勝る十倍の價値あり故に旅行者は以上の雜貨を携帶するを以て尤も便なりとす現今此地雲南省の官轄に屬すれとも風俗言語固より同じからず事皆重譯に因て通す故に内地の制度に倣はす土官を置き之を管理せしむ

中甸より西湯確を經て橋頭港に至り其よりト自立に至るの間約六十里は一大山領を越ゆるを以て路極めて險峻崎嶇羊腸たり

ト自立は此附近の大驛にして土人一聚落を成し風俗亦善良なり行旅此に至り飲食起居都て不便を感ぜず唯氣候炎熱初夏已に七八月の候に異ならずと云ふト自立より杵臼に至るの間は頗る森林に富み風光絶佳なり土地肥沃にして耕地多く米麥を產出すと云ふ杵臼より龍樹塘の間は雪山山道を踰越す山甚だ高峻ならざるも三百餘里の間に連亘し樹木蓊鬱林を爲し而して草を生ぜず坂路の傾斜亦緩漫なり沿道過ぐる所一煙を見ず且善良なる飲料水に乏し此地一帶水質極めて惡しく行旅最も困難を感ず龍樹塘より阿敦子に至るの間水濕を帶びたる卑低の地にして濕氣蒸發

し甚だ健康に害あり

多木より江を渡つて梅李樹に至る即ち瀾滄江の上流にして水勢奔注舟筏を通ぜず僅に粗造の浮橋を架し往來に便にすと雖之を渡れば掀播して頗る不安なり傾跌に至らざるも江水橋上を浸し膝を過ぎ恰かも徒涉するに異ならず特に雨後或は暮春雪消の候に至り水量少しく增加せば流勢盪激浮橋忽ち衝斷し最も危險なり土人は竹索を兩岸に絫し木を以て流筒を作り皮條を腰部に緊縛し一流して過ぐ所謂懸渡是れなり百丈の寬さを以て而して命を一索に懸く一たび是を失すれば則ち急流澎湃底止する所無し其危險名狀すべからず俗に之を流筒江と名く行旅竹索の險を畏るゝ者皆浮橋に由ると雖然れども浮橋必ずしも安全なるにあらず危險或は更に甚だしき者あり浮橋の幅僅に六尺餘にして長さ幾んど五十餘丈あり

梅李樹より必免に至る百數十里は又實に絕險なり道路の幅員僅に尺許山間の溪谷にして右は絕壁左は深淵怪石嶮巖傾斜頗る急峻なりと雖階段の循ふべきなく僅に藤葛に附攀して過ぐ騾馬此に至り其險に尠へず往々斃死するに至る路傍枯骨の散亂する者即是なり夏日此處を經過すれば臭氣鼻に觸れ嚮邇すべからず加ふるに此間全く人煙を絕つて以て人は糧を裹み馬は芻草の準備あるに非ざれば此峻路を通過すると難し此一帶の地寒苦非常なるも牛、羊、糌粑等の物產あり

必免より多臺を經て怒臺に至る約六十里の間は怒江に沿ふ其兩側斷崖絕壁にして河岸萬丈附し

て脚下を視れば江流細きこと綫の如し山色亦明媚間々奇勝あり

臨米より江木滾に至るの間小雪山あり約五十餘里の坂路たり其傾斜緩漫なりと雖山下より盤旋して頂上に達するに殆んど一日程を費やす沿道經過する所多く葡萄を栽培す此地著名の物產にして價亦下賤なり白布一尺を以て一二斗に易することを得以て產出の夥多なるを知るべし

札乙滾は沿道人民の聚落を成す此地多く糌粑を產す貿易品の一なり此處より熱水塘に至るの間怒江に沿ふ兩岸峻壁對聳し窄徑僅に通ず烈達を經て擦瓦岡に至る

擦瓦岡は營官の治所にして此附近の大驛なり

擦瓦岡より塔石に至るの間沿道多少の人家ありと雖全く山間の僻村にして荒寥殆んど無人の境に近し且つ此地方一種の毒草茂生し牛馬之を食すれば皆昏醉して用を爲さず所謂醉馬草是れなり此處を通過するもの馬口を銜して過ぐべし否らざれば不測の害を蒙るに至る

雪壩山は一大谷地にして四方開濶牧草繁茂し頗る牧畜に適す土人之を以て生を營み多く牛羊の二種を牧すと雖風俗善良ならず輙もすれば出でゝ旅人を刼すことあり此地より瓦河に至る間全く人烟を絕ち屋舍帳幕の宿すべきなく行旅皆水草を擇び露宿するを常とす

瓦河より洛隆宗に至るの間沿道村落處々に散點し頗る樹林に富み土地亦膏沃土人の耕種するを見る

其四、新疆省より後藏の北部喀齊高原を經て拉薩に通ずるもの

本道路は新疆省于闐より蘇格特、伊南木拉、巴喀爾を經て後藏の北部に入り舒倫沙拉、布喀托羅海を經て前藏に入り査古特湖附近を經て拉薩に通ずるものなるも其詳を知るに由なし暫らく後日の研究を待つ

第二節　印度方面よりするもの

其一、揑伯爾方面よりするもの

揑伯爾（チベル）より西藏に入る道路四線あり一は揑伯爾の首府噶多曼（カトマンツ）都より熱索橋を過ぎ濟隴に出づるもの二は噶多曼都より朗卡格密を經て木薩橋より聶拉木に出づるもの三は葉楞城より絨轄に出づるもの四は鄂博より喀達の東南に出づるものなり此四道は廓原（カルカ）喀の地を經るものにして往昔廓爾喀の西藏に侵入する皆此路線に由れり今其主なるものを擧ぐ

揑泊原の首府噶多曼（カトマンツ）都より机什倫布に至る驛站

噶多曼都		利斯赤盤薩	聶拉木
拉闌拉	定日	哥克阿爾	
薩伽	什穆闌	札什倫布	

噶多曼都より利斯赤盤薩に至る間行路著しき困難を感ぜず時に或は甚だしき低窪地ありと雖谷地は極めて平夷なり此路線に於て曷拉瓦第（エラワディ）河に注入する坤河を横斷す此河は源を其西部の雪山に發するものにして水源の附近に五個の小沼あり

利斯赤盤薩より聶拉木間の道路は布扎哥什河の右岸に沿ふて直徑僅に二十五哩に過ぎずと雖旅行者の説によれば該河を横斷すると前後十五回に及べりと此中三回は鐵橋を渡り十一回は木橋を渡りしに其短かきは二十四歩長きは六十歩に至る其中河水巖洞の間を貫流するあり此處は兩岸相臨て密接し僅に二十四歩の小橋を以て横斷す此邊地勢嶮峻なると實に名狀しがたし鐵橋は頗る堅牢なるもの丶如しと雖其構造甚だ粗惡なり其法巖石を鑿開して之れに鐵橋を嵌入し其上を通過す危殆言ふべからず其蝠は一尺八寸とす最も狹隘なるものに至りては僅に九寸に過ぎず而して其長さ二百五十八間あり其側面或は嵯峨たる岩礁あり或は斷崖絶壁の如きあり而して兩岸高きこと大約一千五百尺にして橋下の碧流混々として狹窄なる河底を過ぎ奔流電激石を搏ち岸に觸れ水勢轟々魂を消し眼を眩ます蓋し山路の險惡なる此の如き者甚だ稀なり此に至て駄馬犀牛も通過する能はず旅人の行李は僅に羊背に籍て運搬するを得實に不便と云ふべし又一の間道あり其險惡前者に讓らざるも其連續せざるを以て行人稍艱難を覺へず

聶拉木は後藏南陲の一都府にして海面を拔く一萬三千九百尺に位置し稍繁盛の區にして近隣諸

國人の來て貿易に從事する者少なからず此地は國疆に接し揑伯爾より西藏に至る最効の部落にして頗る要衝の地たるを以て出入の行旅を檢査する甚だ嚴密なり此地より拉蘭拉間は皆山道にして海拔一萬八千四百六十尺沿道常に殘雪を見る

拉蘭拉より定日に至る間は曠漠たる平原なり定日は後藏の一都會にして海拔一萬三千九百尺定日に於て合するの一支路あり即ち揑伯爾より濟嚨、絨轄を經て來るものなり此道路は最も便利にして良好なるも官吏にあらざれは通行を許さず

定日より定日河を渡る木橋あり長さ七十五歩あり此附近に薩伽の城塞あり地方官此に駐扎す

哥克阿爾は阿蘭河の支流定日楚河の左岸に位置す之より薩伽に至る間は阿蘭河の水域に屬するを以て道路は河流に沿ふ

薩伽は市街繁盛買賣稍盛なり海拔一萬三千九百尺なるも善く土地を開墾し到る處耕耘を施さゞるなし此より什穆關に至るに薩布楚河を横斷す其幅六十五歩水深四尺北流して雅爾藏布江に注入す是より札什倫布に至る路傍村落處々に散點し田園相連れり

其二、西金（シキム）方面よりするもの

イ、大吉嶺（ダージリン）より拉薩に至るもの

此道路は比較的安全にして東印度より西藏に入るの孔道たり

商旅の往來皆之に由る即ち大吉嶺より三日行程にして塔西蘇登（タシスドル）に至り其より亞東に出て之より江孜を經て約十七日行程にして拉薩に達するを得べし此間約二千里峻山崇嶺にして坦途なし險隘の處僅に單騎を通るあり

亞東は印度より西藏に入るの關門にして明治二十八年互市場となけり關門頗る嚴にして往來の人必す路票なきものは出入を許さす　明治卅三年亞東關を通過せし荷駄は總計五萬千五百八十頭なりと云ふ

ロ、大吉領より扎什倫布に至るもの

大吉嶺より扎什倫布に至る驛站左の如し

太吉嶺	阿瓦坦		噶布里
達布朗	托布嘉		瓦爾朗春
坦拉噶	達什拉克	沙拉	
拉麻洞	達什赤蘭	寧克第	
塞城	達爾札	伯爾哥赤	
札什倫布			

大吉嶺より西行し揑泊爾に入り阿朗河の支流に沿ひ北に轉じ喜馬拉山脈を横斷して西藏に達す

瓦爾朗春と坦拉噶の間に的布達山道あり此山道を經過して坦拉噶に達するに殆んど二日間を要す山坡嶮惡にして此れより北部は地勢漸次に高隆し且不毛にして人烟を絶つを以て預め食物薪材等の準備を爲し供給に充つるを緊要とす此山道は喜馬拉山脈の中にあり山勢雄峻にして西より東に向て奔馳し拉泊爾及西藏の分水界を成し夏日尚白雪の皚々たるを見る

達什拉克は此間の大驛にして「ポーチャ」種族の聚落する所、阿蘭河支流の左岸に位置す地勢高峻海面を拔く一万五千尺あり此より嗟拉喇道を横斷し沙拉村に達す一小寨村にして數僅に五十此地一帶は定結營官の管轄に屬するを以て定結より官吏を派駐し旅人の行處を檢査する極めて嚴密なり此れより拉麻洞に達す人家五十戸山間の僻陬にして固より行旅の需用を充たす能はず大吉嶺より此に至る沿道は田園甚だ少なく僅に少許の蜀黍を耕やすを見るのみなりしか輓近此地處々に田圃相連り大小麥及び蠶豆を播種し農事稍見るべき者あり附近の村落も亦土地を耕作し人民能く稼穡に勤勞せり此地は海面を拔く一万三千二百尺阿朗河の水域に屬し沿道の村落皆諸河に注入する支流に瀕し頗る灌漑の便あり氣候亦稍溫暖なり

拉麻洞より達什赤朗の間丁吉拉山道を經過す達什赤朗よりは西金（シキム）の境内にして路線は哥穆洞湖の西より北を繞り寧克什村を過ぎ再び西藏に入る寧克什は西金の一小村落にして人家僅に數十戸居民好て犬を養ひ常に其多數を誇る此れより塞城に至るの間に溫泉あり硫黄を含蓄す四個の浴槽を設く周回各々三十尺深さ十三尺能く疾病を療するの効能あり浴客常に輻湊す此地には犀多く群を成し能く人に狎れて驚かす亦害を爲さず土人は溫泉の守護神として之を尊敬せり此より地勢漸く高く拉克朗喇山道に至れば一萬六千尺となる沍寒肌を刺し沿道處々に氷塊の層疊するを見る此山道は西金と西藏の國境に在るものにして此を踰すれば即ち西藏の地なり寨城近傍は田野善く闢け雅爾藏布江の支流灌漑の便を利用し治岸村落處々に散點せり塞城より札什倫布に至る道路は達爾札より伯爾哥赤の間は喜林山を越ゆるを以て積雪路を沒し稍險惡なりと雖此を經過すれば頗る平坦にして沿道村落碁布し四望皆田園にして人民力を耕耘に用ゆるもの、如し

其三、布坦（ブータン）の都府達旺（タワン）よりするもの

達旺は布坦の一都府にして達旺河水域に屬する地方の總稱なり此地より西藏に至る道路を概說すれば其大半は山道に屬するも險峻なる部分少く土地の高度も平均一萬二千尺に過ぎず沿道到る處村落あり且薪材水草等缺乏の憂なし此道路は北道の如く荒凉無人の境を過ぐると無く又南道の如く斷崖絶壁を超ゆるの險なく西藏中最も善良なるものとす但哥那城より達旺に至るの間は一月より四五月に至るまでは深雪道路を壅塞し爲めに全く往來を絶つことありと云ふ其驛站左の如し

達旺より拉薩に至る驛站

達旺	三四
般崗	一〇
珠乾	九
札木喀爾莫	五
蒙駝	三
哥那城	三
給巴	一五
塘售	一七
色拉薩	一一
由必	一一
拉克張	一三
喀爾乾	九
達拉拉	六
噶爾麻拉克罕	一〇
必薩獨庫索	一〇
殊克雅休塘	九
鄂穆布	三
澤當	七
獨穆達	六
薩麻野孔巴	一二
哥克哈爾拉	一〇
張珠	一〇
德慶	八
拉薩	一四

達旺より般崗、珠乾、蒙駝、等を經て哥那城に至るの間の道路は山嶺を横斷すと雖概ね善良にして險惡ならす唯冬季は深雪路を阻し行旅甚た困難を覺ゆ般崗驛近傍は頗る樹木に富み驛站も亦林木蓊鬱の中にあり般崗以南の地を總稱し蒙休爾と云ふ言語習俗大に西藏と異なれり珠乾は往來の要衝に當るを以て珠薩政府は此に稅關を設置し官吏を派駐し稅務を管掌せしむ出入の貨物凡そ十に一の割合を以て關稅を徵收す

哥那城は人家凡そ三百稍繁盛なり石疊あり頗る堅牢とす地方官此に駐す拉薩より派遣する所なり此地溫泉數ヶ所あり溫度華氏九十一度乃至百七十度各々一ならず之より給巴村を經て塘售驛に至る道路高原を上り那拉牙母湖畔に沿ふ湖は長さ六里廣さ四里冬季は全湖結氷せり

塘售驛に廣大なる官衙あり官吏は拉薩より駐派す此地海面を拔く一萬五千余尺亙寒異常旅客往々寒氣と風雪の爲めに凍死することありと云ふ本驛に霍爾地方に通する一支路あり隊商の常に往來する所なり

塘售より油必、色拉薩の二村落を過ぎ拉克張に至る自然の登傾斜を爲す土地豐沃到る處耕地あり人民稼穡を勤むるを知る此より達拉塘に至る此間地勢漸く高く一萬六千餘尺に及ぶ此地は雅蘭河と雅爾藏布河の分水界を成せる一大高原にして野生の牛羊群を爲せり原頭には旅客の便を謀り大なる休憩所を設置し以て旅人の休宿に便にす冬季は此高原全く積雪の覆ふ所となり寒威凜冽として堪ゆべからず

噶爾麻拉克罕より珠克雅休塘を經て鄂穆布に至るの間は雅蘭河の水域に屬し道路は其谷地を貫通し寺院村落路傍に散在して地の高度も亦大に減じ一萬一千五百尺乃至二千尺の間に在り珠克雅休拉は大驛にして人家四百戸城塞あり珠克雅休塘より鄂穆布間の道路は善良にして西藏中多く其比を見ず

澤當と獨穆達間に渡場あり雅爾藏布河を横斷す河巾凡そ百五十尺水深二十尺にして流勢急激なり

獨穆達より薩麻野哥穆巴を經過して哥克哈爾拉に至る道路は雅爾藏布河の北を距る凡そ八里平坦なりと雖細沙地に滿ち尺進寸退行步稍困難を覺ゆ

哥克哈爾拉より張珠に至るの道路は步行頗る便なるも五里の間一萬六千六百二十尺の山道を踰越するを以て一路崎嶇險峻なり此地一帶地勢曠遠山河悠々として景色絕佳なり騰格里湖の南には年前唐拉山巍然として聳へ其北方亦峻山高嶺を以て充たし南東は雅拉沙穆布の高峯を見る以上諸山の中最高峯は二萬四千尺に達し頂上千古の雪を戴く之より德慶に至るの間は拉薩河の支流に沿ふ此間道路波狀を成し高低一ならず此地一帶地質極めて膏沃なりと雖土人耕耘の道を知らず天賦の良土を空しく荒蕪に任かすは惜むべし

德慶城は一大市驛にして人家約五百戸此地は拉薩より北京に通ずる國道の中第一の驛站にして人烟稠密百貨略ぼ備はる市街外廓の高地に一城塞を設け以て地方の防備を資る又一大伽藍あり結構壯麗喇嘛僧三百之に住す之より拉薩に至る道路は拉薩河の上流を横斷し數村落を經過す

第三節　克什米爾方面よりするもの

此道路は西藏の北部を貫通して拉薩に達するものにして其方向西より東に奔り過ぐる所概ね海面を拔く一萬數千尺以上の高原にして驛舍の設けありと雖蕭索たる荒村に過ぎざるを以て需用供給兩ながら便ならざるのみならず時に或は全く荒凉無人の境を過ぐることあり故に行旅の不便を感ずること少なからず其驛站左の如し

諾和	一三里
尋噶	六
給査喀	一三
喇嘛度獨穆	一四
布襄	一六
察布克仁噶	一四
岡克尼珠密庫	二〇
岷達穆察喀	二一
雜察布哥	一〇
雜察布	一二
珠密克	一一
哥度爾藏布	一一
比蘭察噶	一三
同茀二驛	六
潘布喀部	一三
希錫克察喀	一三
同茀二驛	七
尼穆哥察喀	一七
同茀二驛	五
休瑪哥	一二
田噶爾	一六
曼一哥	八
納林湖	一〇
雅喀爾	八
薩克赤	一〇
法朗牙克達	五

江度休珠 一〇
重瑪爾 一一
達倫噶爾 一三
哥淋里布 一六
索克瑪爾些拉 一八
索克珠拉克巴 二三
那爾 二〇
熟喀喇戛孛 二三
伯達那克珠喀 二四
朗那克度 一〇
拉克 八
直布喀拉 六
噶剌勳崗 一四
那瓦赤度莫 二三
鄂穆孛 二三

散克爾 一一
珠克拉爾察 四
莫巴仁 六
努哥列 二
嘉爾度 一〇
達克勳 二三
札庫達 一三
噶特馬爾 一四
羅麻噶爾莫 一〇
嘉々拉瑪噶 六
嘉零湖 一一
得那克 一〇
度札穆 二三
先家城 一二
珠巴哥 八

給薩爾　七
雖孔哥　一〇
楊克準　一〇
得　漸　一一
給拉克　一一
布爾珠　一四
朗克嘛裏　一四
受哥珠錫克　一三
拉嘉穆勳克巴　一六
若渡爾孔巴　七
阿噶巴克　九
達克赤　一〇
達克麻兒珠乾　一六
巴克噶爾莫　一六
哥布朗約克嘛　一〇

江　朗　四
珍　孛　一〇
拉　楚　八
襄　楚　一〇
札　蘭　六
由羅孔克麻　八
達朗仁克　七
楊克珠克　九
臬　八
色　布　六
朗克勳　六
拉　薩　一四
合　計　八百八十三里

諸和より尋噶を經て給査噶に至るの間は潘孔湖水域に屬し沿道頗る湖水に富み到る處之を見る或は鹽湖あり或は淡水湖あり大小相接して數十里の間に散點せり尋噶驛より道路は平原に沿ふ

て行けり此邊廣さ五六里に亘り北及南は群嶽を以て充たし給査噶驛に至り一大谷地に入る四方廣濶にして東方に擴張し一望際涯なく眼眸の達する處遙に雲烟の模糊たるを見る此れより數驛の間終始一色更に異なる所なし岡古尼珠密庫驛より道路南東に奔る此地清水を得る極めて困難なり沼澤泉流皆赤色を帶ひ且つ鹽味を含み口にすべからす

雜査布哥驛より比闌察喀に至るの間道路は屢河流を横斷す皆清淺にして徒涉すべし或は全く乾涸して河底を現はすものあり此地一帶河水灌漑の便あるを以て頗る植物に富み綠樹芳草善く繁茂せり珠密克驛より道路は渺茫たる原野を過き四望寛濶にして眼を遮るものなく無數の山湖其間に基布す哥獨爾藏布及ひ比闌查喀驛附近地方は多量の硼沙を產出す硼洲層の深きこと二尺乃至八尺其質輕鬆にして人馬其上を行けは陷て窪形をなす總て此路線に於て横斷する所の泉流は清冽にして水質善良なるを以て一路飲料水缺乏の憂なし此れより潘布哈部驛を經て休瑪哥に達す此間二三驛は道路平垣にして浩漠たる原野天と接し一望窮りなく野獸群を成し草叢の中に戲る潘布哈部は冬季嚴寒の候に至れは游牧種族の輻湊地を以て著名なり

由噶爾より達倫噶克に至るの間過くる所の數驛皆荒村僻庄固より需用を充たす能はすと雖水草薪材共に饒多なり惟由噶爾、江度休珠の二驛は常に飲料水を雨水に仰き豫め之を水槽に儲くるを以て乾燥の季節には時に或は缺乏し往々困難を感するとあり重馬爾、達倫克二驛の近傍には各々金鑛あり達倫噶克金鑛の如きは其幅員幾んと一方里に亘ると雖現今は已に廢鑛に屬せり此驛は唯冬季土人の來て居住する者ありと雖其他は全く人烟を絶つと云ふ此れより道路は哥淋里布に至り一小徑の横斷する所となり十字形を爲す小徑は麻那薩駱瓦爾より那克珠噶及喀木地方に通するものなり

索克馬爾斜拉より索克珠拉克巴に至るの間道路は沙爾楚河を横斷す此河は道路の南を距る大約三十里に連亘せる雪嶺より發源し峽谷の間を奔流す平常は水量甚だ少なく水深僅に一尺に過ぎずと雖初夏の候に至れば水量大に增加し流勢急激にして之を渡る甚だ難し河水は流れて達什巴布湖に入り更に湖の東隅より流出して那克楚河に入る湖は濶さ八里長さ凡そ十三里而して道路は湖の南を距る二里の處に横はれり索克珠拉克巴に至り地形稍高隆し沙爾楚河より直線に平原の上を馳せ坦々として砥の如し然れとも往々賊匪出設して行旅を脅かすを以て故に迂廻して崎嶇たる山道に由り以て此難を避くるものあり

索克珠拉克巴より先家城に至る里程二百六十二里道路は熟噶爾戛見孛驛に至り卑低なる山道を横斷し草野に出つ平衍にして行步頗る易きを覺ゆ闌那克駝は此間の大驛とす住民は皆游牧種族にして帳幕相接して一驛を成す地方官此に駐札す道路は驛を去る凡そ二里にして岐れて二條となる一は拉薩の北に位置する那克楚喀に通するものにして數百里間全く荒凉無人の原野を經過

するを以て其不便言ふべからず本道は那克楚喀谷地に沿ふ此より二三の驛站を過き碁隆拉に至り土地大に隆起し海拔一萬八千餘尺此路線に於ける最高地にして山道を横斷するの後は地勢漸次低下し一條の河流に沿ふ而て路傍は峻山高嶺を以て充たし項上皆雪を戴き白彩輝々として人目を射る其中の高峯は海面を拔く二萬二千尺に達する者あり道路は雪山の間を貫通し鄂穆布に達す此間の大村落にして人戸櫛比し附近の田園善く闢け多く穀菜を播種せり此路線に於て土地を耕耘するを見るは此を以て始めとす而して道路の北及南は無數の大湖相連る此れより散克爾珠克拉克査の二驛を經て莫巴仁に至る梟散及珠克の二山道を超越す道路は嶮崖の半腹に設けたりと雖甚だ險惡ならず此れより數里の間は高低起伏一ならす或は昇り或は降り終に原野に出て坦克珠湖畔を經過す湖水は長さ二十八里幅十里にして湖邊游牧種族の幕居を見る努哥列驛より嘉爾度驛の間廣濶の牧野を過く回顧平敞にして幾んと數十里に亘り渺茫天に連り復た一物の眼を遮る者なし而して泉流縱横湖水碁布し最も善良なる牧場なり道路は嘉爾度驛に至り札什倫布に通する一路に合す本道は和蓮藏布河を横斷し幾多の村落を經過し達克動驛に達す此間沿道皆耕地にして大小麥を產出す此れより數驛の間道路平原を過ぎ幾條の河流を横斷す而して路傍は重疊たる山岳にして峯頂參差皆千古の雪を帶ぶ其景況同一にして地の高度も海面を拔く一萬五千二百尺乃至三百尺の間に在りて著しき高低を見ず嘉伽拉麻喀驛を經過するは札布達山道を踰ゆるを以て稍險なりと雖之れを過ぐれば即ち嘉零湖水域にして道路は其東にあり平坦にして歩行頗る易し二小驛を經て先家城に達す舖店鱗次人烟稠密此道路に於ける第一の市驛にして繁盛其の右に出づるものなし本驛より道路岐れて二派となり一は札什倫布に通じ一は直に拉薩に通ず

先家城より拉薩に至る里程凡そ二百八十三里本城より拉薩穆勳克巴に至る十數驛の間は地勢平坦にして河水灌漑の便あり而して道路は牧草豐美の曠野を貫通す土地沃饒なりと雖耕耘の跡なく住民は游牧種族にして專ら牧畜を業とし帳幕百戸乃至百三十戸各々一聯落を成せり道路は到る處水草薪材に富む此れより售義錫克驛を經て那克楚喀河を渡る騰格里湖に注入する支流中の最大なるものにして驛站の近傍に於ては河幅十九丈餘夏季は水量大に增加し流勢隨て急激なり售義珠錫克より數驛の間は騰格里湖水域に屬し路線は湖の北部を通過し水草薪材饒多なり巴克噶爾莫及義布闌岳克麻の二驛を過ぐ其東部は遙に道路を隔て雪山領の起伏するを見る此れより尼雅爾坎山道を横斷するは即ち達木蒙古の游牧地にして道路は廣漠たる牧野を貫通し到る處豐草繁茂し犛牛群を成せり此れより由羅孔克麻驛に至るの間は道路拉楚河谷地の上部を過ぐ沿道小邑處々に散布し又谷地の北は年前唐拉山に連續し山峯蜿蜒して谷地の方界線をなす而して其南は森林鬱蒼として山麓を環匠す拉楚河と谷地を貫通し旋轉灣曲終に流れて拉薩に至る由羅孔

克麻驛より土地漸次高隆し海拔一萬七千八百四十尺の巴克那克山道を登攀す山路險惡其頂上を殊に甚たしとす山道を踰へ達蘭仁克驛に至り高度俄に減して一萬三千尺となるを以て山坡の傾斜極めて急峻なり河流の如きは奔流直瀉恰も飛瀑の如し德沁城を過き梟に至るの間沿道戶口繁庶し田圃相連り人民耕作を業とし農事頗る視るへきものあり其漸く拉薩に接近するに隨ひ往來頻繁にして沿道村落碁布し人烟亦稠密なり地の高度も大に減し概ね一萬二千余尺に過きす色布、蘭克敦の二驛を過き拉薩に達す

第十六章　都邑

拉薩

拉薩は前藏の首府にして北緯廿九度四十分東經八十八度四十分に位置す法王達賴喇嘛の都する所たり東は米底克藏布河に濱し西は葦蕩に枕し前は峻嶺に接し後は高山に倚り東西約ネ七八里南北三四里に達す廛舖其間に斷續し市街商賈輻輳し頗る繁盛なり人口凡そ五萬余法王の宮殿駐藏大臣等の衙門あり

扎什倫布

扎什倫布は後藏の首府にして北緯二十九度十七分東經八十八度四十七分に位置し山に依り江に面し最も形勢の地たり人口約二萬法王班禪喇嘛の宮殿あり

類烏齊

類馬齊は密木多の西北に位置す喇嘛紅教の胡土克國の駐錫する所なり

碩般多

碩般多は西藏青海交海の要路にあり碩布楚河の右岸に位置す城郭あり人民皆城內に居住し蕃居の風を脫し房屋を立て丶之に住す

澤當（ゼンタン）

澤當は前藏の一都府にして雅爾藏布江の支流雅蘭河の右岸に位置す市街稍繁旺にして貿易亦盛なり二大寺刹あり喇嘛僧七百人を住す此地一帶膏沃にして無數の村落大小の寺院河を夾て碁布す物産饒多にして諸種の果實を出す林檎及梨等最著名なり大小麥、蠶豆其他樹木に富む

察木多（チャムド）

察木多一に昌都と稱す瀾滄江の上流なる鄂穆楚河の左岸に位置す此地は拉薩より四川打箭爐に至る要路にして三面河に枕み二大橋を架す一は雲南に通する道路に架し一は打箭爐に通する道路に架す人口一萬二千あり其四分の一は喇嘛僧侶なり

墨竹工卡（ムーチュクンチャー）

墨竹工卡は拉薩の東北米底克藏布江の南岸に位置す其區域狹少なるも風景畫くが如く田野善く開げ土民耕作に從事し其景況支那本部に異ならず

洛隆宗（ロロンツォン）

洛隆宗も又藏爐往來の要津にして一市鎮なり土地豐美にして物産少なからず陶器は此地著名の物産にして近隣諸國へ輸出す

嘉裕橋（チャチュルンチャチ）

嘉裕橋は洛隆宗の東八十清里にある一驛より瀾江の上源に沿ふ一大橋あり即ち嘉裕橋是なり土人は之を三壩橋と稱し西藏有名の橋梁とす

薩伽（サチャ）

薩伽は札什倫布の西南に在り後藏の一都府にして高大なる喇嘛廟あり胡土克圖此に駐錫す市街の大さは札什倫布の半はなるもの舖店羅列買賣稍盛なり商賈は揑泊爾（ネパール）の尼瓦爾（ニヤール）族其半を占む

聶拉木（ニエラムー）

聶拉木は札什倫布の西南七百八十清里にあり人家約三百の市鎮なり揑泊爾後藏間往來の要路にして揑泊爾より西藏に至る市街の第一に當る此地は邊界の咽喉にして兵略上の要點たり故に西藏官吏は出入の行旅に注意し嚴密に行李を檢査し身分姓名等を尋問し然る後其通行を許すの例なり此地に來て貿易に從事するものは揑泊爾の一部落巴勒布（パロフ）人最も多數を占む其俗順良にして西藏と交通最も舊しと雖能く業に安んじ分を守り曾て和を失せしことなし此地より揑伯爾の首府加都曼多に至る路程五日にして達すと云ふ

濟嚨（チーロン）

濟嚨は札什倫布の西南七百四十里にあり鈕楚河の左岸にして一支流の會點にあり氣候暖和土地肥沃にして一年兩度の收獲あり青稞麥等を産する極めて多く附近の諸部へ輸出し貿易品の主な

るものなり戶數凡そ四百餘戶後藏南部の一都府なり

定日（タンリー）

定日は札什倫布の西南明楚藏布の支流、佳克楚河の會點にあり戶數約二百五十平日は甚だ寂寥なりと雖開市の期に至るか或は一朝事あるに際しては附近の人民此に輻輳し來り荒涼の區俄に雜沓の地と變じ帳幕市街に充滿す此地西藏南陲の鎖鑰地なるを以て清國政府は此處に戍兵の外特に一汛を設け漢兵を置き守備一人を駐派し之を統轄せしめ此より更に戍兵を邊疆の要地に分遣せり

亞東（アトン）

亞東は西金に通ずる國境にある一小市なりしか明治二十八年始めて此地を以て互市場となせしが爾來漸次隆盛に赴き今や西藏唯一の互市場となれり印度及廣東方面より來る輸出入品は皆此地を通過す駐藏大臣は此地に稅關を置き時々自ら之を巡視す

第貳編

第一章　史略

西藏は唐宋に吐蕃と曰ひ元に西蕃と曰ひ明に烏斯藏と曰ふ土人は唐古戍（ガンゲト）又は圖伯特（ペット）と曰ふ其地本と分つて四部とす曰く衞今の達賴喇嘛の居る所にして中藏となす曰く喀木（カム）今の四川省邊外察木多（チャムド）等の地方にして或は康（カン）と曰ひ前藏となす曰く藏今の班禪額爾德尼の居る所にして後藏となす曰く阿里極西の地とす清朝に至り衞及喀木の地を前藏と呼び藏及び阿里の地を後藏と呼び合して西藏と稱せり

漢書記す所に據れば圖伯特人は古代三苗の種族たり舜三苗を三危に竄すと三危の地は喀木及藏の地たるを以てなり又漢士古代西徼の種族を稱して西戎或は西羌と曰ふ周の平王東遷（西歷紀元前七百年代）するの後西羌の種族は漢土に通じ隴山、伊洛二水（今の陝西甘肅二省及四川省の北部）の間に類居す秦の始皇長城を築き（紀元前二百十四年）漢の武帝西羌をして塞上に居らしむ（紀元前百三十年代）是より種族漢士に蕃衍し晉の懷帝の時（紀元三百十年代）に至り赤亭の羌、姚弋仲の子、姚萇苻、秦を滅し其跡を襲ぎ帝號を稱して長安（今の陝西省西安府）に居る再傳して劉裕の爲めに滅せらる蓋し西羌の屬百餘稠族に分れ

後漢書の西羌傳に據るに爰劍より後ち子孫支分し凡そ百五十種にして其九種は折支にあり河首より以西蜀、漢の徼北にあるもの五十二種は衰少にして自立する能はす其八十九種の中惟鐘最も强盛なり發羌、唐旄等は未だ嘗て漢土に往來せず犛牛、白馬等の羌は蜀漢にあり其種別名號は皆知るに由なし

黄河、湟水、大江、岷山（今の甘肅省及青海の地より四川省に至るの地）の間に散處し其酋長は折支（甘肅省西邊外黄河灣曲の地）の西邏婆川（今拉薩の地ならん）に居る魏、周、齊三代（五百三十年より五百八十年に至る）を經て猶未だ漢土に通ぜず隋の開皇中（五百八十九年より九十九年）西羌の酋長に倫贊索なるものあり河州（今の甘肅省河州）の西に居る土谷渾

晉書の西戎傳に據るに土谷渾は鮮卑の種族西零より以西甘松の界を有し白蘭の地を極め數千里に亘る土谷渾を以て氏とす其牙營は青海の西十五里にあり

を滅し其地を會し國を建て跋布川（大清一統志に據るに今西藏の雅魯藏布河ならん）に居り禿髮（トゥファー）を以て國號となす禿髮の音は吐蕃（トゥバン）と相近きを以て訛つて吐蕃と呼び其後之に從ふ

蒙古源流考に據るに土伯特（チベット）は額納特珂克（エナトコク）の分支なり額納特珂克（エナトコク）は即ち中印土なり釋迦牟尼佛涅槃戊子の年を距る千八百二十一年烏廻雅納汗なる者隣國の爲め敗られ印度を棄て東し雪山に走り雅爾隆費塘に至り雅爾隆氏となる其季子生るゝに至り異表あり衆戴て汗となす

此に由て四方に勝ち八十八萬土伯特（チベット）國主となる之を尼雅特博汗となす

唐代に至り吐蕃最も强大初めて漢土に通ず貞觀十五年（六百四十年）太宗文成公主を以て其王贊普（特勤德蘇隆贊（スリンカンポ））に嫁せしめ之と和す是より先き吐蕃の唐に寇ずるもの連歲解けざるを以てなり而して其寇尙ほ未だ止まず景雲元年（七百十年）睿宗再び金城公主を以て贊普に嫁せしむ建中四年（七百八十三年）德宗今の陝西以西の地を割き之に與へ清水（今の陝西省清水縣）に於て會盟をなせり爾後吐蕃の國勢は唐と共に衰へ種族も亦た分立す降つて元代に至り憲宗の寶祐元年（千二百五十三年）始めて河州（今の甘肅省河州）に於て吐蕃宣慰司都元帥府を置き又四川の徼外に於て碉門（今の四川省天全州）魚通（今の四川省打箭爐の地）黎（今の四川省清溪縣）雅（今の四川省雅州府）長河西（今の四川省打箭爐）寧（今の四川省寧遠府）等の處宣撫司を置く世祖の至元六年（千二百六十九年）復た烏斯藏（今の前藏の地）宣撫司を置き其地を郡縣にし發思巴（パスパ）（喇嘛高僧）を以て大寶法王に封し帝師となし其地を領せしむ

書史會要に據るに發思巴は吐蕃薩斯迦（サスカ）の人生れて七歲經典數萬言を誦し能く大義に通す世祖之を師とす位に即くに及び蒙古字を製せしめ天下に頒つ（猶ほ宗教の章を參照すべし）其弟子を司徒、司空、國公とし皆金玉の印を佩ふ之を紅教の祖とす其後嗣皆法王となる

今の後藏薩斯迦の地に元帝師後裔の喇嘛あり妻を取り子を生み後あれは始めて法座に登る

と

西番の僧京師に貢するもの最も多く元帝金銀財寶を賜與すること限りなし是に於て西番は釋教の國となる是を佛教に因て漢土と隔繫するの始めとす

明の太祖の洪武六年（千三百七十三年）唐代吐蕃の亂に懲り之を制御せんことを思ひ惟其俗佛教を信ずるに因り僧徒を用ゐ化導するを以て善とし烏斯藏の攝帝師喃加巴藏卜を以て熾盛佛寶國師とし其地を統轄せしむ烏斯藏は本と吐蕃中の一地にして別に一部をなすものなり其地專ら佛道を以て教化し人民頗る柔順にして服し易し此地は四川の馬湖府（今の屏山縣）を去る千五百餘里（支那里以廿下同じ）肅の西寧衛（今の西寧府）を去る九千余里今前藏の地なり承樂三年（千四百五年）烏斯藏の僧哈力麻を以て演教如來大法寶王となす又大乘及び大慈法王に封ぜらるゝものあり是に於て其徒弟等爭ひ來つて京師に輻湊す明廷の封する所のもの法王の外闡化、闡教、護教、輔教、贊善の五王西天佛二、灌頂大國師九、灌頂國師十八あり法王以下死すれば其子或は徒弟相承襲す每歲一たび朝貢して數百人を從ひ市を開き物品を貿易せり明廷の度支するもの夥多にして府庫の財を傾むくるに至る故に明の世を終るまで西蕃の患なかりき

黄教の祖を宗喀巴（クソンカパ）と曰ふ（一名羅卜藏巴克巴（ロブサンチャクパ））明の承樂十五年（千四百十七年）西寧衛に生れ成化十四年（千四百七十八年）に死す初め紅教を習ひ其弊を見て別に一派を創め其衣冠を黄にす故に黄教と云ふ妻を娶らす達賴、班禪の二大弟子をして世々呼畢勒罕（ホビルハン）（轉生の義）を以て化身し死するの時轉生する所を示す因て迎て之を立て常に輪回して止まざるものとす達賴一世は吐蕃替普（特勒德蘇隆贊（スルンサンカンボ））の後裔なるを以て國人推尊して烏斯藏の主とす是より烏斯藏の法王は子孫に傳へずして轉生の喇嘛に傳へ弟巴（タイパ）（職名）なるものを置て國政を代理せしめ其弟子を胡土克（ホトクト）國と稱して宗教を分掌せしむ皆明帝の封號を受けず正德五年（千五百十一年）武宗達賴二世を迎へんと欲し使を遣はし之を招く達賴往かす遂に兵を發し之を脅かし强て取り去らんとす國人之を匿して明兵を擊退す達賴三世自ら青海及河套の地に至り諸蒙古を教化す各部靡然として之に嚮ふ諸法王の如きも亦賴達の弟子となり黄教に改從するもの多し是に於て黄教は諸部に行はれ達賴を以て活佛となす

清朝に至り崇德二年（千六百三十七年）喀爾喀（カルカ）（外蒙古の總稱）の三汗達賴五世の活佛なるを以て幣使を發し之を延請せんことを勸む大宗厄魯特（エルド）蒙古に託して書を達賴に貽る此を清朝烏斯藏に通するの始めとす順治九年（千六百五十二年）世祖使を遣し達賴五世を邀へ西天大自在佛に封し天下の釋教を領せしめ和碩親王に命し八旗兵を率ゐて之を送らしむ達賴五世の死するや其弟巴（ケーパ）（職名）三節（サンチエー）なるもの之を秘し自ら國事を專らにせんとす是より西藏大に亂る初め明末に當り厄魯特部の固始汗（グーシーカハン）青海の地に據り西藏を略し喀木（カム）の地より其租稅を徵し藏の地は藏巴汗之に居り衛の地は第巴達賴を奉して之に居る而して三節藏巴汗と相合せず終に之を誣ひて黄教を虐するものと謂ひ兵を固始汗に

乞ひ之を剪滅し盡く紅教の諸法王を遂ひ其地を以て達賴と班禪とに分ち前後二藏に主たらしむ

固始汗の子鄂齊汗をして其民衆を轄し其弟達賚をして之を佐けしむ是時より西藏の名始めて起る達賚死し其子拉藏汗嗣く三節又謀つて拉藏汗を毒せんとして殺さる拉藏汗三節が立つる所の假達賴を廢し新に達賴六世を立てんことを乞ふ聖祖之を許るす明末より此に至り西藏は厄魯特（エルド）の關涉する所となれり

是時に當り圖伯特（ツバット）人立つる所の達賴六世と厄魯特部立つ所の達賴六世あつて未だ其眞假を決せず準噶爾汗（ジュンガル）策妄那布坦（ハン）其隙に乘し西藏を襲ひ拉藏汗を殺し各寺の重器を奪ひ達賴を拘禁す康熙五十五年（千七百十七年）聖祖兵を發し厄魯特兵と共に準噶爾兵を逐ひ厄魯特部立つる所の達賴を青海より奉じて西藏に至り座床せしめ拉藏汗の舊臣康濟鼐をして前藏を掌らしめ頗羅鼐をして後藏を掌らしむ

雍正二年（千七百二十四年）達賴に屬する噶布倫（カブロン）（職名）等三人康濟鼐の權を忌み之を害し準噶爾に投せんとす世宗兵を發して之を討せんとす既にして頗羅鼐後藏の兵を以て之を鎮す世宗頗羅鼐を郡王に封し西藏の事を總轄せしむ正副大臣二人を留め兵二千を以て前後藏に分駐せしむ之を駐藏大臣の始めとす乾隆十五年（千七百五十年）朱爾墨特なるもの亂をなす朱爾墨特は頗羅鼐の子にして父に嗣て郡王となる駐藏大臣の已れに便ならざるを以て之を除かんとす準噶爾兵至ると稱し兵を聚む二大臣謀つて朱爾墨特を殺し亦逆徒の爲めに害せらる是より西藏に汗、王、貝子等を置かず四人の噶布倫（カブロン）を以て其權を分ち達賴之を統ふ又西藏大臣に兵千五百を增す乾隆五十六年（千七百九十一年）班禪の第舍瑪爾巴（ペンチェンラマ）なるもの廓爾喀（グルカ）部を教唆して入寇せしむ高宗兵を發して鎮定す是より以後駐藏大臣の行事儀注始めて達賴班禪と平等たり其噶布倫以下の官吏は大臣達賴と會同して選定し事權始めて大臣に歸せり

爾來西藏は久しく泰平無事なりしか一千八百八十八年英國と「シキム」の國境に於て戰端を開くに至れり此爭は一千八百九十年の條約に依り表面上其局を結ひたるも其裏面に於て西藏人は種々なる感情の爲め之か實施を肯せす遂に千九百〇三年「ヤング、ハスバンド」大佐の遠征隊をして拉薩を蹂躪せしむるに至り漸く昨年を以て其事件の一段落に告けたるは後章に詳說するを以て之に略し以下西藏歷史に關し漢書記載する所の二三を擧けて以て西藏史を研究せんとするものゝ參考とす

唐書の吐藩傳に據るに吐藩の風俗は其强雄なるものを稱して贊と曰ひ丈夫を普と曰ふ故に其君長を號して贊普と稱す又贊普の妻を朱蒙と曰ふ其官職は大相を論と曰ひ副相を論扈莽と曰ふ各々一人あり亦之を大論小論と號せり都護を悉編掣逋と曰ひ內大相を曩論掣逋と曰ひ亦論莽熱と云ふ副內相を曩論覓零逋と曰ひ小內相を曩論充と曰ふ各々一人あり將軍大相

を喰寒波聖逋と曰ひ副整事大相を喰寒覓零逋と曰ひ整事小相を喰寒波充と曰ふ皆國事に任す此等の官職を總稱して尙論聖逋突巴と曰ふ其地は京師（陝西省西安府）の西凡そ八千里（支那里以下同シ）に亘る恺善（關羅地）を去る凡そ五百里勝兵數十萬あり雷霆風雹積雪多し盛夏は中華の春時の如し山谷に常に凍氷し地に寒獵あり人に中れば輒ち痞促するも性命を害せず贊普は跋布川或は邏婆川に居る城郭廬舍あるも肯て之に處らず毳悵を聯ね以て居る之を大拂廬と號す數百人を容る其衞候は嚴にして牙營は甚だ隘し部人は小拂廬に處る老壽なるもの多く百餘歲に至るあり衣は率ね氈革にして赭を以て面を塗るを好しとす婦人は辨髮して之を縈らず其器は木を屈し韋を以て底とし或は氈を盤とし羹酪を實し併せて之を食す手つから酒醬を捧し以て飲む其官職の章飾は最上は瑟々寶石にして貴金之を次き金を以て銀に塗するもの又之に次ぎ銅を以て最下とし大小に分つて臂前に繫り以て貴賤を辨ず屋は皆上を平にして高さ數丈に至る其稼に小麥、青稞、蕎麥、豆あり其獸は犛牛、馬、犬、羊、彘あり天鼠の皮を以て裘とす獨峯駝ありて日々馳すること數百里其寶は金銀錫銅あり人死て葬れば家墓を爲して之を塗す其吏治は文字なく結繩或は木に齒して約をなす其刑は小罪と雖必ず目を抉り或は剔削す皮を以て鞭となし之を抉ち喜怒に從ふて常算なし其獄窟は地深きこと數丈囚人の其中に入る二三年にして之を出す其大賓客を宴すれば必ず犛牛を驅り客をして自ら射せしめ之を饋る其俗は鬼を重んじ巫を貴ぶ羅祇を以て大神とし浮屠の法を喜び呪詛を習ふ國の政事は必ず桑門を以て參決せしむ多く弓刀を佩ぶ飲酒は亂に及ぶを得ず婦人は政に及ぶことなし壯を貴び弱を賤む母は子を拜し子は父に倨る出入すれは少者を前にし老者を後にす戰死を重んじ累世戰沒するものを以て甲門となし敗懦なるものは狐尾を首に垂れしめ以て其辱を示し衆人に列するを得ざらしむ拜するときは手を以て地に据き大に號呼し再び身を揖して止る父母の喪に居れば髮を斷ち面に黛し墨衣を服す其兵を舉ぐるときは七寸の金簫を以て契となす百里に一驛を置き急なれば驛人廳前に銀鶴を加ふ甚だ急なれは益多し敵の來るを告ぐれば烽を舉ぐ其畜牧するものは水草を逐ふ常所なし其鎧冑は精良にして勁弓利刃も甚だ傷くる能はす兵法は嚴にして師を出すに餽糧なく鹵獲を以て資となす戰ふ毎に前隊盡く死すれば後隊乃ち進む其四時は麥の熟するを以て歲首となす其戲に棊、六博あり其樂は螺を吹き鼓を擊つ其君臣相友とするもの五六人あり之を共命と云ふ其君死すれは皆自殺し以て殉す服玩乘馬も亦之を瘞す大屋を冢頭に起し衆木を樹へて祠となす贊普は其臣と歲に一たひ小盟し羊、犬、猴を用て牲となす三歲に一たび大盟し馬、牛、驢を用て牲となす凡そ牲は必す足を折り膓を裂き前に陳し巫をして神に告けしむ曰く盟を渝るものあらは牲の如きあらんと其君長始めを瘢悉董摩と曰ひ陀土度を生む陀土度、揭利失若を生

み揭利失若、勃弄若を生み勃弄若、詎素若を生み詎素若、論贊素を生み論贊素、棄宗弄贊を生む亦た棄蘇農と名く弗夜氏と號す其人となり慷慨にして雄才あり常に野馬犛牛を驅り馳て之を刺し以て樂しみとなす西域の諸國共に臣となる貞觀八年始めて使者を遣り唐に通す云々

蒙古源流考に據るに土伯特妙音七汗の子を特勒德蘇隆贊（ロロンカンポ）と云ふ年十六歲にして汗位に即く其十六臣を遣し額納特珂克國（今の後印度なり聖武紀に西藏記を節錄して曰く後藏の樂爾地方より四南十八日程にして宗里に至り又八日にして白木戎部落に至る其地北は後藏に接し西は白布勒に接し南は小四天の北界に至る小四天界より南行する十日にして始めて海船に上り行くこと半月にして大四天に至る小四天竺東天とし天四大を中天竺とし又曰く後藏札什倫布の四南は布魯克及ひ白布勒等の部落と交界す白布勒は即ち贊普白布勒國王女を取るの地なり布魯克は即ち東天竺に住くの路なり又一路あり阿里より西南二千余里額納特阿克に入る即ち中天竺なり）に至らしめ音韻の學を傳へ土伯特の三十字母を亘證し合して四聲に入る原との三十四字内に於て十一字を删除し其餘二十三字を以て土伯特始創の六字と並に原との阿字とを以て之を定め三十字母となし各々音韻を分ち禪經、百拜懺悔經、三法雲經等を繙譯して文を成す政治を修め形法を制し十惡を屏け十善を行ふ既にして巴勒布國（今の濕泊泉國なり）王の女を聚り又唐太宗の文成公主に婚す各々經卷佛像を賚し來つて土伯特國に至る是に於て中印度の桑吉剌必滿師、勤勒布國の錫拉滿祖師、鄂斯達師及唐僧瑪哈德幹師等をして之を繙譯せしめて國中に宣命す八十二歲にして歿せり

妙音七汗より四傳を歷て玄孫特蘇隴德燦に至り唐の肅宗の女金城公主を娶り中印土の堪布博迪薩都師及ひ巴特瑪を迎請し一は廣く法輪を建て一は妖魅を制伏す其廟宇佛殿の下層は土伯特に宵し中層は唐地に宵し上層は中印土に宵し中に三世佛を供す四面四隅は四大部洲八小部洲に象り驅魔の咒、日月の象を會萃し得力四大覺路及ひ瑪哈喝拉の大廟四大浮圖并に光明塔共に三十廟宇、環すに金輪を以てす汗年二十二歲より工を興し三十四歲に至つて始めて成る是に於て法衆を招集し高行の巴特瑪師に向て秘咒を練習し諸法要を受け七百二十佛の灌頂に及ひ又土伯特の童子を選び印度の語言文字を譯するとを學ばしむ汗在位五十七年壽六十九歲にして歿すと

五代史吐蕃傳に據るに吐蕃國の地は君世、部族、名號、物俗は唐書に見ゆ唐の盛時に當つて河西隴右三十五州の中涼州（今の涼州府）最も大土沃にして物繁く而して人富樂なり其地は馬に宜し唐に八監を置く牧馬三十萬匹あり又安西都護府（今の庫車）を以て西域の三十六國を羈縻す唐の軍鎮、監務三百餘城常に中國の兵を以て更に戍る而して涼州に使を置き之を節度す安祿山の亂に肅宗靈武（今の甘肅省靈州の西北）より起て悉く河西の兵を召し難に赴かしむ而して吐蕃虛に乘じ河西、隴右を攻む華人百萬皆吐蕃に陷る五代の時に至り吐蕃已に微弱回鶻黨項等の諸羌其の地を分侵す而して其人民を有せず中國衰亂之を撫育する能はず惟甘（今の甘州府）涼（今の涼州府）瓜（今の

吐蕃沙（今の西州）四州は常に自ら中國に通ず甘州は回鶻の牙營にして涼、瓜、沙三州は猶唐官を稱し數々來て命を請ふ梁太祖の時より嘗て靈武の節度使を以て兼て河西の節度を領し而して甘肅威（今中衛縣の地後晉の置く所なり）等の州を觀察す然れとも涼州は自ら守將を立て沙州は梁の開平中に節度使張奉ありて自ら金山白衣天子と稱して自立せり

宋史吐蕃傳に據るに唐の大中三年吐蕃の宰相論恐熱、秦（今秦州）原（今鎮原縣）安樂（今の中衛縣）及石門（今の輕偶縣の北）等の七關を以て來歸す四年又成（今の成縣）維（今四川省茂州の地）扶（今の文縣ノ西）の三州に克つ五年其國沙洲（今の安西州）の刺史張義潮瓜、沙、伊（今の哈密）肅等十一州の地を以て來り献す唐末沙、瓜の地は復た隔つる所となる其國も亦自ら衰弱して種族分散し大なるもの數千家小なるもの百十家復た統一するものなし儀渭（今の甘肅省平涼府）涇（今甘肅省經州）原（今甘肅省鎮原縣）環（今甘肅省環縣）慶（今甘肅省慶陽府）及び鎮戎（今ノ甘肅省固原州宋に鎮戎軍を置く）秦州（今の甘肅省秦州）より靈（今の甘肅省寧州）夏（今甘肅省寧夏府）に及び皆之を有つに各々首領あり內屬するもの之を熟戸と謂ひ餘は之を生戸と謂ふ涼州（今の甘肅省涼州府）は隔つ所となると雖も其地自ら牧守を置き或は命を唐に請へり後唐の天成中權知西涼府（今涼州府宋初に西涼府と稱す後ち西夏に隔る）留後孫超其大將拓拔承誨を遣り來貢す明宗、拓拔承誨を召見して曰く涼州は東靈武（今の靈川の西北）を距る千里西北甘州（今の甘州府）に至る五百里舊と鄂（今の山東省鄂城縣）人ありて戍兵をなす黃巢の亂に及び遂に阻絶す孫超及城中の漢戸百餘と皆戍兵の子孫なり其城は市幅數里中に縣令、判官、都押衙、都知兵馬使あり衣服言語略々漢人の如しと即ち孫超に涼州の刺史を授け河西軍の節度留後に充つ後漢の乾裕中孫超死す州人其土人折逋嘉施を推て權知留後となす使を遣し來り貢す即ち折逋嘉施を以て孫超に代て留後となす涼州の郭外數千里尙漢民の陷沒するものあつて耕作す其餘は皆吐蕃なり其州師稍民情を失ふ則衆皆嘯聚す城內に七級の木浮閣あり其帥急に之に登り其衆を紿て曰く爾若し我に迫らば我即ち此に自焚せんと衆浮圖を惜み乃ち盟ふて之を含く後周の廣順三年始めて申師厚を以て河西の節度使となす申師厚涼州に至り奏請して吐蕃の首領折逋支等に官を授けて之を從はしむ後周の顯德中申師厚折逋支等の迫る所となり擅に還歸して坐貶せられ淳州亦師を命せす建隆二年靈武の五部臺駞良馬を貢す來離等八族の酋長越嵬等護送して界に入る勅書して奬諭す秦州（今の秦川）の首領尙波千、采造務の卒を傷殺す知州高防其黨四十七人を捕繫して以て聞す乃ち吳廷祚を以て雄武軍節度となし防安に代つて之を安輯せしむ吳廷祚勅書を齊し尙波千に賜ふて曰く朝廷邊防を制置し部落を撫寧し務めて安集せしむ豈侵漁することあらんや曩者秦州に三砦を設置するは止に木材を采取し京師に供億するを以てなり蕃漢の交にありと雖汝等牧放の利及び汝等の占據する植木を妨けず軍人を傷殺せしは近々高防の奏するを得たり汝等已に拘執せられ進止を聽候するを見る朕汝等が久く忠順を致すを以て必ず前非を悔る特に懷柔を示し各々寬宥に從ひ已に吳廷祚をして往て安撫を伸べ

及び舊地を還さしむ空く共に恩旨を體し各々本族に還るべしと仍て錦袍、銀帶を以て之に賜ふ尙波千等感悅す是年乃ち伏羌寨（今甘肅者伏羌縣）の地を献せり

四川通志に據るに吐蕃は宋時に於て朝貢絶へず其首領隋厮囉始て鄯州（今甘肅者碾伯縣）に居り後青唐（今の甘肅者四郷府の地）に徙る神宗、哲宗、高宗の朝皆授るに官を以てす元の憲宗始めて河州（今の河州）に於て吐蕃宣慰司都元師府を置き又四川（今の四川省）徼外に於て碉門（今の四川省天全州）魚通（今の四川省打箭爐）黎（今の四川省雅州府）雅（今の四川省）長河西（今の四川省打箭爐の地）等の處安撫司を置く皆吐蕃宣慰使に屬す世祖の時其地を郡縣にし烏思藏（今の西藏）等の處宣慰司都元師府を置き官を設け職を分ち吐蕃の僧發思巴を以て大寶法王帝師となし之れを領せしめ嗣者數世其の弟子司徒國公と稱し金玉の印章を佩るもの前後相望めり

元史百官志に據る宣政院は釋教僧徒を掌とり吐蕃の境之に隷屬す吐蕃事あるに遇へば則爲めに院を分ち往て鎭す亦別に印あり大征伐の如きは樞密院を會して之を議せしむ其人を用ゐるは則ち自選をなさしむ其選をなすは軍民通攝し僧俗並び用ゆ至元の初め總制院を立て之を領するに國師を以てす唐の制に吐蕃來朝するは宣政殿に於て之を見る故に更に宣政院と名けたり

帝師發思巴の傳に據るに元は朔方より起る固より已に釋教を崇尙す西域を得るに及び世祖其地廣くして而して險遠其民獷にして而して鬬を好むを以て其俗に因て其人を柔くるを思ひ乃ち吐蕃の地を郡縣にし官を設け職を分ち而して之を帝師に領せしも乃ち宣政院を立て其使となりて第二位に居るものは必ず僧を以て之に任ず皆帝師の辟擧する所に出づ而して其政を內外に總ふるもの即帥臣以下亦必ず僧俗並に用ゐて軍民通攝す是に於て帝師の命令は詔勅と並に西番に行はる百年の間朝廷を敬禮し而して之を尊信する所以のもの用ゐざる所なし其帝、后、妃、主と雖皆受戒に因て之が膜拜を爲すに至る正衙、朝會、百官班列すれば帝師も亦或は席を坐隅に專らにす且帝即位の始め每に詔を降して褒護し必ず勅章あり佩監珠を絡し字をなし以て賜ふ蓋し其之を重んずる此の如し其未だ至らざるや之を迎ふるは則中書大臣馳驛して百騎を重ね以て往き過る所供億送迎す京師に至る比は則大府に勅して法駕兵仗を假し以て前導をなさしむ省、臺、院官に詔し以て百司庶府に及び每歲二月八日迎佛の威儀を用ひ往て之を迎ふ且禮部尙書郎中に命じて專ら迎接を督せしむ其卒して舍利に歸葬するに及び又百官に命じ郭を出て祭餞す大德九年專ら平章政事鐵木兒を遣し傳に乘じ護送せしめ金五百兩銀千兩幣帛萬匹錢三千錠を贈す皇慶二年加て金五千兩銀一萬五千兩錦綺、雜綵共に一萬七千匹其昆弟子姓の往來するものと雖有司亦供億すること乏しきなし秦定間帝師の弟公哥亦思監將に京師に至らんとす中書に詔して羊酒を持して郊勞せしむ而

して其兄瑣南藏卜は遂に公主を尚し白蘭王に封ぜられ金印を賜ひ圓符を給す其弟子、司空、司徒、國王と號し金玉の印章を佩ぶるもの前後相望み其徒たるもの勢を恃み恣睢し日に新に月に盛にして氣燄灼四方に延き害をなす勝て言ふべからず

發思巴の創作せし蒙古新字に關し書史會要に曰く

字の母なるもの凡そ四十一 ᠠ 葛 ᠡ 渴 ᠢ 睦 ᠣ 識 ᠤ 者 ᠥ 闕 ᠦ 遮 ᠧ 倪 ᠨ 怛 ᠩ 捷 ᠪ 達 ᠫ 闕 ᠬ 鉢 ᠭ 爻 ᠮ 未 ᠯ 麻 ᠰ 拶 ᠱ 闕 ᠲ 惹 ᠳ 嚩 ᠴ 若 ᠵ 薩 ᠶ 阿 ᠷ 耶 ᠸ 囉 ᠹ 羅 ᠺ 設 ᠻ 沙 ᠼ 訶 ᠽ 啞 ᠾ 伊 ᠿ 鄒 ᡀ 醫 ᡁ 汚 四遐輕く呼ぶ ᡂ 霞 ᡃ 法 ᡄ 惡 ᡅ 也 ᡆ 曷 ᡇ 耶輕く呼ぶ右漢字を借り音を譯す並に口を開き之を呼ぶ漢字母の內則 ᡈ ᡉ ᡊ の三字を去り而て ᡋ ᡌ ᡍ ᡎ の四字を增入す切韻多く梵法に本づく或は一母にして獨り一字を成し或は二三母にして一字を成す ᡏ の天 ᡐ の地 ᡑ の人 ᡒ の東 ᡓ の西 ᡔ の南 ᡕ の北の類の如き是なり但し只一字にして平、上、去の三聲を具す而して入聲なし入聲を輕く呼べば則平聲に同じ凡そ詔、誥、宣、勅、表、牋並に以て書寫すべし其書は右行し其字は方古嚴重なり

明外史西番傳に據るに西番は即ち西羌の種族にして最も多し陝西今の甘肅省西二者より四川、雲南の西徼外を歷て皆是れなり其河、湟、洮、岷の間に散處する者古來より中國の患をなす尤も

劇し元代に至り駙馬章古を封じて寧濮郡王となし西寧に鎮ぜしむ而して河州に於て吐蕃宣慰司を設け洮今の洮州廳岷今の岷州黎今の四川省清溪縣雅今の四川省雅州府諸州を以て之に隸し番衆を統治せしむ洪武二年太祖陝西を定め即ち官を遣はし詔を賫して招諭す其酋長皆觀望して來らず復た員外郎許允德を遣し之を招く乃ち多く命を聽く明年吐蕃の宣慰司使鑽南普等元帝授くる所の金銀牌印及び宣勅を以て來り上る會〻鄧愈河州に克つ鎮西の武靖王卜納剌も亦吐蕃諸部を以て來つて款を納る其冬鑽南普等入朝し馬及び方物を獻ず太祖喜て襲衣を賜ふ

明一統志に曰く吐蕃の地北は陝西今の甘肅陝西二者の地の細溫に起り迤南して四川を歷て雲南西北の境に至る洪武六年に都指揮使司二を立つ烏斯藏今の前尤なり朶甘今の四川省邊外の地なり指揮使司なるもの一隴答衙今の四川省邊外の地なり七年又宣慰使を置くもの三朶甘及び董卜韓胡今の四川省天全州の西北長河西、魚通、寧遠、今の打箭爐の地元代に長河西魚通寧遠の三安撫司を置く明代に至り合て一宣慰司となすなり招討司を置くもの六萬戶府なるもの四千戶所なる者十七とす是れ皆化外の境にあり歲に朝貢を通ずるのみ西僧あつてより以來此屬邊患を爲さず遇寇盜あるときは僧を遣し之を諭せば尋て則解散す若し夫れ邊徼の內陝西の岷州、洮州、四川の龍州今の清武縣黎州今の清溪縣諸處の如き其民は氐羌四羌の種族を雜ゆ是れ皆吐蕃の種落久く已に內屬し悉く官府の約束を聽き復た梗を生ぜず唯〻謂ふ所の熟蕃なるものは其

地險隘にして饋餉爲めに難し生蕃は頑獷にして屢〻邊害をなす之を遏絶する所のもの區處未だ其宜を得ず蓋し其地瘠て而して人貧なり性躁にして常なし然れども其俗頗る鬼を尙ぶ其俗に隨て治を爲し岷州の例に例り一大刹を建て蕃僧中道行あつて衆の信服する所のものを擇び授くるに誥印を以てし職を授け其地を守らしめ毎歲人を遣はして賞賚すべし仍て威州或は茂州に於て一大營を立て此に於て守禦し其要害を扼し其互市を通ず此の如くすれば則以て少く蜀人運輸の苦を緩へ而して邊境劫掠の患を息むべし

供武の初年吐蕃各族の會長に詔て故の官職あるもの擧て京師に至らしめ職を授け其地に卽き指揮、宣慰、招討等の司を設く遂に五衞門を置き印を賜ひ俗に因て治をなさしむ故元の攝帝師喃加巴藏卜を以て燉盛佛寶國師となし故元の國公南哥思丹八亦監藏等を都指揮、同知宣慰使元帥招討等の官となす是より蕃僧に灌頂國師及贊善王、闡化王、正覺、大乘法王、大寶法王に封せらるゝものあり俱に印章、誥命を賜ひ比歲或は間歲京師に赴き朝貢す明初置く所の指揮司、宣慰司、招討司、萬戶府、千戶所等凡そ三十有三とす

烏思藏都指揮使司　桑甘衞都指揮使司
隴答衞指揮使司　桑甘宣慰使司
桑甘思招討司　桑甘隴答招討司
桑甘丹招討司　桑甘倉塘招討司
桑甘川招討司　磨兒勘招討司
沙兒可萬戶府　乃竹萬戶府
羅思鑑萬戶府　列思磨萬戶府
董卜韓胡宣慰使司　長河西、魚通、寧遠宣慰使司
倫答千戶所　果由千戶所
桑甘思千戶所　剌宗千戶所
兆日千戶所　納竹千戶所
孛里加千戶所　長河西千戶所
多八參孫千戶所　加八千戶所
沙里可哈思的千戶所　孛里加思東千戶所
撒里土兒干千戶所　參卜郎千戶所
剌錯牙千戶所　泄里壩千戶所
闊側魯孫千戶所

明史外傳に據るに烏斯藏（今の西藏）は雲南西徼外にあり雲南麗江府を去る千餘里四川馬湖府（今の屏山縣）より千五百餘里陝西（今の陝西甘肅兩省）西寧衛より五千餘里其地僧多し城郭なし大土臺の上に群居す肉を食はす妻を娶らす刑罪なく亦兵革なし疾病少し佛書甚多し楞伽經は萬卷に至る其土臺外の僧は肉を食ひ妻を娶るものあり元の世祖發思巴を尊て大寶法王となし玉印を賜ひ大元帝師となす是より其徒弟之に嗣くもの威を帝師と稱す洪武の初め太祖唐世吐蕃の亂に懲り之を制御する所以のものを思ひ惟ふ其俗に因て尚僧弟を用ゐ化導して善をなさしむ乃ち使を遣し廣く招諭を行ひ又陝西行省員外郎許允德を遣り其地に使せしめ元の故官を舉げ京師に赴き職を授けんとす是に於て烏斯藏の攝帝師喃加巴藏卜先つ使を遣り朝貢せしめ京師に至る太祖喜て紅綺の禪衣及氈帽、錢物を賜ふ

清の聖武記に據るに黃教の宗祖を宗喀巴（一名羅卜藏札克巴と云ふ）と云ふ明の永樂十五年（西暦紀元千四百十七年）を以て西寧衛（今の甘肅省西寧府）に生れ西藏の噶爾丹寺に得道し成化十四年示寂す初め明代に在て西番の諸王は皆紅綺の禪衣を服す印度袈裟の舊式に本つく其後紅教は專ら密咒を持す其流弊刀を呑し火を吐き以て俗人を炫するに至り盡に戒定慧の宗旨を失ひ師巫に異なることなし宗喀巴初め紅教を習ひ既にして深く時數を觀し當に教を改立すへしとし卽ち衆徒を會し自ら黃色の衣冠を服す或は曰く宗喀巴幼にして神異あり佛法に精通し甲勒瓦と號す大雪山に苦行す初め出家して薩迦廟の呼圖克圖に學ぶ乃ち元代發思巴の後にして紅教の祖なり相傳ふ其戒を受くる時僧帽を染むるに諸色成らずして惟黃色成立せり因て黃色を服せりと又二大弟子に遺囑し世々呼畢勒罕（ホビルハン）を以て轉生し大乘教を演ぜしむ呼畢勒罕は化身の義なり二大弟子の一を達賴喇嘛と曰ひ一を班禪喇嘛と曰ふ（魏源曰く班禪剌嘛又稱して額爾德尼と云ふ譯言すれは光顧なり相傳ふ達賴は觀音分體の光となし班禪は金剛の化身となす印土に在て已に輪生すること數十世其設群にすることを得すと云ふ）皆死て其通を失はず自ら往生する所を知る其弟子輙ち迎て之を立つ常に輪回にありて本性不昧とす故に達賴班禪は世を易て互に相ひ師となる其教は皆見性度生を重んし聲聞小乘及幻術の下乘を斥く明朝の中葉に當り已に遠く紅教の上に出づ未だ嘗て封を中國に受けず中國も亦之を知るなきなり達賴一世を敦根朱巴（一名羅倫嘉穆錯と云ふ）と曰ふ卽ち唐代贊普の後裔にして世々西番王たり是に至て位を捨てゝ出家し宗喀巴の法を嗣き其衣鉢を傳ふ始て法王を以て西藏王の事を兼す其二世を根敦嘉穆錯と曰く自ら第巴（國事を管理する職名）等を置き兵刑賦稅の事を代理せしめ其高弟子を胡圖克圖と稱し教化を分掌せしむ明の正德年代に當り始めて活佛を以て中國に聞ゆ武宗中官を遣し將校十人兵士千人を率ゐて之を迎ふ達賴行くゝを願はず國人之を匿せり將士威すに兵を以てせんと欲し却て西番人の爲めに敗られ遁れて還る武宗殂し世宗立つ果して盡く番僧を斥遣し繼て又道教を崇ひ佛を信ぜず人始て達賴の行くゝを欲せざるは前知するものありとなす其三世を錯南嘉穆錯（一名錯南堅錯）と曰ふ其名益

著はる青海河套の諸蒙古嚮服せざるはなし明の慶隆年中蒙古の順義王俺答、青海に據有するや躬ら西藏に入り達賴を迎て青海に至らしめ仰華等を建て之を奉じ大に諸部を會て長生水を飲む達賴其好殺を戒め勤て東に還らしむ而して俺答も亦其中國に通するを勸む達賴甘州より大學士張居正に書を遣り自ら釋迦牟尼比丘と稱す中國始めて活佛其人あるを知る實に禪定慈忍淵默を得て他の心宿命通り具すると雖自ら耀さず是に於て大寶大乘諸法王等皆首を俯て弟子と稱し改て黃教に從へ諸部を化行し東西數萬里熬茶膜拜視て天神の如くす諸番王徒に虛位を擁し復た能く其號令を施す能はず其四世を雲丹嘉穆錯と曰ふ蒙古に生る圖古隆汗の族なり十四歲にして西藏に入り坐牀し二十八歲にして示寂す故に事蹟著しからず然れども河套及青海蒙古は皆其戒を守り敢て鈔掠せず西邊枕を安んずるもの五十餘年其五世を羅卜藏嘉穆錯と曰ふ太宗の崇德二年喀爾喀部の三汗奏請して帑使を發し達賴を延請せしむ四年達賴厄魯特の使に因て書を太宗に遺る是に於て達賴、班禪及藏巴汗青海の固始汗清國の東方に興るを聞き各々使を遣し塞外を繞り同七年を以て盛京に至る書及び方物を奉り共に善事を行んことを約す幷せて卦驗を献す必す清國の一統すべきを知る明年太宗使を遣り達賴、班禪を存問し稱して金剛大士とす是を清朝西藏に通ずる始めとす

清國と西藏との關係年史

崇德二年（千六百三十七年）蒙古喀爾喀部の馬哈撒喇諦汗使を遣し朝貢し土產を陳列し且つ表章を上り禮を行ふ其表に曰く聞く達賴喇嘛を延請せんと欲すと誠に是なり此地七固山喀爾喀及四俄一羅特部落も亦之を請はんと欲す乞ふ使を遣り我國を過ぎ同じく往かしめば甚善し我等三汗も亦合に使を遣し安を候ふべしと

三年（千六百三十八年）寔勝寺成る是より先き太宗の蒙古察哈爾部を征するや察哈爾汗惧れて土伯特に出奔し打草灘に至つて死す察哈爾の部衆咸な來つて歸順す內に黑爾根喇嘛あり金身の護法佛を載せて至る初め元の世祖のとき土伯特の發思巴喇嘛あり千金を用て護法の嘛哈噶喇佛を鑄て五台山（山西省にあり）に奉祀す後請て沙漠に移す沙爾巴呼圖克圖喇嘛あり復ね之を元裔の察哈爾部に移す黑爾根喇嘛己に天運の清國に歸するを見て之を奉し來歸す太宗畢禮克圖朗蘇喇嘛を遣り迎て盛原に至らしむ是に於て太宗工部に命じて盛京城の西三重外に於て寺を建て之を供す寔勝寺と名く鐘を鑄て之を懸く重さ千觔東西兩傍に石碑二座を建て東の一碑は前に滿洲字を鐫し後に漢字を鐫す西の一碑は前に蒙古字を鐫し後に土伯特字を鐫す太宗內外王貝勒貝子文武の衆官を率ゐ懷遠門を出て寔勝寺に幸す畢禮克圖朗蘇喇嘛太宗を引き佛位前に至る衆喇嘛及僧俱に樂を作し經を誦す太宗衆を率ゐ三跪九叩頭の禮を行ひ後儀門外に御して宴を開く

四年（千六百三十九年）太宗察漢喇嘛等を遣て書を土伯特汗に致す左の如し

大清國寛溫仁聖皇帝書を土伯特汗に致す古より國君制する所の經典は朕其限絶して傳わらざるを欲せず故に特に使を遣て聖僧を延致す爾ち乃ち土伯特の主は能く佛教を天下に施すの賢人なり倘し前來せは則朕心甚だ悅ぶ延請する所以の詞に至ては俱に遣る所の額爾德尼達爾漢等の使臣に著して口傳せしむ

五年（千六百四十年）書を土伯特の諸木漢喇嘛に遣る左の如し

寛溫仁聖皇帝書を諸木漢喇嘛に致す喇嘛は聖道を護持し群主を利濟し能く普く此二事を行ふを以て朕心甚悅ふ是を用て書を致して報答せしむ喇嘛は土謝圖汗に詢ふべし若し來るを許さば卽ち人をして報知せしめよ朕當さに使を遣し敦く請ふべし若し喇嘛意なくんば或は爾ぢ允せざるなり當に之を明言すべし

七年（千六百四十二年）土伯特國の達賴喇嘛伊喇固克散呼圖克圖厄魯特部の代青綽爾濟等を遣し盛京に至らしむ太宗親く諸王貝勒大臣を率ゐ懷遠門を出て之を迎ふ太宗衆を率ゐ天を拜し三跪九叩頭の禮を行ふ畢て伊喇固克散等達賴喇嘛の書及ひ黃氈氊を捧て大宗に上る太宗立て之れを受く遂に手を携て相見る是に於て乃ち古安式安布に命て達賴喇嘛及び土伯特國藏巴汗の來書を宣讀せしめて茶を賜ふ喇嘛等誦經一遍して方に飲む仍て大に之を宴す伊喇固克散胡圖克圖及び之れと同じく來る喇嘛等各々駝馬其他に西番菩提の數珠、黑狐皮、羢褐、花毯、茶葉、狐腋裘、狼皮等の諸物を獻す仍て之を酌納す

八年（千六百四十三年）土伯特國達賴喇嘛の使者伊喇固克散呼圖克圖及び厄魯特部の代青綽爾濟等を大に崇政殿に宴し仍て八旗の諸王貝勒等に命じ各々大宴一次而して五日毎に筵を備ふること一次とす留居する八閏月是に至り遣還す伊喇固克散呼圖克圖及同來の喇嘛等に銀、器、緞朝衣等の物を賜ふこと差あり太宗諸王貝勒等を率ゐ送て演武場に至り大宴して之を餞す大宗より達賴喇嘛に與ふるの書左の如し

大清國寛溫仁聖皇帝乃ち書を金剛大土達賴喇嘛の座前に致す今者因て承す喇嘛一應に衆生を極濟するの念あつて其佛法を興扶せんと欲し乃ち使を遣はし來つて書を通す朕心甚歡悅せり茲に特に恭しく吉安を候す凡そ言んと欲する所あれば俱に察干格龍巴喇等をして之を口悉せしめよ附するに金碗一、銀盆一、銀茶桶三、瑪瑙杯一、水晶杯二、玉杯六、玉壺一、鍍金甲二、玲瓏撒袋二、彫鞍二、金鑲の玉帶一、鍍金銀の帶一、玲瓏刀二、錦緞四を奉ず特に以て侑緘す又班禪呼圖克圖、紅帽喇嘛、昂邦薩斯蝦濟東呼圖克圖、羅克巴呼圖克圖、達克龍呼圖克圖等に與るの書皆同じ

是年厄魯特部の願寇汗使を遣はして奏言す達賴喇嘛切德甚だ大なり應に請て京都に至らしめ生靈を福祉するの計をなすべしと

大清國寛溫仁聖皇帝書を土伯特汙に致す古より國君制する所の經典は朕其愞絶して傳わらざるを欲せず故に特に使を遣て聖僧を延致す爾ち乃ち土伯特の主は能く佛教を天下に施すの賢人なり倘し前來せは則朕心甚だ悅ぶ延請する所以の詞に至ては俱に遣る所の額爾德尼達爾漢等の使臣に著して口傳せしむ

五年（千六百四十年）書を土伯特の諾木漢喇嘛に遣る左の如し

寛溫仁聖皇帝書を諾木漢喇嘛に致す喇嘛は聖道を護持し群主を利濟し能く普く此二事を行ふを以て朕心甚悅ぶ是を用て書を致して報答せしむ喇嘛は土謝圖汙に詢ふべし若し來るを許さば卽ち人をして報知せしめよ朕當さに使を遣し敦く請ふべし若し喇嘛意なくんば或は爾ち允せざるなり當に之を明言すべし

七年（千六百四十二年）土伯特國の達賴喇嘛伊喇固克散呼圖克圖厄魯特部の代青綽爾濟等を遣し盛京に至らしむ太宗親く諸王貝勒大臣を率ゐ懷遠門を出で之を迎ふ太宗衆を率ゐ天を拜し三跪九叩頭の禮を行ふ畢て伊喇固克散等達賴喇嘛の書及び黃氈を捧て大宗に上る太宗立て之れを受く遂に手を携て相見る是に於て乃ち古安式安布に命て達賴喇嘛及び土伯特國藏巴汙の來書を宣讀せしめて茶を賜ふ喇嘛等誦經一遍して方に飲む仍て大に之を宴す伊喇固克散胡圖克圖及び之れと同じく來る喇嘛等各々駝馬其他に西番菩提の數珠、黑狐皮、戎褐、花毯、茶葉、狐腋裘、狼皮等の諸物を獻す仍て之を酌納す

八年（千六百四十三年）土伯特國達賴喇嘛の使者伊喇固克散呼圖克圖及び厄魯特部の代青綽爾濟等を大に崇政殿に宴し仍て八旗の諸王貝勒等に命じ各々大宴一次而して五日毎に筵を備ふること一次とす留居する八閏月是に至り遣還す伊喇固克散呼圖克圖及同來の喇嘛等に銀、器、緞朝衣等の物を賜ふこと差あり太宗諸王貝勒等を率ゐ送て演武場に至り大宴して之を餞す大宗より達賴喇嘛に與ふるの書左の如し

大清國寛溫仁聖皇帝乃ち書を金剛大土達賴喇嘛の座前に致す今者因て承す喇嘛一應に衆生を極濟するの念あつて其佛法を興扶せんと欲し乃ち使を遣はし來つて書を通す朕心甚歡悅せり玆に特に恭しく吉安を候す凡そ言んと欲する所あれば俱に察干格龍巴喇等をして之を口悉せしめよ附するに金碗一、銀盆一、銀茶桶三、瑪瑙杯一、水晶杯二、玉杯六、玉壺一、鍍金甲二、玲瓏撒袋二、彫鞍二、金鑲の玉帶一、鍍金銀の帶一、玲瓏刀二、錦緞四を奉ず特に以て侑緘す又班禪呼圖克圖、紅帽喇嘛、昂邦薩斯蝦濟東呼圖克圖、羅克巴呼圖克圖、達克龍呼圖克圖等に與るの書皆同じ

是年厄魯特部の願寔汙使を遣はして奏言す達賴喇嘛切德甚だ大なり應に請て京都に至らしめ生靈を福祉するの計をなすべしと

順治元年（千六百四十四年）世祖使を土伯特に遣し伊喇固克散呼圖克圖喇嘛と偕に往て達賴喇嘛を迎ふ仍て書を以て厄魯特部の顧寔汗に諭て之を知らしむ

三年（千六百四十六年）先に土伯特に差往せし察罕喇嘛京師に至る達賴喇嘛及厄魯特部の顧定汗等班弟喇嘛を差し同く來らしめ表を上り安ら候し金佛、念珠、毯氈、絨、盔甲、馬匹等の物を獻す仍て盔甲、弓矢、撒袋、大刀、鞍、轡、銀器、緞匹、皮張等を以て之に賞答す

四年（千六百四十七年）是より先達賴喇嘛、班禪呼圖克圖、巴哈呼圖克圖、魯克巴呼圖克圖、伊爾禮爾薩布呼圖克圖薩恩札喇嘛、額爾濟東呼圖克圖、伊恩達克隆呼圖克圖、諾們汗等各々書を上り安を問ひ並に方物を献ず是に至り喇嘛蝦格隆等を遣し存問し各々金玉、器皿、緞匹彫鞍、甲冑等の物を賜ふ此年又達賴喇嘛及班禪呼圖克圖表を上り功德を頌し並に方物を献す又席勒圖諾顏呼圖克圖及伊思董利爾詹洋査木蘇等各書を上り和を求め併て馬匹を獻ず

五年（千六百四十六年）烏斯藏の闡化王舒光等使を遣し一千人を率ゐ方物を貢す舒光等の貢使銷南必拉式に號を賜ひ妙勝慧智灌頂國師となし之に誥命を賜ひ併て舒光等に勅諭し三年進貢する一次毎次白人を以て貢進し其十五人は京師に到ることを準し其餘は邊に留るを以て定例とす

八年（千六百四十九年）多卜藏古西等が土伯特國に遣し諭書禮物を賜ひ往て達賴喇嘛を召はしむ

九年（千六百五十年）土伯特國の達賴喇嘛來朝せんとし起行の日期を表奏す世祖理藩院侍郎沙濟達喇等を遣し之を迎へしむ達賴喇嘛奏して朝見の地或は歸化城に於てすべきや又は代噶地方に於てすべきやを請ふ世宗諸王、貝勒、大臣、九卿、科、道に諭て曰く大宗皇帝の時に當り尙喀爾喀の一隅未だ服せざるあり外藩蒙古は唯だ喇嘛の言を是れ聽くを以て因て達賴喇嘛を延講せんとす其使未だ還らざるに大宗皇帝晏駕せり後睿王攝政の時使を遣り往て達賴喇嘛を延講せしむ達賴曰く我今往かず然りとも我必ず往んと欲す卯年（順治九年）に於て馬匹を送り來るべし辰年（同十年）前往くべと朕政を親らするの後之を召へり今達賴喇嘛即ち行を啓せり來從のもの三千人朕親ら邊外しに至り之れを迎へ達賴をして邊外に住せしめんと欲す外藩蒙古の貝子等達賴を見んと欲するものは即ち外に在て相見るべし若し達賴をして內地に入らしめば今年の歲收甚だ歉なり達賴の從者又衆し恐らくは我に於て益なからん倘し往て之を迎へされは我既に之を召ふを以て來れり必す中途より返らん恐くは喀爾喀部之に因て來つて歸順せざるへし之を迎ふる理に合するや否や爾等各々所見を舒へ以て奏せよと滿洲諸臣に議て曰く我等往て請は、達賴即ち來らん上親ら邊外に至り之を迎へ達賴をして邊外に住らしめん達賴內地に入らんと欲せは少く隨從を帶ひ內に入らしめ如し外に在るを欲せは其自便を聽すへし上親ら往て之を迎ふれは喀原喀も亦之に從て來り大に裨益あらん特請して迎へさるは恐くは理に於て未た當らすとなす我敬する所の禮を以て達賴を敬し而して喇嘛の教に入らさるも亦何そ妨けんと衆漢臣議して曰く天下國家の主とな

るもの當に往て達賴を迎ふへからす達賴の從者三千餘人又歳歉に遇ふ内地に入らしむへからす特に請ふの故を以て諸王大臣の中に於て一人を遣り代て之を迎へしむへし且達賴をして邊外に住らしめ之に金銀等の物を遣るも亦之を敬する所以なりと兩議具奏す世祖曰ふ朕當に之を裁すへしと仍て達賴喇嘛に諭て曰く朕邊を出て躬ら迎へんと欲するも内地西南盜發り羽書時に聞ゆ國の大務以て輕しく置き難し是を用て邊を出て遠く迎ふる能はす特に親王大臣を遣り前往せしむ寇靖し事無きを俟ち便ち親ら往くことを圖らん倘し仍ほ事あらは惟邊内近地に於て相迎ふへし達賴喇嘛再ひ奏請す世祖之を諭て曰く爾邊内に疾疫多く邊外に於ての相見ゆるを以て便となす今朕邊外代噶地方に至り爾を迎ふべしと達賴喇嘛又奏す欽賞及勅諭は俱に已に到れり今兼程前進して代噶地方に至るを俟ち尚密奏するとあるべし世祖將に親く代噶地方に往かんとす大學士洪承疇陳之遴等言ふ臣等欽天監の奏を閲するに昨太白星日と光を爭ひ流星紫微宮に入ると竊に思ふに日は人君の象なり太白敢て明を爭ふ紫微宮は人君の位なり流星敢て突入するは上天象を垂る誡に宜しく警惕すべし且つ今年南方は旱に苦み北方は澇に苦む歳飢寇警處々より入告せり宗社は重大なり聖躬遠行の時にあらず百神呵護し六軍扈從して自ら他虞なしと雖邊外は宮中の固しとなすに拘かず遊幸は靜思するの安しとなすに若かず達賴喇嘛遠方より來れり一大臣を遣し迎接せり已に優待の意を見るに足り亦蒙古の心を服すべし何そ聖駕親ら往くを勞することを

んなさや天道深遠なり固より臣等の能く測度する所にあらず但し乘輿將に駕せんとす而して星變適々彰る此れ誡に上蒼陛下を仁愛するの意なり深思して戒めざるべからず上疏人る世祖曰く此奏甚是なり朕の行即ち停止せんと達賴喇嘛又奏す帝代噶地方に於て相見んと欲す懼忤に勝へす自ら當に兼程して進むべし更に密語あり去使面奏すべしと世祖和碩承澤親王碩塞等に命じ往て達賴喇嘛を迎へしめ并せて之に諭て曰く前者貶諭を下し親ら往て迎逐せんとす近々盜賊間々發し羽檄時に聞く國家の重務輕しく置き難きを以て前往して迎逐する能はず特に和碩承澤親王及内大臣を遣し代て迎へしむ當に朕が親ら行く能はざるの意を悉すべしと達賴喇嘛京師に至る世宗南苑に延き之を謁す坐を賜て宴す達賴喇嘛馬四方物を進む世宗之を納る世宗復た大和殿に御して宴を賜ひ金器、綵緞、鞍馬等の物を賜ふ又厄魯特部の顧寔汗も亦表を上り方物を貢し兼て達賴喇嘛の歸國せんことを請ふ此年烏斯藏天全、六番、董卜韓胡、黎州、長河西、魚通、寧遠、泥溪、沈村寧戎（天全以下皆今四川省西北部の地）等の土司各前朝の勅印を徴して歸順す

十年（千六百五十一年）達賴喇嘛奏言す此地水土宜しからず身既に病み從人も亦病む意ふに告歸せんことを欲すと世祖議政王貝勒大臣に命して會議し具奏せしむ其一議に曰く達賴喇嘛は原と特に之を召ふに係る當に其事情を詢ふへし倘し一も詢問を加へす達賴をして慍を含て去らしめは則喀原喀厄魯特等の各部必す叛かん如し之に詢ひ達賴の言我に宜くは則從はん我に宜しか　されは則已

に詢問せさるへからさるに似たりと其一議に曰く達賴に詢問すへからす若し之に詢て其言を用ゐされば達賴益慍を含んで去らん且天佑を荷ひ各處を征服し以て大業を成す其時亦達賴なきなり既に特召に係る當に賜ふに金銀緞幣を以てし名號を酌封して之に冊印を給すべし詢問を加へさるを以て便とすと二議奏入す世祖曰く達賴に事情を詢問するは之を止めよと仍て部臣をして達賴に諭せしむ曰く云ふ所、水土宜しからずと良に是なり我等始て此地に至る亦嘗て水土宜しからすして病めり後乃ち相宜し達賴既に來る且つ此に留れり從容として代噶に往き草青の時を待ち更に外藩の王貝勒等を召ひ達賴と相會せしむべしと世祖太和殿に御て之に宴を賜ひ併せて鞍馬、金銀、珠玉、緞匹等の物を賜ふ皇太后も亦金銀緞匹を賜ふ達賴喇嘛辭して還る和碩承澤親王碩巴に命じ固山貝子古爾瑪紅及び吳達海と偕に八旗官兵を率ゐ送て代噶地方に至らしめ又叔和碩親王濟爾哈朗、禮部尚書覺羅郎丘、理藩院侍郎古達禮等を代噶地方に遣し達賴喇嘛を封ずる金冊金印を賚送す滿漢及唐古特の國字を用ゆ其文左の如し

朕聞く獨善を兼修するは開宗の義と同じからず世々出世間にして教を設くるの途亦異なり然り而して開心見性と淑世覺民とは其歸一なり茲に爾ち樂布藏札暴素達賴喇嘛襟懷貞朗、德量淵派、定慧雙び修め色空俱に泯ふ以て能く釋教を宣揚し愚蒙を誨導せり因て其化西方に被り其名東土に馳す我皇考太宗文皇帝之を聞て欣尚し時に使を遣はし迎聘せり爾ち早く天心を識り許すに辰年を以て來り見んとす朕皇天の眷命を荷ひ天下を撫有す果して期するが如く聘に應じて至れり儀範親むべく語默度あり般若圓通の境に臻り慈悲攝受の門を擴くし誠に覺路の梯航禪林の山卡なり朕甚だ之を嘉す茲に爾を冊封し西天大善自在佛所領天下釋教普通瓦赤喇怛喇達賴喇嘛となす却に應じ身を現じ佛化を興隆し機に隨ひ法を說き群生を利濟する益々休らさらんや

達賴喇嘛代噶の地より起程して國に還る世祖固山貝子吳達海に命て其行を祖せしむ達賴喇嘛表を上り冊印及封號を領賜するを謝て附て馬四琥珀等の物を献す是年烏斯藏の闡化王鎖南必拉式を遣し來貢す

十一年（千六百五十二年）世祖使を遣し達賴喇嘛及厄魯特部の顧寔汗及班禪呼圖克圖等を存問し賜ふに嵌松子石、珊瑚、金茶桶及ひ玉瓶、緞匹等の物を以てす

十三年（千六百五十四年）烏斯藏の闡化王國師堅錯那卜等を遣し方物を貢す宴賚例の如くす是年世祖錫喇嘛、薩穆譚格龍喇嘛等を遣し勅印を賚して盆挫監挫を封し闡化王となす

十四年（千六百五十五年）平西王吳三桂烏斯藏の大乘法王、大寶法王及ひ四川三十六州縣を招降す

十七年（千六百五十八年）烏斯藏の大寶王哈里麻巴僧を派し漢字の印表一、番字印表一を齎し併て方物を進

貢す

康熙十三年（千六百七十四年）平西王吳三桂謀叛す聖祖青海蒙古の兵に命じて松潘廳の地より四川に入らしむ達賴喇嘛の第巴（國事を任ずる職名）三節なるもの（或は桑結に作る）達賴喇嘛をして聖祖に上書せしめて曰く吳三桂若し窮蹙して降を乞へは其一死を宥し倘し竟に鴟張せは土を裂き之に與へ兵を罷むるに若かすと聖祖嚴に之を斥く吳三桂の雲南に王たるや毎歲人を西藏に遣し煎茶して達賴喇嘛を拜せしめ舊誼あるを以てなり後清兵の吳世璠（吳三桂の孫）を雲南に圍むに當り書を西藏に通し中甸、維西（今雲南省に屬す）の地を割き之を與へ援を青海蒙古に求む其書遂に清兵の爲めに獲られ其事を達する能はす而して聖祖之を問はざるなり初め土伯特は四部に分る東部を喀木と曰ひ青海と曰ふ西部を衞と曰ひ藏と曰ふ青海の顧寔汗は本と蒙古厄魯特部の人なり明季にあつて東二部を呑併す青海の地廣きを以て子孫をして游牧せしめ喀木は其賦稅を顧寔汗に致せり衞の地は第巴三節達賴喇嘛を奉て之に居り藏の地は藏巴汗之に居る三節藏巴汗と相合せず藏巴汗か其部衆を虐し黃教を毀ると謂ふを以て師を顧寔汗に乞ひ之を剪滅し其地を以て班禪と達賴を居き分て二藏に主たらしめ盡く紅帽花帽の諸法王を逐へり其事崇德十年（千六百四十五年）にあり是に於て紅教は益微にして第巴三節の威力大に熾にして以て事を專決するに至れり

二十一年（千六百八十二年）第五世達賴喇嘛卒す第巴桑結（又三節に作る）國事を專らにせんと欲し喪を秘て發せず僞り曰く達賴喇嘛に常に入定し高閣に居て人を見ずと萬事皆達賴喇嘛の命と稱し之を行ふ是より桑結益專横なり

二十九年（千六百九十年）準噶爾部の噶爾丹漠南に寇す清兵之を烏蘭布通の埠に敗る噶爾丹濟隆呼圖克圖に託し代て和を乞はしめ佛を頂し誓を立て遁逃す噶爾丹は四厄魯特の一綽羅斯部の人なり伊犂に遊牧す初め噶爾丹西藏に入り喇嘛となり第巴桑結と相暱し其兄僧格死するに及び伊犂に還り兄の子索諾木阿布坦を殺し汗位を篡ひ遂に他の三部を合せ準噶爾博碩克圖汗となり自ら達賴喇嘛の封を受くると稱す又外蒙古喀爾喀部も亦曾てより黃教を奉じ常に西藏に入り達賴喇嘛を拜す其途厄魯特部の爲めに隔てらる仍て宗喀巴（黃教の始祖）第三の弟子哲卜尊丹巴の後裔を延請し大呼圖克圖となし庫倫に於て之を奉ずること數十年時に喀爾喀部の車臣汗と土謝圖汗と交々惡く兵を構ふ聖祖使を遣り達賴喇嘛に命て之を和解せしむ第巴桑結奏て準噶爾部の西勒圖（蒙古に喇嘛の坐牀ぜるもの）を四勒圖と云ふをして往かしむ蓋し達賴喇嘛の大弟子なり而して喀爾喀部の哲卜尊丹巴も亦聖祖の詔を奉て盟壇に盜み西勒圖と並び座せり噶爾丹其族人多爾濟札布を遣り之に隨はしめ其釁を窺ふ仍て喀爾喀部、達賴喇嘛の使者を待する無禮なるを責め之を詬る遂に土謝圖汗の爲めに殺さる是に於て噶爾丹幟鏃を以て名とし其部を侵襲す土謝圖汗東に走り之を清廷に訴ふ聖祖達賴喇嘛に命じ使を遣し兵を罷めしむ第巴桑結、濟隆呼圖克圖を使し反て陰に嗾せしむ聖祖之を討す準噶

爾兵の敗るゝや第巴桑結内に懼るゝ所あり乃ち達賴喇嘛の意に託し青海蒙古及厄魯特の各臺吉を會し聖祖に尊號を奉らんとす聖祖之を受けず且屢々京師の喇嘛を西藏に遣し之を探らしむ皆還て言ふ第巴桑結己をして遙望禮拜せしめ達賴喇嘛は高樓の上にあつて絳紗の中に立てり然れども香煙繚繞し之を覩るも分明ならずと

三十三年（千六百九十四年）達賴喇嘛年己に老邁し國事は第巴桑結に決せり乞ふ之に封爵を賜へと聖祖詔て第巴桑結を土伯特國王となす

三十五年（千六百九十六年）聖祖自ら噶爾丹を討して克魯倫何に至る噶爾丹敗竄す其部下を慰て曰く此行は我意にあらず乃ち達賴喇嘛の使來り言ふ南征するは大吉なりと是を以て深入せしなりと聖祖謂く達賴喇嘛存ずれば必ず是事なしと乃ち使を遣し第巴桑結に書を賜て曰く朕之を番人に詢ふに皆言ふ達賴喇嘛緇衣を脱する久しと爾ち今に至るまで匿して奏問せず且つ達賴喇嘛存するの日塞外無事なるもの六十餘年爾ち屢々噶爾丹を唆し兵を興さしめて禍を樂む道法安れかある達賴と班禪とは分て教化を主り向來相代て世を持す達賴如し果して世を厭はゞ當に之を護法主に告げ班禪を以て宗喀巴の教を主らしむべし乃ち衆人をして班禪を尊はす而して已れを貶はしめ又班禪か京師に進むの行を阻礙す浚喀爾喀と準噶爾の西部をして和解せしめんと欲す爾ち虧行なる濟隆喇嘛をして以て往かしめ烏闌布通の役に賊軍の爲め日を卜し經を誦し蓋し山上に張て戰を觀る勝ては則帕（首額の飾軍容を盛にするなり）を献し勝たざれば即又代て爲めに和を講し以て我邊師を誤る爾ち曾て噶爾丹を祖述するも今已に殄滅せり（噶爾丹漠北に留る後伊犂の舊部は其兄の子策妄那布坦の爲めに并され阿爾泰山以西の地皆之を失ふ噶爾丹進退據る所なく遂に藥を仰て死せり）仍て使を遣り噶爾丹の佩刀一及ひ其妻阿奴の佛像一佩符一を以て往て之を賚ふ爾達賴喇嘛をして使者と相見せしむへし且班禪喇嘛をして京師に來らしめ濟隆喇嘛を執て我に卑へよ如し其れ然らされは朕雲南四川陝西の師に檄して爾を城下に見せしめんとす爾其れ四厄魯特の衆を糾合し以て之を待て其れ悔ゆると毋れと第色桑結皇恐す

三十六年（千六百九十七年）第巴桑結使を遣り密に奏言す衆生の爲め不幸にして第五世達賴喇嘛は壬戌の年已に示寂せり轉生の靜體は今十五歳なり前には唐古特民人の變を生せんことを恐る故に未た喪を發せす當に是年十月二十五日を以て出定して坐牀すへし切に大皇帝の宣泄することなきを求む班禪喇嘛に至つては未た出痘せさるに因て敢て京都に至らす濟隆喇嘛は當に力を竭し之を索め京都に致すべし其身命を全して戒體せんとを乞ふ並に達賴喇嘛臨終の牀賚尸鹽の拌像を封進すと聖祖爲に之を秘し是年の十月に至り内外に宣示す而して第巴桑結の使者還る途に策妄那布坦に遇ふて噶爾丹を擒にする兵に會す之に告て曰く達賴喇嘛已に世を厭へり爾の部落兵妄行するを得る毋れと策妄那布坦哭し而て歸る聖祖　第巴桑結の終始反覆して兩端を持するを以て乃ち其使を追還し傳して　各蒙古を集め第巴桑結か密封を宣示す　第巴桑結は策妄那布坦か盡準噶

爾の故地を收め噶爾丹をして歸する所なきを致せしを忌み奏して其猖獗を防かんとす而して策妄那布坦も亦第巴桑結の奸謀にして其立つる所の新達賴の僞なるを奏し詞を藉り西藏を侵さんとゝ曰く西藏の舊例として能く敎を掌るものを以て之を敎を掌るものに傳ふ宗門開てより以來普通菩薩（達賴喇嘛を云ふ）海潮大士（班禪喇嘛を云ふ）皆是の如くならざるはなし達賴喇嘛圓寂するの後第巴桑結之を匿して宣せず正傳の聖徒たる班禪を捨て以て自ら其身を尊くし別に紅敎喇嘛を奉じ即ち達賴の化身と謂ふ傳法の旨を詐り諸部を擾亂す此れ青海諸台吉の共に知る所なり請ふ其罪を正明せよと聖祖二人皆測り難きを以て之を許さず

四十四年（千七百〇五年）第巴桑結謀て拉藏汗を毒殺せんとし遂げず兵を以て之を逐んと欲す拉藏汗衆を集め第巴桑結を討して之を誅戮す聖祖詔て拉藏を翊法恭順汗となす拉藏は青海顧寔汗の孫なり顧寔汗巴に衛藏二地を以て達賴と班禪との香火地となし其長子鄂齊爾汗を留め其衆を統轄せしめ次子達賚巴圖爾台吉をして之を佐けしむ顧寔汗は順治十三年（千六百五十六年）に卒し鄂齊爾汗は康熙九年（千六百七十七年）に卒す達賚の子拉藏汗、爵を嗣くの後議て新達賴喇嘛を立てゝとす故に第巴桑結と交々惡し是に至り奏して第巴か立つる所の假達賴を廢せんとし兵を構し第巴遂に亡ふ聖祖詔て假達賴を執て京師に送らしむ行て青海に至り病死す拉藏汗、西藏人と圖り博克達山の伊西嘉穆錯を立て第六世達賴喇嘛とす而して青海の諸蒙古復之を信ぜず屢

に裏塘の噶爾藏を奉し眞の達賴喇嘛とし諸蒙古之を迎て青海に至り坐牀せしめ奏して冊印を賜ふことを請ふ是に於て西藏奏する所と相是非す聖祖其釁を構せんとを恐れ詔て青海の達賴喇嘛をして暫く西寧衛（今の西寧府）紅山寺に居らしめ又塔爾寺に移す（塔爾寺は西寧府城西南四十里塔山にあり宗喀巴の胞衣を瘞するの地にして黃敎の大寺なり）兩部の爭議未だ決せず是に於て策妄那布坦が西藏を擾亂するの事起れり

五十五年（千七百十六年）策妄那布坦、其台吉大策零敦多布を遣し精兵六千を領し戈壁を繞り和闐の南大雪山を踰へ險を涉り瘴を冒し晝伏夜行し始めて西藏の界に達す丹衷夫爲を送て西藏に至るを以て名とす初め策妄那布坦拉藏汗の姉を娶り又拉藏汗の子丹衷を伊犂に迎へ其女に贅せり聖祖準噶爾の譎詐なるを以て拉藏汗に勅て親疏を恃むとなく備防せしむ而して拉藏汗惑して酖飲し以て意となさず布達拉の西北三百里に騰格里海あり西は後藏に接し其北岸は大山橫亘せり乃ち準噶爾より西藏に入る必由の路とす鐵索橋の天險あり一夫隘を拒に萬衆趦趄す又更に旁徑なし拉藏汗亦之を守らず準噶爾兵騰格里海より突入し唐古特兵を敗り遂に布達拉を圍攻す其衆を誘ひ內應せしめ門を開き拉藏汗を執て之を殺す旦其妻子を虜にし各廟の重器を搜索し之を伊犂に送り新達賴喇嘛を札克布里廟に禁錮す聖祖西安將軍額倫特に詔し兵數千を以て赴援せしめ而して侍衞色棱を遣し青海蒙古に宣諭し兵を備へしむ七月清軍木魯烏蘇河を踰ゆ色棱は拜都嶺に軍す額倫特の兵庫賽嶺に出づるや準噶爾兵佯り敗れ數々却く而して精兵を喀喇河に伏し以て待つ額

倫特所部を率ゐ疾く趨き先づ河を渡り猥拉嶺を扼せんと欲し北して喀喇河に至り兩軍皆會す準噶爾兵西番數萬を脅從せしめ其半を以て河に據り清兵を拒がしめ而して兵を分て潛に其後に出て餉道を截す清兵相持すること月餘糧盡き矢竭きて大に敗る而して準噶爾兵益熾なり青海蒙古皆兵を西藏に進むることを憚り奏て曰く達賴喇嘛は地に從ひ安禪せしめば王師遠く涉るの勞を免るべしと諸王大臣前敗に懲り亦皆西藏の地は險遠なるを以て兵を進むるの議を決せず聖祖曰く西藏の地は青海滇、雲南蜀四川省を屏蔽す苟も準噶爾之に盜據せば將に邊徼に寧日なからんとす且つ準噶爾能く雪を衝き險に縋して至れり何ぞ況んや我軍おやと遂に軍を出すに決せり

五十七年千七百十八年聖祖皇十四子親王允禵に命じて推遠大將軍となし青海の木魯烏蘇河に屯し兵饟を治せしめ將軍傅爾丹及富寧安等分れて巴里坤及び阿爾泰の地に出で以て其北を獵す而して將軍噶爾弼は四川に出て將軍延信は青海に出で兩路より西藏を擣かんとす是に至り西藏人も亦青海にある達賴喇嘛の眞にして西藏立つる所の贋なるを知り合詞して禪榻を擁置せんとを乞ふ聖祖之を許して丹印を給す

五十九年千七百二十年蒙古の汗王貝勒臺吉等各々自ら所部の兵或は數千或は數百を率ゐ清兵に隨ひ達賴喇嘛に扈從して西藏に入る軍容甚だ盛なり準噶爾の大策零敦多布中路より自ら青海の軍を拒き而して其宰桑を分遣し兵三千六百を以て南路を拒く南路の將軍噶爾弼は巴塘裏塘の西番を招撫し進て察木多に至り洛隆宗三巴橋の險を奪ひ又大將軍の檄を奉じ期を俟ち並に進まんとす噶爾弼其期久くして糧の匱んことを恐れ副將岳鍾琪の西番を以て西番を攻むるの計を用ひ即ち土司を招き前驅となし皮船を集め河を渡り直ちに西藏に趨き番兵七千を降し兵を分ち險を塞ぎ敵の饟道を扼す而して青海の軍も亦三たび其中途に於て營を刼すの敵兵を敗る斬俘千計準噶爾兵進退敵を受け遂に大に潰へ敢て西藏に還らす即ち舊路より北に竄れ崎嶇凍餒して伊犂に還るを得るもの其半に及ばず聖祖詔て達賴喇嘛に宏法覺衆の四字を加封し九月に於て登坐す此を第六世達賴喇嘛とす而して拉藏汗立る所博克達山の喇嘛を執て京師に送り盡準噶爾喇嘛の逆を助けしものを誅し蒙古兵二千を留め拉藏汗の舊臣貝子康濟鼐をして前藏を掌らしめ臺吉頗羅鼐に後藏を掌らしむ聖祖親ら西藏を平定するの碑文を製し石に勒して之を布達拉の大召寺に建つ

雍正二年千七百二十四年西藏の噶布倫國事を掌る職名等三人貝子康濟鼐の權を忌み兵を聚め之を害し準噶爾に投ぜんと欲す世宗將軍查郎阿に詔て四川、陝西、雲南三省の兵一萬五千を率ゐ進討せしむ未だ至らず而して臺吉頗羅鼐後藏及び阿里の兵九千を率ゐ賊の去路を截し首逆を擒にす詔て頗羅鼐を以て貝子に進め總藏事となし犒兵銀三萬兩を賜ふ且つ正副大臣二人を留め四川、陝西の兵二千を領し分つて前後藏に駐紮し之を鎮撫せしむ是を駐藏大臣の始めとす是年準噶爾の策妄那布坦死し其子噶爾丹雲楞嗣き西藏に赴き煎茶頂佛せんとを請ひ且つ曾て虜する所拉藏汗の二子を送還

すと聲言す世宗之を許さず詔て兵を嚴にし之に備へしめ乃ち前藏の東南部巴塘裏塘の地を收め四川省に歸せしめ宣撫土司を設て之を治せしむ其中甸及維西の地は雲南省に隸し二廳を設け之を治せしめ惟察木多以下の各土司は仍ほ西藏に隸し達賴喇嘛を西裏塘の惠遠廟に移し以て準噶爾の兵を避けしむ

八年（千七百三十年）達賴喇嘛を泰寧に遷し護するに兵一千を以てす毎年夏初西藏の兵は北路騰格里海の險隘に赴防し以て準噶爾兵に備へ積雪山を封するに至つて兵を徹す蓋し準噶爾より西藏に入るの路三あり其極西は葉爾羌より阿里に至る其間大山を隔つ其東路喀喇河に出つるものは又青海蒙古あつて之を隔つ惟、中路の騰格里海に出つるもの衛の地に偪近す故に防守尤も要とす

十二年（千七百三十四年）準噶爾和を請ふ世宗果親王に詔て章嘉呼圖克圖と偕に四川省に赴き達賴喇嘛を送つて泰寧より西藏に還らしむ西藏を戍するの兵四分の三を減ず章嘉呼圖克圖達賴喇嘛の爲め巴塘裏塘の地を以て前藏に還さんことを請ふ裏塘は達賴喇嘛の降生せし地たるを以てなも詔て其商稅を以て之に賜ひ其地は仍ほ內屬とす

乾隆三年（千七百三十八年）準噶爾の噶爾丹策楞復た西藏に入り煎茶頂佛せんことを請ふ高宗始めて之を許るす時に西藏の貝子頗羅鼐前敗に懲り騎兵一萬步兵一萬五千を訓練し準噶爾に通ずるの各路に於て卡倫を設く噶爾丹策楞是より敢て西藏を窺はず而して西南の巴勒布三部（廓爾喀又は濕伯爾と云ふ）及布魯克部（一に布坦と云ふ）相繼て風に嚮ひ西藏の地大に靜謐す詔て頗羅鼐を郡王に晉む

十五年（千七百五十年）是より先頗羅鼐死し其子朱爾墨特封を襲て郡王となる朱爾墨特駐藏大臣の已れに便ならざるを以て先づ奏して駐防の兵を罷めんとす陰に書を準噶爾に通じ兵を請て外應をなさんとす又其兄を襲殺し準噶爾の兵至るゝ揚言し其黨二千を聚め變を謀る駐藏大臣都統傳清、左都御史拉布敦其叛逆を覺り先つ發せんとするも左右に一兵なし乃ち計を以て朱爾墨特を誘ひ寺中に至り樓に登つて手づから之を刃し皆賊黨に害せらる時に第五世班禪喇嘛既に卒す達賴喇嘛公爵班替達をして西藏の事を攝せしめ逆黨を擒にして以て聞す高宗將軍策楞、班弟二人をして兵を率ゐ西藏に至らしめ詔て二大臣の事に先ち變を靖んするを以て一等伯を贈り即ち其地に雙忠祠を立て且つ永く唐古特と準噶爾と往來するの使を禁ず是に至て西藏始めて汗王貝子等を封ぜず四人の噶布倫を以て其權を分たしめ而して之を達賴喇嘛に總ふ駐藏大臣に兵千五百を增し西藏を戍らしむ然れども其國事は猶未だ盡く預り聞かざるなり

二十二年（千七百五十七年）高宗大に準噶爾を征討して伊犁を蕩平す是に於て西藏の地永く準噶爾の患を絕てり初め厄魯特の顧寔汗衞藏の地に據有して諸部に雄視し綽羅斯の噶爾丹西藏より伊犁に還り博碩克圖汗の封を達賴喇嘛に受くると稱し策妄拉布丹も亦西藏より還り實權大慶王の封を達賴喇嘛に受くると稱して皆鐵劵を鑄て梵文を章せり是に於て固爾札廟を伊犁河の北岸に立て海努

克廟を其南岸に立つ西藏に於て掠むる所の供器を取て之に實て厄魯特の喇嘛六千餘人を飯し供養するに九賚集（專ら喇嘛に供養する事務を辨するもの）一萬六百戸を以てす其大喇嘛の坐牀するもの四人西勒圖と曰ふ其經を誦する室を都綱と曰ふ旛刹螺唄幾んど西藏に埒し大疑大計は皆就て決せり策妄那布坦及び噶爾丹策楞及那木札爾三世位を嗣き皆西藏に赴き煎茶諷經せんことを請ひ毎次二十餘萬を費せり清廷も亦茶葉香帕を賜ひ以て其施を助く達爾札達瓦齊の立つことを得ると阿睦爾撒納の釁を構ふと皆伊犁の喇嘛之をなせり阿睦爾撒納の清軍に從ひ伊犁を定むるや即ち人を遣し西藏に赴き煎茶諷經せしめ已れ西藏の四部を總る時を得て當に黄教を振興すべきを祝せり又固爾札廟の喇嘛をして將軍に請はしめ必ず己れ伊犁に主たらんと敗れば則喇嘛の駝馬を刼奪し以て道る高宗準部を平定する碑を撰して曰く其口佛を奉じ其心は夜叉羅刹の人を食ふが如しと清軍再び伊犁に至るに及び皆亡滅す亦黄教の一大變局なり

四十五年（千七百八十年）高宗七旬の萬壽節に當り第六世班禪喇嘛羅卜藏巴丹伊什來朝して祝釐す詔て後藏札什倫布の式に仿ひ須彌福壽廟を熱河に建つ班禪喇嘛は崇德年中より達賴喇嘛と同く使を遣し來貢し順治の初め第四世羅卜垂吉嘉穆錯は其年老たるを以て達賴喇嘛と共に入覲せざりし班禪喇嘛の至るや高宗避暑山莊に接見す舊と達賴班禪は高行あるを以て入覲するや惟々跽して拜せず是に至り班禪固く拜せんことを請ふ高宗其恪敵を嘉し之に從ふ京師に至り南苑の德壽寺に接見す痘を疾て遂に京師に卒す詔て其地に即き清淨化域を建て明春舍利金龕を送て西歸せしむ高宗西黄寺に幸し拈香して之を送る而して其高弟子羅卜藏敦珠布なるものを留め班第二十人を領せしめ札什倫布廟に住持し後藏の經律を傳授す内地の喇嘛百八十人を選び之を習はしむ是年使を遣り冊印を賚ひ第七世達賴喇嘛を封す時に年二十二歳

五十五年（千七百九十年）廓爾喀部（一に濕伯爾と云ふ）西藏に入り邊疆を鈔掠す廓爾喀は本と巴勒布と稱し其地を三部に分てり後其地の一小頭目三部を幷せ一となし廓爾喀と稱す其衆落の地を陽布と云ふ初め班禪喇嘛の京師に卒し其舍利を送て西藏に還るや高宗の錫賚する所且つ各王公及び蒙古各番の供養する所無慮數十萬金而して寶冠、瓔珞、念珠、晶玉の鉢、鏤金の袈裟、旃檀の華旛、采帛、珍瓌勝て計るへからす仲巴呼圖克圖なるものあり班禪喇嘛の兄なり班禪の爲め商上（金銀緞匹珍寶を掌るもの）の事を治す班禪の遺財は遂に盡く仲巴の有する所となる既にして各寺廟と唐古特兵とに布施せす其弟舍瑪爾巴も亦紅教の徒たるを以て其分惠を受くるを得す是に於て舍瑪爾巴垂涎するも遂げず廓爾喀を唆し入寇せしめ之に乘せんとす廓爾喀部は土伯特商税の增額に籍て食鹽に土を糅するを以て詞とし兵を興して邊疆に闖入す土伯特の兵之を鎮壓する能はず高宗侍衛巴忠、四川將軍成德、四川總督鄂輝等を遣し兵を率ゐ之を援剿せしむ而して巴忠等廓爾喀人を剿討せず陰に西藏の堪布等をして私に毎年金一萬五千を與ふることを約せしめ之を調停す達賴喇嘛之を聽さず

巴忠等廓爾喀人降伏せしと奏し其酋長より使を遣し入貢し封を受け國王たらしめんとす後ち廓爾喀人を遣し西藏に至り表貢を齎し並に駐藏大臣の書を致して前約の如くせんとを請ふ鄂輝前事の發覺せんとを恐れ屏て之を奏せず

五十六年（千七百九十一年）廓爾喀前年約する所の歲金を督促するを以て詞とし再舉して聶拉木より後藏の地に深入す駐藏大臣保泰一たび賊の至るを聞き則班禪を前藏に移す仍て賊勢を張呈せしめたり又奏請して達賴を西寧府に班禪を泰寧に移し西藏の地を以て賊に委せんと欲す札什倫布寺は山を負ひ江に面し形勢險峻なり且喇嘛數千あり墉に乘し守り以て援を待つべし而して仲巴呼圖克圖は貲を挈て先つ遁れ喇嘛濟仲札蒼等復た之を吉祥天母にトするに託言し宜く戰へからすとす衆心遂に潰へ賊大に札什倫布を鈔掠し西藏大に震ふ達賴、班禪兩喇嘛飛章を以て急を告く侍衛巴忠高宗に扈從して熱河にありて變を聞き罪を畏れ自ら水に投て死す時に鄂輝四川の總督たり因て盡く罪を以て巴忠に委し曰く彼れ唐古特語を解す故に皆一人の私議する所にして已れ等二人は之を知らすと又命を奉し西藏に赴くや程を按して急進せす高宗二人の恃むに足らさるを知り乃ち嘉勇公福康安に命し將軍となし超勇公海蘭察を參贊となし索倫滿州兵及屯練の土兵を調して進討す其軍餉西藏より以東は四川總督孫士毅之を主とり西藏以西は駐藏大臣和琳之を主とり濟嚨邊外は前の四川總督惠齡之を主とり軍前に於て駐藏大臣保恭を柳し清兵青海の草地より西藏に進む之を打箭爐よりするものに比すれは近きこと三十日程とす賊盡く鈔掠する所の寶物を其部内に送り彊界に留て去らす鄂輝、成德等は兵四千を擁し賊の飽颺するを擊たす又其餘賊を攻めず僅かに其拉木寨の賊百餘を破り賊已に退くと奏し竟に濟嚨絨轄二處の賊情を奏せす高宗之を斥て許さず

五十七年（千七百九十二年）將軍福康安等青海より後藏に至り索倫兵二千金川各土司の兵五千皆集る並に西藏にある清兵三千と共に西藏の裸麥七萬石牛羊二萬餘を采買し一年の糧食に供するに足り內地の轉運を煩はすとなし速に其屯界の賊を敗り盡く西藏の地を復せり仍て大舉して廓爾喀の界に入り三路より進攻して其境を涉る七百餘里其國都陽布の地に逼らんとす是時に方り廓爾喀の南印度に鄰なるの地を拔楞一名噶里噶達と曰ふ久く英吉利の屬國たり曾て廓爾喀と釁あり福康安兵を進むるときに當り廓爾喀に近き東南哲孟雄（一名四金）宗木布魯克（一名布坦）西面の巴作木朗南面の山噶爾（一名榜葛剌）披楞等の部に檄し同時に進攻せしめ事平くの後其地を分裂せしめんとす廓爾喀大に恐れ人を遣し軍に詣り詞を卑ふし哀を乞ふ乃ち其降を允るし盡鈔掠する所の財寶金塔頂金冊印等幷に前に捕へらるゝ所の丹津班珠爾を返し幷に沙瑪爾巴の尸を献せしめ衆を率ひ喇嘛濟仲等を罪し仲巴は禽して之を京師に送り罪を治す廓爾喀馴象番馬樂工を貢し永く約束に遵んとを乞ふ乃ち師を班す高宗本と其地を分裂して各土司に授けんとす已にして降を受くると聞き其請を允

せりと云ふ仍て番兵三千漢蒙古兵一千を以て西藏を戍らしむ是時より駐藏二大臣の行事儀住始めて達賴班禪と平等たり其四噶布倫及び番臣の缺は均く駐藏大臣達賴喇嘛と會同して選拔す是に於て事權始めて一に歸す唐より以來郡縣を以て其地を治する此の如きものあらざるなり是年高宗呼畢勒罕（轉生するを云ふ）を指定するの例を定む初め達賴喇嘛の呼畢勒罕は一世二世は後藏に出で三世は前藏に出て四世は蒙古に出て五世は前藏に出て六世は裏塘に出づ皆一地一族より出づるにあらず班禪及び各大呼圖克圖も亦然り乾隆の末年に至り各大喇嘛は兄弟叔姪にして且蒙古汗王貝勒の子弟に出づ甚しきは哲卜尊丹巴（庫倫の呼圖克圖）の示寂するや適々土謝圖汗の福晉（蒙古汗の妻を云ふ）妊めるあり衆即ち指して呼畢勒罕となす月を彌るに及び竟に一女を生む尤も口實を貽し蒙古の敬信を損せり蓋し宗喀巴言ふ達賴は六世班禪は七世より後は復た再び來らずと故に登座するもの復た眞觀密諦なし祇垂仲の神を降して指示するに憑る垂仲なるものは猶ほ内地の師巫の如し又達賴班禪の親族多く大胡土克圖となり以て財利を專らにし遂に仲巴兄弟の禍あるを致せり高宗久く其弊を悉くし之を革めんと欲す而して未た機會あらず今甲兵の後に於て特に神斷を運し創て金奔巴瓶を頒ち一は前藏の大召寺に供し遇々呼畢勒罕出世して亘報差異なるものあれば籤を瓶中に納れ經を誦じ神を降す駐藏大臣は達賴喇嘛と宗喀巴の廟前に會同し之を掣して呼畢勒罕を定む其瓶は雍和宮に供せり是に於て其弊を矯正するに至れり而して蒙古各札薩克奉する所の胡圖克圖は其呼畢勒罕爲に世に出てんとすれば亦名を理藩院に報ず理藩院の大臣は京師の章嘉呼圖克圖と共に之を掣きて呼畢勒罕を定む

康熙紀行に據るに達賴喇嘛は宗喀巴の大弟子なり班禪額爾德尼は宗喀巴の二弟子なり第一世達賴喇嘛を根敦珠巴と名く明の洪武二十四年に生れ喀邦木薩喀木青熙饒巴の處にありて出家し二十歲にして大戒を受け札什倫布廟を創建し穆倫經を誦す第二世を根敦嘉木磋と名く明の成化十二年に生れ群科爾汪廟を創建す第三世を索諾木嘉木磋と名く明の嘉靖二十二年に生る親ら各蒙古地方に赴き黃教を布行す蒙古王等咸な稱して達賴喇嘛班禪額爾達拉となす明萬曆間大國師に封せらる第四世を雲丹嘉木磋と名く明の萬曆十七年蒙古地方の敬格爾の家に生れ十五歲にして西藏に至り噶爾丹寺にあつて坐臺する桑結仁慶の處に於て出家し班禪羅卜藏曲津の處にあつて大戒を受け萬曆間封せられて沙布達多爾濟桑結となる曾て石上に於て踏て足印を留む第五世を阿旺羅卜藏嘉木卜と名く明の萬曆四十五年前藏の崇結薩爾合王の家に生る其生日釋迦牟尼佛と同じ班禪羅卜藏曲律の處にあつて出家し大戒を受く第六世を羅卜藏林沁倉洋嘉木磋と名く康熙四十七年裏塘地方に生る第七世を羅布藏噶勒桑嘉木磋と名く康熙二十二年蒙巴拉沃松地方に生る第七世を羅布多羅藏丹碑班梵克江巴爾嘉木磋と名く乾隆二十三年後藏の托結地方に生る

又云く班禪第一世を刻珠尼瑪綽爾濟伽勤布格爾と名く明の正統十年に生る第二世を珠拜旺曲索諾木綽爾濟朗布と名く（生年未詳）第三世を結珠拜旺曲羅布藏敦王珠巴と名く明の宏治十八年に生る第四世を羅卜藏綽爾濟嘉勒參と名く明の隆慶元年に生る第五世を班禪羅布藏伊喜と名く乾隆三年に生る第七世は乾隆四十七年に生る

達賴喇嘛の下に二人の呼圖克圖あり一を濟隆となし二を第穆となす皆其所轄せる地を以て之に名く濟隆は後藏の南にあり第穆は工布に在り又二の諾門汗あり一を榮增諾門汗（榮增は師文の義に）として常に達賴喇嘛授戒の師となる）とし一を噶爾丹錫呼圖薩瑪第巴克什諾門汗とす達賴喇嘛圓寂するときは班禪或は兩呼圖克圖及び諾門汗を以て代理す呼圖克圖は較々尊く諾門汗之に次く

達賴喇嘛圓寂する時は先つ人に示すに降生の處を以てす其弟子大堪布往き訪ふて之を得る小兒初て之を見れば即ち能く相識る乾隆年中乃ち金瓶を發し西藏に至らしめ數小兒の名を貯へ掣簽し以て詐僞を防く爾後達賴喇嘛圓寂すれば駐藏大臣より各路に行文す民間に於て生子の靈異あるもの或は徵驗あるものを呈報するあれは西藏内は則大堪布噶布倫等を遣り達賴喇嘛の生前常に受用せし所の數物と他物とを雜え以て之を試む其兒指取する所のもの爽はさるか或は一二語を出し達賴喇嘛圓寂の時に及へば則其父母をして携て德慶（西藏の地名）に至らしむ一に此の如くするもの或は一二人或は三四人あれば駐藏大臣之を覆驗し日を擇び

金瓶を以て掣籤せしむ之に先つ七日各大寺の喇嘛虔誠して誦經し駐藏大臣大召寺に至り禮を行ひ牙籤を用ひ各小兒の名を書し其數の如くし各々一籤を彌縫して瓶内に入れ之を蓋す後駐藏大臣其蓋を開き其一を掣取し衆人の目前に於て封を拆き既にして其小兒の名たるとを知れば衆を率ゐ德慶に至り迎て大召寺に入る堪布朝夕之を守護し清帝に具奏して呼畢勤罕の冊に入る清帝即ち在京の章嘉呼圖克圖（章嘉呼圖克圖は第五世達賴喇嘛の弟子にして康熙中西藏より來り多倫諾爾に位す亦呼畢勤罕にして歷世章嘉と稱す）に命じ西藏に至りて照料し達賴喇嘛をして坐牀せしめ六歲にして經を學び七歲にして小戒を受け禪を學び常に坐して臥せしめず此時に當り西藏の公事は皆班禪或は呼圖克圖代つて之を決し達賴喇嘛十六歲に至れば乃ち自ら事を理す

西藏記に曰く西藏一隅は諸鑑多く未だ詳載せず其地を考ふるに即ち西吐番なり唐には烏斯國と曰ひ明には烏斯藏と曰ふ今は圖伯特（ボット）と曰ひ又唐古忒（ボンゴ）と曰ふ萬蜂之中に居り西方極朦の區と爲す環山拱合し百源滙流す黑竹工卡より以下召の南西瀉を統へ頗る天地の靈脉を得たり布達拉の飛閣層樓は麗色目を奪ひ別蚌、色拉、甘丹、桑鳶の四大寺は四方は拱朝し川（四川滇雲南）と界を聯ね西北は青海と壤を接す其北は直に河湟に抵り西は西洋に通す西南達噶斯は天文井鬼の分野なり時歲稍々寒く物產幾くもなし地は水泉多く土人以て海眼と爲せり春は凍解して開き夏秋は陰雨盛なるを覺ふ土人分三部と爲す曰く康、曰く衞、曰く藏、康は

今の察木多（チャムト）の一路なり衛は即ち西藏拉撒召（ラッサヤウ）の一帶藏は乃ち後藏札什隆布（チャシルンポー）一帶なり此三部は皆番僧の淵藪、黄教の總滙なり其地民人は佛教を尊尚し喇嘛を敬信す最も崇信する所の者達賴喇嘛斑禪喇嘛、噶瑪巴、沙碼納等の輩其他不迷性の呼圖克圖在々皆有り枚擧する能はず人の崇奉する所たり信ずること靈神の如く欽むこと活佛の若し凡そ所謂呼畢爾汗なる者は乃ち身後に前生の事を知るの人に係り故に之を敬す然れども番民の風俗鄙汚に堪へず人皆垢面蓬頭にして形ち犬羊に類す僧俗に論なく利を是れ貪らざるなし上古不化の地と爲す唐の孝德皇帝公主を以て番王に嫁し和親せしより後始めて中國と往來を通ず其國の始めて君となりしものは乃ち額勒特莽固禮の後馬克巴の子納禮藏布とす數世を傳へ蘇隆藏干布に至り其勢始めて大なり西蕃の地を併せ唐に内附す公主を以て之に妻す而して蘇隆藏干布は又白國王の女を娶りて妾と爲せり唐公主は善を好み大小二召を修し並に城を布達拔に築き空室と爲す唐蕃二國彊界を分定し誓盟を設立し相侵犯せす碑を大召の前に立て永く誓約を爲す相傳ふ昔唐の三藏僧の玄奘經を取り曾て此地を履むと云ふ今大召の前廊に尚ほ師徒四衆の像を繪するあり猪八戒招親の高老庄爾は即ち今の采里なりと云其眞か其誕か俗傳斯の如し唐より以下宗元の間其國未だ聞へず明の萬歷の時太監楊英其地に至り楚布寺、業郎寺の紅帽黑帽呼圖克圖噶瑪巴、沙碼納二人を勅封して西天大善自在佛如來大寶法王灌頂大國師と爲し印冊を賜予し甲摻楞布氣、褒玉楞布氣二人を封して灌頂禪師と爲す我太宗文皇帝の崇德七年に至り班禪額爾德尼達賴喇嘛固始汗咸な謂く東土に聖人の出つるありと使を遣はし盛京に達し善事を行ひ歲々貢表を通ずることを約す

西藏大召の地を呼て拉撒（ラッサ）と爲す拉撒は華言の佛地なり舊と城郭あり康熙六十年定西將軍護國公策旺諾爾布之を毀ち改めて西南百隄を築く東北郎路山の脚より起り布遠拉の對面なる小山招拉筆洞に止まり長さ約三十里以て藏江の水勢を遏む今呼て神堤と爲す每歲正月各寺の喇嘛を倉内に聚め大經を念じ畢り衆喇嘛をして各々添砌を增さしむ此ぞ乃ち喇嘛の唯一役なり俗に傳ふ番王蘇隆藏干布は乃ち觀音菩薩分體せるより化生す故に常に輪廻に在り而して其本性は不昧なりと根敦朱巴と曰ひ根敦姜錯と曰ひ朔納木姜錯と曰ひ雲登姜錯と曰ひ阿旺羅姜錯と曰ひ羅進仁姜錯と曰ひ相繼て轉生す凡そ六世皆稱して達賴喇嘛と爲し黄教を西域に興す第五輩達賴喇嘛入覲せしとき世祖章皇帝（雍正）は金冊印封を勅賜し統領西天佛教普覺幹濟達賴喇嘛と爲す時に蒙古古什罕あり青海より兵を起し藏巴罕を滅し其地に据る其子の達賚罕、孫の達賴罕に至り皆中國に敬附す後ち第巴三節なる者あり國を專らにし亂を倡ふ古什罕の曾孫拉藏之を滅す聖祖仁皇帝（康熙）の褒封を蒙り命じて闢罕と爲す而して達賴喇嘛又裡塘地方に化生す名けて噶爾藏嘉慕青海と曰ふ蒙古は呼て呼必爾罕（フビルハン）と爲す蠻人は稱

して中凹革桑姜錯と爲す生れて二歳青海蒙古より搬して西寧の塔爾寺に至り座床せしむ復た西方の瞻仰と爲る適々準噶爾の逆賊策旺阿拉布坦妄に自ら釁を生じ伊犂より其賊將策凌敦多布を遣はし兵を領し拉藏罕を攻殺し其子蘇爾札を虜にし黄教を滅し生靈を荼毒す肆行猖獗にして藏地を蹂躙す我聖祖仁皇帝天地を心と爲し一隅の末靖を以て一夫の失所を慮り特に將軍額倫特都統色倫額、革職四川提督康泰を遣はし滿漢官兵を統へ道を分ちて勦伐し通天河(木魯烏蘇)を渡り三び賊衆を敗れり而して策凌敦多布は兵を分ち我糧餉を遏む軍中食盡き將士空腹となり哈拉烏素に至り賊の困むる所となり全軍餓斃す其提督康泰は拉里の西に至り賊僧黒喇嘛の爲めに誘殺せらる是に於て賊衆復た螳臂を逞ふし靖逆將軍富寧安を遣はし兵を巴爾庫爾に駐め以て賊勢を分ち爰に皇子允褆に命じ撫遠大將軍と爲し六師を統帥し節を西寧に駐め餉を調へ兵を徵す塔爾寺の呼必爾罕を將て賜ふに達賴喇嘛の名號を以てし冊印を給與し其をして黄教を主持せしむ是に於て平逆將軍宗宗延信、固原提督馬繼伯加議政大臣銜山東登州鎮總兵官李麟等を遣はし陝甘の滿漢官兵を率領し康熙五十九年夏四月に於て達賴喇嘛を護送し西寧より口(口は國境か意味す)を出て進征す而して策凌敦多布は猶ほ敢て其故智を施し三たび我營を襲ひ俱に我軍の破る所となり斬獲甚だ衆し賊師膽を喪ふ大將軍又征西將軍噶爾弼、四川永寧協副爲岳鍾琪を遣はし先鋒と爲し川楚滇浙の漢滿官兵を統領し蜀の打箭爐より口を出て大將軍は木齊烏に駐索割し中に居て調度す秋九月大兵藏に會し巨賊藍占巴、駝々宰桑、黒喇嘛僞藏王達格咱(ダカツー)等を擒にし逆羽夷衆を招降す是に於て西藏底定し人民會安す月の十五日達賴喇嘛を送つて坐床せしめ承教度生達賴喇嘛に勅封し其土地人民を將て之に賜ひ布達拉に居る御製碑文あり石に鐫り亭を布達拉の南に築き以て其事を記す(御製碑文並に康熙皇帝御製碑文は參考の爲め卷首に掲ぐ)　其康濟鼎、阿爾布巴、隆布鼐、頗羅鼐、札爾鼐等五人に賜封差あり大召寺内に公所を設立し西藏大小の事務を會辨す康濟鼎は後藏の人昔し拉藏罕の仲意たり準噶爾藏を犯す時努力して阿里(西藏の最西部)を堅守したるの功に因り封じて貝勒と爲し後藏以西の北一帶地方並に拉藏罕屬下の台吉阿旺雲登都納爾等二十餘人乃ち蒙古二千餘を管理し西藏に住居し均しく藏内の糧餉を食し達賴喇嘛の護衛となり兵馬の事宜あるに遇へば即ち此等を帶びて行走せしむ阿爾布巴は工布の人昔噶隆たり準隆爾の藏を犯せしとき工布口子を堵禦して功あり封じて貝子と爲し工布以東一帶の地方の兵馬事務を管理せしむ隆布鼎は本藏の人昔噶隆たり策凌敦多布の藏を犯すとき札爾鼎と同じく木爾烏蘇に赴き大兵を迎接し嚮導して功あり封じて公と爲し東北一帶地方の兵馬事宜を管理せしむ頗羅鼎は後藏の人昔拉藏汗の仲意たり準噶爾の藏を犯せしとき兵を領して敵を迎へ虜にせらるる堅心降らず始め封じて一等噶隆と爲し達賴喇嘛商上の事務を辨理す旋ち封じて一等台吉と

爲し後藏札什倫布一帶地方の兵馬事務を管理せしむ札爾鼎は本藏の人昔達賴喇嘛の蒼儲巴たり隆布鼎と同じく嚮導して功あり噶隆を授く又封じて一等台吉と爲す藏內附近地方の兵馬事務を管理せしむ安輯奠定し大兵凱旋す雍正元年に至り青海羅卜藏丹津順を犯す其藏を擾さんことを恐れ松潘鎭總兵官周瑛を遣はし川兵二千餘名を領し打箭爐より口を出て霍耳甘孜一帶より未順の番夷を招撫し一度び西藏に抵り又雲南提督郝玉麟を遣はし雲貴の土官兵一千餘人を統領して察木多に駐札し以て聲援となす次年六月羅卜藏丹津は遁れて藏境の克里野地方に入りたるを探報し總兵官周瑛は精騎三百を選び貝勒康濟鼎と同じく番兵萬餘を帶ひ楊八景二路より程を兼ねて追捕し噶爾藏骨谷に至り雪に阻てられ兵を回す是年達賴喇嘛を西天大善自在佛率領天下釋教達賴喇嘛に勅封し予ふるに金冊印を以てす雍正三年師旋る周瑛を陞せて四川提督と爲す次年春揷類烏齊一帶番民を撫す雍正五年貝子阿爾布巴公隆布鼎台吉札爾鼎等貝勒康濟鼎を謀殺し背逆不軌なり藏民變を告ぐ世宗憲皇帝の命を蒙り內閣學士僧格、副都統馬臘、洮岷協副將顏清如先づ馳せて藏に赴き人民を撫綏し以て番衆を安ず次年夏四月都察院左都御史查郎阿を特遣し正帥と爲し護軍統領邁祿、西寧鎭總兵官周開捷之に副たり永昌協副將馬紀師、神木協將副周紀鳳、花馬協副將惠延祖、波羅協副將劉永貴及び參將游擊各四員を率領し滿漢官兵八千四百餘員を帶領して西寧より口を出てしめ又散秩大臣兼鑾儀衞周瑛に命じ正帥と爲し化林協副將楊大立鹽州協副將張翌並に游守備守四員は川兵四千餘騎を領し霍甘一路よりし雲南鶴麗鎭總兵官南天祥、援助協副將姚起龍、廣羅協副將馮鑾及游守各三員を派し滇兵三千名を帥ひ昌都一路よりしたり三路の官兵尙ほ未だ藏に抵らず台吉頗羅鼐は後藏阿里札什隆布等の番夷二千餘衆を糾し直ちに召地を搗き阿爾布巴等を擒にす大兵藏に到る縛して軍營に獻ず左都御史查郎阿等公同審實し其叛跡を奏し九月晦日に於て阿爾布巴、隆布鼎、札爾鼎等を磔し並に其子を布達賴の前に誅す藏地復た安じ頗羅鼎を勅封して貝子と爲し西藏の事を總管せしめ並に議して達賴喇嘛を裡塘を移し以て釁端を杜けり是より學士僧格都統馬臘、前鋒統領邁祿、散秩大臣周瑛、副將馬師並に游守各四員を留紀て其地を鎭撫せしめ察木多には滇兵一千名を留め提督張耀祖、劍州協副將姚起龍、游守各一員を派し其他に駐劄し以て藏兵の聲援となす是年十一月廿三日左都御史陞吏部尙書查郎阿、西寧鎭總兵周開捷は官兵五千餘名を領し達賴喇嘛を護送し召より起程し裡塘に至る四川重慶鎭裡總兵官包忠を派し周瑛の缺に頂補す雍正人年準噶爾巴爾庫爾卡倫を侵犯す駐藏大臣より奏准し學士僧格を派し游守各三員兵一千五百名及唐古忒兵一千名を總領し出て〻騰古里達木に防き其の奔藏の路を遏む復た王樹白蕘河奔卡立馬爾納克產生根物角の四處に於て各々千把總各一員を派し番漢兵數十名を帶ひ卡を設けて偵探

す毎年秋雪降り山を封し藏内に撤回す是年打箭爐口外の噶達地方の廟工竣を告く匾額を欽賜し惠遠達廟と云ふ達賴喇嘛焉に移駐す化林協を裁し惠遠に於て協を添へ泰寧と云ふ協兵を除き別に兵千有八百を駐めて均しく達賴喇嘛の防護と爲す九年春總兵官包進忠卒す學士僧格蒙古都統に陞り出て丶騰古里那爾に防す夏六月護軍統領青保、大理寺正卿苗壽、泰寧協副將加總兵銜楊大立川兵一千五百を領し藏に來り副都統馬朧及び舊駐藏並に臺汛の川陝兵二千五百名に換はる冬月二十日に於て副都統馬朧統領して換回す其察木多に駐せる滇省の官兵も亦一例に更換す十年春青保を蒙古都統に陞せ加總兵銜楊大立と同しく出て丶騰古里那爾に防す場大立旋ち事に緣り京に回る秋七月青保を滿洲都統に陞す是年副都李桂、西寧鎭總兵官周起鳳、四川督標中軍副將張可才、游守各二員兵一千名は都統僧格、前鋒統領邁祿、永昌協副將馬紀帥舊駐の川陝官兵に更換し而して副都統李桂は甲貢に至り病故す冬十二月總兵官周起鳳兵を領して藏に抵る越へて四日永昌協副將馬紀師川陝官兵一千名を率ひ汛に回る十一年春都統青保、副都統張可才出て騰古里那爾に防す復た世宗憲皇帝（嘉慶）番民積年の勞苦を軫念せられ特命を蒙むり色拉召の間札什地方に於て（即ち今の札什城なり藏西糧務官駐劄の處）別に城垣を建て兵五百名を留め其餘は撤回す夏四月防兵藏に回り而して京より來れる換防の原任工部尚書副都統馬朧召に抵る是に於て都統僧格、前鋒統領邁祿、副將張可才官兵を率領し

七月中旬に於て分撥起程す八月城工竣はる重陽朔四月官兵札什の新城に移駐す十二年都統青保、大理寺正卿苗壽は事に緣り拏解せられ京に回る派出接替の散秩大臣伯爵阿爾珣、副都統那蘇泰秋八月藏に到る阿爾珣是月に卒す其察木多に駐劄せる滇兵は全く撤回を議し汛塘の川兵千名は內四百を減撤し都司一員を派し統領して察木多に移駐す十三年準噶爾使を遣はし成きを求む世宗憲皇帝生靈の疾苦を軫念し其請ふ所を允し界を定め兵を息む又達賴喇嘛久しく地を離るゝを以て其をして召に回り以て其の性を遂けしむ特に果親王に命し泰寧に至り賜ふに筵宴を以てす副都統福壽兵部郎中祁山、理藩院郎中拉布坦、四川督標中軍副將張學聖を派し泰寧駐防の官兵五百兵を領し夏四月達賴喇嘛を護送し章嘉呼圖呼圖と同しく惠遠より起程し七月望二日召に抵る越へて七日達賴喇嘛を送つて布達拉に至り坐床せしむ八月二十三日郎中祁山、副將張學聖兵二百五十を帶ひ章嘉呼圖克圖を送りて後藏に赴き班禪喇嘛を禮し傳衣授戒す冬至日事畢はり召に回る十二月朔三日世宗憲皇帝の遺詔を頒賚して藏に至る乾隆元年章嘉圖克圖賚詔熬茶の待衛等と同しく副將張聖學並に原と達賴喇嘛を護送し藏に來れる川兵を帶領し藏より起程し都に入る

按するに頗羅鼐は後に郡王に對せられ死して其子に襲く乾隆十六年逆を謀り誅に伏す其黨叛き都統傳清等を殺す旨を奉し四川總督公策楞提督公岳鍾琪に命し往き討せしむ兵西爐に

至る逆賊は某のために擒獲せられ後藏地復た定まる永く王爵を除く

第二章　西藏鎖國の理由

西藏は鎖國主義を頑守し一切外人の國内に入ることを禁せり而して古來幾多の探檢家の冒險なる企圖も遂に能く其功を奏せしものなし輓近に至り殊に甚だしく其門戸を鎖し其國内に入りしが然めに慘刑に遭ひたるもの又少なからず即ち一千八百九十年に「ヘンリー、サベージ、ランドル」氏の如き一千八百九十四年に「ライン」氏の如き何も殺戮せられ一千八百九十八年九月宣教師「ピーター、リジンハート」氏は行方不明となれる如き其例にして眞に世界の秘密國として承認せられ僅に次章に記せる探檢家の成功者として知らるゝのみ而して其眞に遺憾なく西藏の事情を調査せるものは其内數人に止まるが如し

此の如く西藏人が何故に外人を排斥するかを考ふるに其理由は大略次の如きものと信せらる

一、喇嘛の人民の信仰を維持せんとするに汲々たること

二、支那政府の政略上西藏人を教唆し鎖國主義を奬勵せること

三、英國が西金を占領せし結果西藏人は自國の安危に關し外人に對し猜疑と恐怖とを惹起せし事

一は前に數々述たる如く西藏は宗教國たり喇嘛國たり其喇嘛の權力の非常なるは殆んと想像の

外にあり而して彼等喇嘛は若し人民にして開明の思想を輸入せんか或は信教の自由となら其結果喇嘛の破壞となる事を恐るゝに依る

二は支那政府が西藏に於ける政治上及商業の利益を專占せんとする政略上外人の進入を喜はす即ち西藏人に聲言して外人の進入は其意西藏を窺覦するにありと爲し以て其猜疑心を深からしめたるに依る

三は即ち前項の如く西藏人の外人を忌憚しつゝある折柄英國は遂にシキムを占領せるに依り左なきだに疑心に富める西藏人をして益猜疑の目を側てしめ益鎖國の門戸を堅固ならしめたるなり

第三章　西藏探檢者

第一節　歐米の探檢者

前述の如く西藏は全く鎖國主義を取りつゝあるに關はらず古來此國の探檢を企てたる勇者も亦少なからず其多くは歐米人にして特に耶蘇宣教師を多しとす今左に其一斑を揭ぐ

西藏第一の旅行者として知られたるは一千三百二十五年天主教布教の目的を以て入藏したる「ボルデノレ」の僧「フーザー、オードリック、オブ、バルデン」にして其後一千六百二十四年「ゼーシユート、アントニー、アンドラダ」なるもの「アグラ」を出立し印度平原より見ゆる所の雪山を越へ數多の艱難辛苦を經て恒河の水源に達し尙一層の苦辛を重ねて「ストラジュ」河の源たる聖湖「マンサルワ」(阿耨達池)に達し「ルドツクノ」の高山を越へ後「タンジユット」沙漠地を經て支那に出てたり之を第二の旅行者となす

第三の旅行者を佛人「フハーザーグルエペル」及び「ドルウキラ」となす彼等は千六百六十一年北京を出立し「タンジユット」沙漠を經て六ヶ月の後「拉薩」に達し道を涅泊爾の方に取り「クーチ」峠を越へ「カドマンダ」市に出て「アグラ」に出つ惜哉「ドルウキラ」は歸途々中にて死せり

第四の旅行者を「ヒツポリット、デシデリ」及び「フハーザー、マノエル、フレーヤー」と爲す彼等は千七百十五年に「バイバンヂャル」山脈を越へ「克什米爾」に出て「レーフ」を過ぎ「マリヤン、レー」を經て拉薩に達せり兩人の中「デシデリー」は千七百二十九年まて拉薩に殘れり

第五の旅行者は「フランシスユ、オラジヲ、デ、ペンナ」或は「ビンナベレンス」となすす紀元千七百十九年十二の法兄弟と共に「涅泊爾」より西藏に入けり一行中の「ホラセ、デラ、ペンナ」は廿二年間拉薩止り勉學の後、千七百三十五年羅馬に歸れり一行中九人は西藏にて死せり此時涅泊爾と西藏の往復は甚だ盛なりしと云ふ

第六の旅行者を「ホラセ、デラヘンナ」及九人の兄弟とす「ペンナ」は再ひ入藏せり九人の兄弟は新たに加へられたり千七百三十八年彼等は同じく涅泊爾より入れり而して羅馬法王より西藏法王に書狀を賚せり「ホラセ」は涅泊爾の谷間「バタム」と云ふ所にて死せり

此時代に廉熙帝は使を遣はし黃帽派と紅帽派を調和せしむと云ふ

第七の旅行者は有名なる蘭人「サミュル、ワン、デブッチヒ」となす彼は支那服を着し千七百二十四年より千七百三十六年の間に於て印度より西藏に入り西藏より北京に至り又北京より拉薩に來り拉薩より印度「デリー」に出つ彼は千七百四十五年九月二十七日「バタビヤ」の「ビ、エム、ラムメンス」君の家にて死せり

第八の旅行者の「ジョージ、ボーグル」となす彼は千七百七十四年五月十三日附にて印度大守「ワーレン、ヘスチング」より命を受けたり

「ドクトル、ハミルトム」は千七百七十五年十一月「ボーグル」と同行にて布坦に第二回の使者を命ぜられ彼は「ラキヒドワール」より「パールー」に行きし然れども後に道を轉じ舊道「ブザ、ヌワール」に行きし彼は四月六日「ブンナカ」に達せり

千七百八十三年六月印度總督の命に依り第四回目の使者として「サミューエル、タンナー」大尉「サミューエル、ダビス」中尉及「ドクトル、ロバート、サウンダー」等入藏せり是れ第九の旅行者なり

第十の旅行者「マンニンク」は千八百十一年西藏に入れり

「チョーマー、グ、コロス」は最初拉達克及準喝爾に行き「ブグヌル」の剌麻寺にありて西藏語を研究せしは千八百二十七年より千八百三十年まてなりし數多の著書あり、

第十一の旅行者「エム、エム、ブーク」及「ガベット」(佛國宣教師)は千八百四十四年支那本部方面より入藏せり

第十二の旅行者は露國陸軍大佐「プレゼヴルスキー」氏にして一千八百七十一年及同八十五年に二回西藏に入れり(本書の挿書多くは同氏の旅行記に據る)

第十三の旅行者は英人「キャプテン、キル」氏にして一千八百七十九年西藏に入れり

第十四の旅行者は彼の有名なる印度の學者族行家として知られたる「サラット、チャンドラダ、ダス」氏にして一千八百八十一年及同八十二年に西藏に入り頗る詳細なる調査をなせり即ち本誌考の如きも氏の記行を參照せし所少なからず

第十五の旅行者は一千八百八十八年北京駐在の合衆國公使館書記官「ロックヒール」氏にして第十六の旅行者は同一千八百九十年佛人「ボンバルー」及「オルレアン」公「アンリ」の兩人にして第十七の旅行者は一千八百九十一年英人「ボーウエル」氏にして第十八の旅行者は有名なる「テーラー」孃にして一千八百九十二年に西藏に入り第十九の旅行者は一千八百九十三年佛人「ドラインス」及「グレナルド」兩氏にして第二十の旅行者は英人「リッツルダール」氏及其妻と甥にして一千八百九十五年拉薩を去る四十哩の丘陵に達したるも遂に拉薩に入る能はざりし第二十一の旅行者は一千八百九十八年「リジンパート」氏及其妻にして第二十二の旅行者は佛國の旅行家博士「スウエンヘディン」氏にして一千九百〇三年入藏せり

本邦人にして入藏を企てしものは亦少なからず然れども之に關する記事は暫く後日を俟つ

第二節　スヴエン、ヘディン博士の旅行談の一節

同氏は明治三十六年に西藏を探檢し佛京巴里地學協會に於て幻燈演述會を開き精細なる旅行談を試みたり

博士の旅行は廣大茫漠なる新國土を踏破せしものなれば其結果は從來行はれたる中央亞細亞の地圖に一大變更を加へしむるに至るべし博士は千百四十九枚より成れる長千尺の地圖と三千枚の寫眞とを携へ歸れり又從來學者間に於て紛々論爭したる往古の羅布泊（ロブノル）の所在問題も博士の探檢に依りて解決せらるゝに至れり此の湖の沿岸に於て荒廢せる市街佛閣及第三世期頃西藏の政治並に地文學に關する有益なる古文書を發見せしと云へり

此旅行は徹頭徹尾困難ならざるはなく博士の一行數十人は委を喇嘛僧に扮して高山を越へ砂漠を渉り三年と三日の旅行中二年六ヶ月は全く他と交通を絶ちたる無人の地を旅行せり殊に「チヤクアリク」より拉達克（ラダック）に至るまでの旅行には八ヶ月を費したり此旅行は即ち西藏高原の横斷とも云ふべきものにて平地と雖歐羅巴の最高峯白山（モンブラン）よりも高く空氣稀薄にして一行は呼吸の切迫を覺ゆること甚だしく遂に全く呼吸する能はざる者あるに至り隨行人の中四人は哀むべし此高原の露と消へ二人は駱駝の背に伏して絶息し居たりしを程經たる後發見せり

歩行するものは空氣の稀薄と寒氣の凜冽との爲めに先つ足の爪先より凍り始め遂には足部全く凍りて棒の如くなり次第〳〵に腹部に及び胸部に及び頭腦の感覺を失ふに至りて萬事休す博士

は幸に身體非常に强健なりしと終始騎馬旅行を爲したるとにより苦痛を感ずるに至らず然れども馬上にて姿勢を整ふるなとの事は思ひも寄らす終始馬上に伏して少も身體を動かすこと能はす心臟は今や破裂せんとするかと思ふ程痛を覺ゆるの時もありしと

率き行きたる馬並に駱駝も害を蒙むること多く馬四十五頭の中博士の跨りたる一頭を除くの外は悉く斃れ駱駝は其全部を失ふに至り當時の有樣を回想すれば博士は感慨自ら禁すること能はさりしと云ふ大抵の冒險旅行を十回するよりは高原の横斷を一回する方遙に困難なりと云ふ

「ヤンヂクル」より「チエルチエンダリア」に至り百八十里の砂漠を行きしも亦非常の困難にして人類の此處を通行せしもの實に博士を以て嚆矢とす此の間の旅行に三週間を費やせしが寒暖計は零度以下三十度に下りしも一行は一人の損傷を受けず只一頭の駱駝を失ひたるのみ（博士が第一次の旅行にはこの砂漠に於て同行者二人の外悉く死滅せり）砂漠中には無論飲水薪炭無きを以て駱駝四頭に氷塊と樹木とを積み行きしが砂上の高き所にては駱駝の足一尺以上も砂中に入りて進行非常に困難となり加ふるに携帶の氷も漸く盡きて一行何れも其骸骨を砂漠に曝すこと〻覺悟し兎にも角にも枕を並べて砂漠中に寢ねたりしに半夜眠覺むれば偶然柔きもの〻手に觸るゝありこは不思議と一行相前後して蹶起すれは四圍の狀況全く一變して一面の銀世界となれり嗚呼天雪を下せるなり一行躍り上りて盡きたる飲料を補ひ得たるを喜ぶされど天幕の用意なかりし一行はこの喜び忽ち變して雪蒲團の裡に眠らざるを得さるの悲しみを生したり然れども飲料を得たる喜びは雪蒲團の悲を壓倒して一行は無事に砂漠を通過するを得たりこの沙漠は才壁の砂漠の一部分なり

博士が西藏の都府拉薩に入らんとせしはこの旅行中に於て前後二回に及べり初めは博士自ら一行より分れて二名の從者と馬四頭驢五頭を率ひて拉薩府に向ひしが此地は宗教上及政治上の關係より一切他國人の入るとを禁したれば若し露顯せば直ちに殺さるべし博士は黑き眼鏡をけ掛其顏貌を包み如何にも喇嘛僧らしく裝ひて進みたれば大抵目的を達し得べしと思ひしに圖らさりきこの荒原に住める獵師等は早くも博士等の拉薩府に向つて進みつ〻あるとを官吏に密告せりされば博士は拉薩府を眼前に望み得べき處に達したる時忽然一群の西藏兵士に圍まれたり

博士等の一行は拉薩府に近つくに從ひ原野に遊牧せる西藏人の甚だ多きを見しが彼等は博士等の一行を珍らし氣に打見やりて不思議そうなる顏を爲し居りしも親切に種々世話することを辭せざりき斯くて博士等は今一日にして拉薩府に入るべき夜天幕の裡に明日の樂みを夢みつ〻眠に就きしに夜半の頃四邊俄に騷がしくなりたれば一行は何れも何事ならんと眼を覺せしに數百の西藏兵士は一行を包圍し其中の指揮官らしきもの博士に向ひ若し一歩たりとも前進せば身首處を異にすべしと告げ兵士の中より數多の喇嘛出て來りて博士に向ひ其眼鏡を取らんことを求

めたり蓋し彼等は博士の綠眼なるべきを思ひてこの請求をなしたるならんも博士は黑眼の人なりしを以て彼等の目的は外れたりされど博士等は此の日よりして番兵に圍まれて捕虜の待遇を受け番兵等は每夜篝火を焚きて嚴重に警戒せり

一行は「オクチエ」の地方長官の來るまで此處に待たざるべからず五日の後彼れ地方長官は華美なる服裝を爲し多くの兵士に護衛せられて到着せしが彼れ博士に告げて曰く達賴喇嘛の親諭ありしを以て出來得る限り御身等を優待すべきも一歩拉薩の方向に進むに於ては遺憾ながら斬に處すべしとこゝに圍を解き兵士二十五名を附して一行を「ナッチユカ」の境界外に送還せり

博士は尙懲りずに第二回の拉薩進入を企てたり今回は全旅隊を率ゐて他の方面より進入せんとせり然るに今回も亦其途中に於て五百の西藏の騎兵に支へられぬ彼等は曰く若し御身等が飽くまで拉薩に入るに於ては御身等は勿論我等までも盡く斬らるべしと依て其何故に拉薩に入るを許さゞるやと問ひしに彼等は答へず拉薩府內の狀況の如きも毫末も說く處なし蓋し彼等は宗敎上及政治上の關係より拉薩を以て禁府となし絕へて外人の入るを許さゞるなり而して五百の騎兵は博士等の更に拉薩に進入せんことを防ぐ爲め博士の退却に尾行すること十日の久しきに及べり斯る有樣なれば歐米人は如何に巧妙に其身を扮裝すとも拉薩に入ることは到底不可能の事に屬す

名高き羅布泊（ロブノル）は今や全く水涸れて凹みたる一帶の荒土を成し住民なく樹木なく其北岸に於て廢滅したる市街の跡を發見せしが此處は其昔し井然たる市街を爲し居たるものの如く其規模も甚だ壯麗なりと思はる中央とも思はるる處に高境の殘跡ありて車輪鐵斧大甕等を發見せしがこは何れも千六百年以前のものなり博士は支那文學にて認めたる數種の書籍をも發見せしか記する所は「將佐四十名の率ゐたる一軍隊は「ロブノル」に到着すべきを以て接待の準備を爲すべし」との意味を記しありしとぞ此地は北京より噶什哈爾に到るべき道路のありし處にてこの道路の尙今保存せられ居たりしには實に世界の最長道路なるべし

東部西藏に一死海あり博士は輕舟に乘りてこの湖面に遊びしが湖水には非常に多量の鹽分を有し湖底は全く鹽塊を以て固められたる程なれは舟も鹽の爲めに眞白となり試に一滴の水を舟中に落せば直ちに凝結して鹽となる若し又湖水の上部の水を他に流せは湖水は全く鹽塊となるべし博士は此湖上に於て暴風に遭ひ非常の困難を極めたり云々

因にスヴエンヘデイン博士か巴里の地學協會にて此演述をなすや外務次官は大臣の代理として博士に面會を求め佛國政府の名を以て博士に勳章を贈れりと云ふ

第三節　テーラー孃の探檢談の一節

テーラー嬢は唯十頭の馬と二個の天幕と二ヶ月分の食料として糌粑即ち麥粉を準備して出發せり又嬢は輕便なる寢臺と「酋長に贈るべき物」を容れたる箱とを携へ銀貨の數「オンス」と若干の支那の綿布とは實に嬢の財源たりき此の外には印度に到着の上にて着更んかの爲めに僅許の英國製の布片を用意し卓上の道具入れは二個の薄き碗と一二の木碗銅の皿「ナイフ」「フォーク」及匙子を容れたるのみ然れとも此等の物品は途中に於て大抵賊の掌中に歸し嬢は之を使用することと殆んとなかりき其携帶せし圖書は「デーリー、ライト」なる書籍と新約全書、讃美歌類、日記用手帳の四冊なりしと云ふ嬢は此旅行中風雪吹き荒む原野に露宿すること二十度の多きに至れりされは其洞窟中に眠ることを得しなどは此旅行中に於ては寧ろ贅澤なることにて吾人か大厦高樓に安臥するか如き至幸の事なりきと云ふ其衣服を着更ふることもなく隨行せし三人の支那人中其一人は途中にて背き去り一人は斃れ一人は嬢を殺害せんとせしが唯「ポンッ」と云へる西藏人のみは終始嬢に隨從したりき

嬢に隨行せる「リユコッチエ」と呼へる至つて強壯なる支那人ありしか寒氣の酷烈に堪へずして遂に途中に斃れたり嬢は口癖に「神は余等を守れり」と唱へて如何なる境遇にありとも常に其心意の平靜を保てりと云ふ

一行の拉薩府に接近するや危機漸く切迫し嬢を護衛せし二人の西藏人は頗る恐怖の念を抱けり嬢は當時の苦心を記して曰く余の最も困難を感せしは彼等の恐懼の念を絶たんとするとにてありきと前面には一行を要せんとて待てる支那の官吏あり一行は敵地の中心にありて避難の所なく四面楚歌の裡に包まれて疑懼の中に苦みしか嬢は天を仰て曰く「總ての信仰は汝に止まれり總ての救助は汝より來る汝の翼の影にて我か防禦なき頭を覆へよと纖弱なる婦人にて從僕二人の甚たしき恐怖心を去り懦夫をして起たしめたる豪氣は實に企て及ぶへからざるものあり

嬢は終始頓智と剛毅と寛大とを以て部下を率ゐ衆人に接したりしが途中兩度の狙擊に遭へり其第一は思ひもよらす刼盜の狙擊に遭遇したり始め賊等は馬より下り地に踞して靜かに茶を喫するの風を裝ひ暫くして引火奴（ナグチ）に火を點し馬に騎り不意に襲ひ來れり其火繩銃は彼等の思の儘に發火せしも達すして毫も損害を與へさりき第二には二百餘名の賊徒一行を取り圍み數多の彈丸雨霰と降り來りて血液は石と俱に飛散せり一行は蒙古の同勢及荷物を駄したる犛牛と共にありしかは犛牛は或は走り或は射殺され蒙古人二名は前面に倒れたり

斯る危難を冒して拉薩府の前三日程なる最高點に到達せしに嬢は果然西藏官吏に抑留せられたり嬢は十五日間狹穢なる倉庫内にありて己か生命と二人の西藏人の生命との爲めに戰へり最初は下級の酋長來りて豫審をなし最後に肥大なる官人「ナグチユカ」より來りて判決せり法廷は大なる白色の天幕にて其前面には青色の縫をなし其内部には別に幕を垂し其一方には二三の官

吏高き椅子に坐し高位の官人は一段高き椅子に着坐せり各官人の前面には茶卓ありて支那燒の茶碗を据へ之に近接して炭を燃やせるや青白き火鉢あり廷丁は火上の釜より再三茶を酌みて判官の茶碗に注けり憐むへし囚人の運命は此の悠然として茶を喫せる判官の裁判に委ねられたり而して天幕の後方には兵士及官吏の從僕群集して喋々喃々せり

テーラー孃は天幕の中央に坐したりしか外國人にして慢りに此國に侵入したりと云ふ罪に問はれ拉薩府に入るの許可を得ず又印度の太吉嶺に行くことを許されさりしか孃は途中にて西藏人の爲めに財物を奪はれたれは西藏政府は奇特にも其報酬として天幕馬及ひ支那に歸るに充分なる旅費を與へけり孃は其虎口を逃れ數多の危嶮を冒して西藏の内部に一年中最も惡き時期を過して西紀一千八百九十三年四月十三日四川省打箭爐に歸着せり

因に云ふテーラー孃は西紀一千八百五十五年十月十七日英國「チエシャ」の「エグレモント」に生る此の有名なる旅行をなせしは恰も其の三十六歳の時なりき其父「ジョンテーラー」は其長命なる一生涯の多分は世界漫遊の爲め費消せりと云へは孃も其感化を受けたりけん幼時より旅行を好み遂に此の顯著なる探檢をなしゝなり

第四節　西藏と露國

露が所謂大帝の遺訓なるものを奉し其東方經營は着々として實行せられ蒙古懷柔の策となり遂に其手を西藏に伸はすに至たる其由來する甚だ遠しと雖其運動の愈活潑となり著々之を形跡に證明され來りたるは實に今を去る三十餘年前以來の事なりとす

當時露國は先つ蒙古懷柔の策を立て其侵略したる「ブリヤット」人（ブリヤット人は一種の人種にして蒙古の庫倫、恰克圖及西比利亞バイカル地方に居し佛教を信ぜる人民なり）に宗教の自由を許せり元來露國政府は希臘教を以て國教とし其本國に於ては殆んど宗教の自由を許さゞる如き鞏固なる壓制主義を實行しつゝあるに關せず「ブリヤット」人に對しては極めて寛大の處置を取り彼等の信教を防碍せざるのみならず其寺院には保護を與へ大に佛教の發達を奬勵せるは是れ其眞意蓋し故あり是れ露國政府の佛教を信せるの故にあらずして彼れ僧侶を心服せしめ而し其僧侶を使用し政略的の手腕を振はんとするの策を立てたるなり蓋し「ブリヤット」人の多數の喇嘛は修學の爲め西藏に至るを許され噶爾丹、別蚌色拉及札什倫布の各寺に常に二百余名の入學者を見るなり此政策の果して如何に成功せしかは次に說く所を見るべし

露國は又蒙古庫倫に居住する大喇嘛チエブツンタンバ胡圖克圖を籠絡して之を藥籠中の物とせ

り庫倫大喇嘛は前篇宗教の部に設けるが如く「タラナッ」喇嘛世々の轉生にして其信仰其威力は優に蒙古の諸王を凌き隠然蒙古皇帝の觀あり而して「チエブツンタンバ」は清國衰微の現勢を見て其信仰の強大なるを利用し清國の駐駐を離れ昔成吉汗の偉業を襲はんことを夢みつゝある折柄露國は百方の手段を盡して彼の歡心を買ひ遂に之に接近し肝膽相照らすに至れり

茲に於てか露は先つ「チエブツンタンバ」をして達賴喇嘛を說かしむ而して直接に之が交涉の任に當れるものを西藏にて「ツアンニー」堪布の位階を得たる「ドルヂエ」とな す而して「ドルヂエ」は露領「ブリヤット」人なり

露國は政略上に喇嘛を利用せんとせし事は前述の如し其手段として露國は「ブリヤット」人の青年を本國に連れ行き文明の教育を施し業の終へたるの後再び蒙古地方に歸り各其適する業務に就かしめたり「ドルヂエ」も又其中の一人なり彼は穎敏にして奇才あり幾多の青年中斬然として頭角を露はせり彼は此に於て露語を學び歐洲の大勢を知り而して又蒙古の文學に通ぜり彼の蒙古に歸るや露國の東方經營の爲め大に力を盡したる爲め露國政府は彼れに娶すに露國婦人を以てするのみなら皇帝より勳章を賜ひ之を優遇せり然るに不幸にして彼が妻たる露國婦人は死去せしかば彼は大に落膽せり露政府は彼を勵ますに西藏に對する密策を以てし莫大の資金を給し喇嘛として彼を西藏に留學せしむ彼れ拉薩に於て西藏語を研究する十有餘年曾て文明の教育を受けし明晰なる頭腦を以て西藏文學を研究せるを以て學識遙かに衆に超へたり幾くもなく彼は選ばれて達賴喇嘛の侍講となり（「ツアンニー」とは定義を問答すると云ふ意にして即ち達賴の門答の教師となれるなり）彼の達賴の侍講なれるや彼れが得意の才能を振ふて世界の大勢を論じ清國政府の賴むべからざるを說き英國の北侵西藏の危機を述べ喇嘛教の運命も遂に外教の蹂躙する所となり了らんとを憂ひ廣大なる露國の版圖を地圖に就て說明し其勢力の偉大なる確かに近き將來に於て世界の統一者として又喇嘛教の保護者として承認せらるゝものなることを說明し黃教派の經文中にある未來紀を以て引證し（未來紀は昔時某喇嘛の作りしものにして西藏の佛教紊亂し爲に滅亡せんとする時北方の國に有力なる佛法の大王出て此世界を統一すと云ふ意味を書せるものにして西藏一般の人民に信せられ御伽噺として傳へられつゝあるもの）其所謂佛法の大王なるものは露國皇帝なりと指示し暗に支那の駐駐を脫し露の援助に依り以て英の北侵を防き自國の獨立を全ふへしとの意を注入せり元來鋭敏なる達賴は大に彼の說を信じ其意志稍動く時恰も達賴成人して侍講職も稍閑暇となれるを以て「ツアンニー」堪布は故鄉蒙古「ブリヤット」に歸り種々なる證據物件を提供し這般の狀況を露政府に報告せり露政府即ち又莫大なる機密費を與へしかは其後彼は數々露都及西藏間を往來し金銀其他珍らしき雜貨小銃等を法王に贈り又西藏諸大寺院に少なからざる資金を寄附せるを以て達賴は文明の利器に滿足し

喇嘛は黄金の光りに醉ふて「ツアンニー」堪布の名聲嘖々として西藏に喧傳せり

如此「ツアンニー」堪布の策略は着々と成功し露と西藏との關係は益益々親密なんとしつゝある一方には露國は又其慣用手段たる恩威を以て巧みに清國政府に迫り一千九百二年六月（明治三十五年）遂に露清密約なるものを締結せり其内容の主なる者を擧くれは

一、清國若し國家危急に瀕せは西藏の權利を以て露國に讓與し露國は其代償として清國の保全に力むべし

一、清國の内亂に當り若し自力を以て戡定する能はさる時は露國兵を派し清國に代つて戡定すべし

一、露國は官府を西藏に設け清國に代つて西藏事務を管理すべし

一、清國は自己の領事館を西藏に設立すべし

一、鐵道鑛山の權總て露國の管理に歸するも清國は又時あつて同く其利權を享くべし

右の條約を見れは西藏は已に半は清國の藩離を脱して半は露國の保護國たり而して此密約は果して能く着々實行せられしや否や

一方達賴は英の對藏策の漸次切迫し來るに關はらす北京政府の何等之に對する施設なきを見て益露と交はるへきを信し遂に「ツアニー」堪布の勸めに從ひ露都に往き親しく皇帝と會見せと欲するの意志を起せり然ども達賴の國外巡錫は北京皇帝の詔勅を仰くの古例もあり北京政府の之を許可すへしとも思はれす又白ら拉薩を出奔せんには必す何等か故障を生し其目的を達せさるを危みつゝ躊躇決せさるの有樣にありき

時恰かも日露の交戰となり露は東三省に全力を用ゆるに至り露清密約實行に一頓挫を來したり此に於て英は此機逸すべからずとなし千九百三年（明治三十六年）「ヤングハズバンド」大佐をして遠征隊を率ゐて西藏に侵入せしむ（事は英藏關係の部に詳しくあり）

英兵の拉薩を去る三日行程に至るまて達賴は英兵の侵入を知らざるもの如くし布達拉宮殿にありしが始めて怒皇として夜にまぎれ拉薩を出奔せり其去るに臨んて噶爾丹寺の大喇嘛を召し達賴の印を授け後事を托し七名の待從を伴ひ行を急げり是れ實に清光緒三十年（明治三十七年）五月十七日なり而して彼れ「ツアレニー」堪布は「ブリヤット」人七十名を引率して之を護衛せり

察するに達賴の意たる此機を利用して露都に赴かんと欲せるなり此くして達賴は西藏より青海に入り甘肅省に至る頃ひ沿道禮拜者の群集中には春來滿州に於て日露開戰し露の連敗を傳ふるもの又少なからず達賴は彼等の風說を聞き考ふる所ありけん余は蒙古庫倫大喇嘛「チエブツンタンバ」胡圖克圖を見んゝ爲めに此行を爲すものなりと公言せり而して彼は嘉裕關より蒙古に入

り遂に庫倫に至れり而して今や達賴は再び西藏に還らんとしての歸途にあり西寧の塔爾寺（宗喀巴發祥の地）に滯在せり

如此にして多年露の計策苦辛せる西藏經營も憐むべし日露戰爭の爲めに全く失敗に歸し創傷骨に入るの感あり翻て英國と西藏とは如何の關係を成立せしかを見れば大勢自ら明瞭なるものあるを知らん

第五章　西藏と英國

第一節　緬甸西藏に關する條約

初め英國の印度を略するや漸次其經營を進め明治十九年先づ緬甸西藏に關する條約なるものを清國と締結せり

緬甸西藏に關する條約（光緒十二年六月二十三日　千八百八十六年七月廿四日）東亞同文會編　特殊條約彙纂拔萃

說明

千八百七十六年の芝罘條約特別條欵中に英國使節の西藏を通過することを許容せらる清國政府の約束を含たりき然れども其後數年間はこの規定を實行せんとの企圖絕へてあらさりしか千八百八十四年に至り印度民政廳の吏員「コルマン、マコーレー」は本國政府の許可を得て拉薩府を訪はん爲め旅行免狀の交付を清國政府に要求せり「マコーレー」は北京倫敦間に往來周旋の結果遂に總理衙門より其旅行券を交付せられ其他種々必要なる許可を得たりき當時「マコーレー」にして若し其少數の一行と共に直に西藏に向つて出發したらんには安全なる保護と優握なる歡待とに得へく情勢頗る有望なるもありき然るに「マコーレー」は敢て此好機に乘せんとはせすして徒に逡巡躊躇せしのみならす更に其行を壯大にし多數の學

者を同伴し西藏の鑛脈を視察せんとの考を起し且つ支那本部より西藏を通過せんとの最初の企圖を變して印度より西藏に向はんとせり清國政府の意は素より斯の如きにあらざるを以て其行を喜はざりしか更に甚たしきは之に對する西藏人の反抗にして彼等はかゝる使節の許可に反對せんか爲めには干戈に訴ふるも之を辭せざるの勢なりき是に於て清國政府は兵力を以て西藏人を抑壓するか然らざれば西藏人の要求を容れて總理衙門の旅行免狀を取消すか二者何れか其一を擇はざるべからざる困難に陷れり而して其後者を擇はんとせは芝罘條約の別約を改正せしか爲め英國と協商を遂けざるべからず

西藏問題の如此なりし時恰も千八百八十六年一月緬甸は新に英國に併呑せられたり抑も緬甸は古來一獨立國なりしと雖一千六百六十五年頃（即康熙四年）より時々清朝に入貢せしが其君王の廢立隣邦諸國との分合常なかりしが爲め清國に對する交際も自ら厚薄あり時々反亂を企て干戈を以て相接すること數々なりしも乾隆大征の後即ち一千七百九十年（乾隆五十年）に至りては全く清國の封册を奉し一年一貢を約し爾來其慣例を持續せり

然るに英國は已に印度を征服し其勢漸次東進し十八世紀の末國事犯人引渡事件（緬甸王東方に於ては遷羅の境上なる「アルタバン」并に「テナツセリム」兩洲を服從し四方に於ては「アラカン」を占領して英領「ベルガル」と接攘す然るに「アラカン」人緬甸王に服せず兵を擧げて獨立を謀り破れて英領「ベンガル」に遁る英領印度總督「エルズリ」侯は強硬なる方針を取り國事犯人の引渡を諾せず而かも緬甸政府と協商する所あらんとし大佐「サイムス」等を阿華に派遣せしも孟雲の政府は英人を以て一種の商人に過ぎずとなし敢て之に應ぜず且政事上の犯罪者の引渡を反覆し新たに「ナフ」河境上の英領の側なる烏岐の所有權を爭ひ兵を「ベルガル」に出せり）は端なく兩國の衝突を來せしが緬甸一時は能く英軍に防禦せりと雖遂に力盡き一千八百六年二月廿四日「ヤンタボ」に於て締結せる講和條約により緬甸は軍費として百萬磅の償金支拂を諾し更に「アツサム」「アラカン」「テナツセリム」の三州を英國に割讓せり（之を第一次緬甸戰役と云ふ）

右講和條約には償金及土地割讓の外通商條約締結の豫約英國理事官の駐劄商人保護の件とを記載せるを以て英國は通商條約の締結を請求せしと雖緬甸之に應せず理事官を派遣せりと雖亦た之を拒絶し且在留英國人を虐待し或は之に金稅を課し或は之を禁錮せり印度總督「ダルフージー」卿大に商人虐待を怒り少將「ラムベルト」をして阿華政府を詰問せしめ且つ一萬「ルピー」の償金と地方官の謝罪狀を請求せしめたりと雖阿華政府之に應ぜず是に於て兩國復び干戈を交ゆるに至りしが緬軍大に敗れ千八百五十一年十二月二十日「ラングン」に於て講和條約を締結し自希州を英國に割讓せり是に於て下緬甸は全く英領に歸せり

「ラングン」條約の後辛ふじて通商條約成立し英商陸續上緬甸に往來するに至りしが時の緬王殘忍にして屢々暴政を行ふを以て政權緬王に存する間は英國の商人の財產生命の安全は得て期すべからず且つ此ころ佛國は印度支那の東部に於ける英の勢力を排して頻りに自己の勢力を扶殖せんと欲し「デロンクル」を使節として緬甸に赴かしめ緬王「チイバウ」が

英國に對し惡感情を抱くに乘じ千八百八十四年密に佛緬兩國攻守同盟を締結し翌年一月十五日巴里に於て之を公表せり（條約中には佛國は「チイバウ」王の實兄即ち王位窺覦者を「シヤンデルナゴル」に禁拘すべきと緬甸國は沼公河左河左涯の領土を悉く佛國に割讓すべきことを載せり）英國是に於て思へらく速に緬甸を征服せずんば內通商を進め外國權を擴張する能はずと即ち緬甸併呑の政策を定む時に偶緬甸國王と孟買緬甸通商會社との間に紛議あり印度大守「ダッファリン」伯居中調停を試みんとせしが國王之に應ぜず「ダッファリン」伯好機乘ずべしとなし最後通牒を國王に送り紛議を公平に決定せんことを要求すると共に英國理事官の護衛兵を從ひて國都に駐在することを逼り英國臣民の保護を約せしめんとす即ち一言以て之を覆へば英國の保護を受くるや否やの確答を求めたり然るに緬甸王「チイバウ」斷乎として消極的の回答を出てしを以て「ダッファリン」伯遂に印度事務大臣「ラントルスケアチル」卿の訓令に基づき宣戰せり此戰に於ては英の將軍「ブレンタアガスト」僅に一旅團の兵を率ゐて「イラッデー」江を溯り首府「マンタレー」に向ひしか途次多少の抵抗なきにあらざりしも到處緬軍を破り將に阿華に近かんとせし時國王の使節內務大臣「ショーイアクキョク、ション」一隻の緬甸船に乘じ來りて休戰を乞ふ將軍之に答へて曰く「國王と首府と軍隊とを引渡せば之に應ぜん」と緬使之に應ず英軍即ち進みて阿華市に入り悉く緬の兵器を收め更に進んで首府「マンダレー」を占領し緬王及一族を捕へ（一千八百八十五年十一月廿八日）遂に上緬甸の全土を併呑し了れり英將軍の印度太守の訓令を受け征途に上りしよく其局を收むるまで其間僅に二週間を出でずと云ふ前述の如く支那は此地を以て己の藩屬國と認め佛國も亦其勢力を此地に扶植せんとし略其根據を作りしに拘はらず兩國は手を拱して英國の處置に放任せし所以のものは當時清佛兩國安南に事を構へ他を顧みるの暇なかりしに由ると雖亦英將軍が迅雷耳を掩ふに暇あらざる機敏の處置與りて力あり と云ふべし英國は已に全緬甸を併呑して支那と接壤せり故に新境界の整理の爲め自ら清國政府と協商を遂げざるべからざるなり協商は前に英國首相「サールスベリ」侯續いて「ルーズベリー」侯と倫敦駐劄清國公使との間に開かれ其條約案も亦一種にはあらざりき此等の案中には（第一）兩帝國を對等地位に置かんとする緬甸清國間の往復文あり（第二）「マンデレー」の首坐僧侶が本事件を英國政府の關涉を離れ純然たる其本國の事件となさんとするあり（第三）「シャン」（Shan）州の領土と「イラワデー」河上の通商權とを清國に與へ之に代ふるに清國の緬甸に對する貢獻の要求を讓與せしめんとするあり此等の點に就き北京政府の交涉中清國は西藏の使節にして取消されんには緬甸の朝貢使に對する要求は唯形式的認容を以て滿足すべく別に其實行の詳細なる規定を要せずとの意あるを知りたるを以て兩政

府は該問題を迅速に決定せんことを欲し西藏使節事件を加へ本條約を締結せり本條約に依り西藏方面に關しては使節の派遣を中止し印藏間通商開始の講究を豫約し緬甸方面に關しては清國は從來の如く十年一貢と云ふ朦朧たる關係に止め其容易に取得すべかりし「イラワデー」河上の港口をも棄て緬甸全土に於ける英國の主權を承認せり其後尙屢々外交談判を開き遂に貢献の要求は全く放棄せられ之に代するに清國は「シャン」國重要なる領土の一部を得たりしが其後又清國は江洪領土の湄公河外の地の一部を佛國に割讓して英國との約に背きしを以て一度得たる「シャン」國の領地は再び英國に取還さるゝに至れり

本文

大不列顛愛蘭女王印度女皇陛下及清國皇帝陛下は兩帝國間に存する親睦好意の關係を支持し永續し其臣民及領土の間に通商上の交際を促進擴張せんとする誠實の希望を以て下に掲ぐる條約を締結せり

大不列顛方には女皇陛下の「ワシントン」駐劄公使館書記官此頃の清國に於ける女皇陛下の辨理公使、聖「ミカエル」及聖「ジオールジ」最高勳位「ニコラス、ロデリック、オコール」清國方には總理衙門首相慶親王總理衙門大臣工部侍郎孫

第一條　十年毎に使節を派し地方の物產を贈呈するは緬甸國の常習なりしを以て英國は緬甸の最主權者が其常例の十年使節を派遣すべきに同意す但し使節の一行は緬甸種族たるべし

第二條　清國は英國が現今緬甸に行ひつゝある主權及規則に屬する如何なる事柄に關しても英國は其適當と思惟する何事をも自由に遂行すべきに同意す

第三條　緬甸清國間の疆域は境界制定委員によりて劃せらるべく疆界通商の條件は疆界通商條約に依りて決定せらるべし兩國は清國及緬甸間の通商を保護奬勵するに同意するものなり

第四條　清國政府が事情を探究せる所に依れば芝罘條約特別條欵に規定せる西藏に使節派遣の事に關しては多くの障礙の存すること明かなるを以て英國は使節派遣の中止に同意す印度西藏間の疆界貿易に對する排置を思料せんとする英國政府の希望に關し清國政府は其事情を綿密に探究したる後通商の促進發達の目的を以て人民を訓諭奬勵する方法を採るべき義務を有す若し實行し得べき場合には清國政府は進んで綿密に通商章程を調査すべし若し又除去し難き障礙の存することを發見せし場合には英國政府は不當にも之を强ゆることなるべし

第五條　本條約は批准を要す而して其批准は本條約の記名の日附後可及的速に倫敦にて交換せらるべし

其の證として相互の協議者は其の名を記入し其の紋章の印を捺せり

耶蘇紀元一千八百八十六年六月廿四日清曆光緒十二年六月二十三日北京に於て三通之を作る

「ニコラス、ロデリック、オコノル」印
慶親王印
孫毓汶印

第二節　印、藏條約（一名シャム條約）（光緒十六年二月廿七日一千八百九十年三月十七日）東亞同文會編特殊條約彙纂拔萃

說明

本條約は清國より駐藏幇辦大臣副都統銜升泰を英國より印度總督「マルクイス、ランスドン」を簡派し光緒十六年二月二十七日（一千八百九十年三月十七日）孟加臘の首府加爾各搭に於て記名調印し同年七月十二日（八月二十七日）英京倫敦外務省に於て兩國皇帝の批准原本の交換を經たるものなり

名けて印藏條約と稱すと雖印度西藏の全體に關するものにあらずして南印度の一小地方なる西金（シキム）（哲孟雄）と西藏との境界と其他の關係を定めたるに過ぎざるなり抑も「シキム」は東は「ブータン」（條文の布坦）西は「ネポール」（條文の所謂廓爾哈）に隣し北は西藏に境するの地にして古昔獨立の王國なりしが（國王は今より二百六十餘年前初めて西藏より此國に來れり代々の國王は多く其室を西藏貴族に求む現國王の室も亦西藏法王近親ものゝ女なりと云ふ國內人種風俗宗教は西藏に似上流語は西藏語を用ゆ故に此國は印度に屬するよりは寧に西藏に屬すべきなり）英國の勢力漸く印度の南端に及ひ一千八百十四年「ネポール」戰爭（英人と「ネポール」人との戰爭）の際英國は「ネポール」より割取したる土地即「テライ」及「モーラン」等の喜馬拉亞山下の廣地を「シキム」王に與へ其代償として「シキム」國を自國の保護國たらしめたり一千八百三十五年英國は「シキム」王に年々三百「ポント」を與ふることを約して主府太吉嶺（ダージリン）及其附近を買收し以て新殖民地を建設せり一千八百六十年「コルネール、ガーラ」英軍を率ひ使節「アスレー、エデン」と共に第二の主府「タムロン」に赴き英人の貿易を許すと英人の旅行を保護すること國內の道路を修築すること等の條約を結ぶと共に國王に支給する年俸は增して一千二百「ポンド」となせり「シキム」は此の如く英國の勢力範圍に歸するに及んで當時未だ世界の秘密國として其內情を窺知せざる西藏と隣接するに至りたるを以て或は此方面より入りて內情を探明せんとし一千八百八十四年前條約

に基つき使節を派遣せしか西藏人の反抗によりて其志を達する能はず千八百八十六年の條約を以て使節派遣の中止を承諾せり英國使節の中止となるや西藏は西金王に說くに英國使節の中止は全く西藏を恐懼するの結果なるを以てして西藏の權力を示すと共に尙「シキム」に干涉し峠を超へて行はるゝ各種の貿易を禁止し又「シキム」王に勸むるに西藏に移住すべきを以てせり王は此勸告に從ひ西藏に移り自國を棄つること殆んど二年其間英國は數々歸國を忠告せりと雖王之を聽かず又王に左袒せる西藏人等は英國の不備に乘じ一千八百八十七年兵を「シキム」境內に送り「ツアリ」峠の麓「リントウ」に保塞を建設し武備を嚴にし英人の貿易路を遮斷したり英國大に之を怒り一千八百八十八年師を出して西藏軍を破り悉く「シキム」境內より驅逐し更に「シキム」王に交涉して遂に「タムロン」に歸還せしめたり爾來英國は駐在官を此に置きたりしが內政外政共に其指揮に依りて行はれ名は保護國たりと雖其實殆んど英國の領土となり王は唯虛位を擁するのみとはなれり夫れ此の如く英國は「シキム」を以て其管下に歸せしを以て(一)之と隣接せる西藏との境界を確定せざるべからず(二)「シキム」は西藏と歷史的關係淺からざるを以て其英國の主權に期したるを西藏の本國たる支那に承認せしむるの必要あり(三)「ヒマラヤ」山脈を以て境せる印藏界線は頗る長距離なりと雖西方は「ネポール」國南方は「ブータン」國各其間に介在して西藏との通路を開くに便ならず獨り「シキム」は直接に西藏と連接するを以て英國昔年の希望たる西藏へ政治的通商的通路を開かんと欲せば此地より進むの捷徑たるに若かず(四)前顯光緒十二年六月の條約に於て印度通商に關し章程を定むべきことを豫約せしを以て之を實行するの必要あり是等は英國が清國に交涉して全權委員を「カルカッタ」に招き本條約を締結したる所以なら

ん

本條約に依り東は「ブータン」の境界より起り西は「ネポール」の境界に至る印哲間の分水嶺を境界となし清國は英國が「シキム」に對して內政外交其權あることを承認し其他通商游牧及外交書面往復の事に關しては更に双方商議を經て確定することゝせり

本條約中再議を經て確定すべきものに就ては本約後數年の後（一千八百九十五年前）清國より李某委員として「カルカッタ」に至り英國の委員と會して一章程を議定したりと云ふ編者未だ其本文に接せずと雖明治三十四五年同地の事情を調査して歸來せる者に就き通商に關し現に行はれつゝある所を聞くに大約左の如し

一千八百九十五年五月一日より「シキム」國境に近き西藏境內亞東に於て印藏兩國人の

貿易場を開始し鹽、茶、酒、戎器、彈藥は輸出入共に禁制なりと雖其他の貨物は凡て出入自由にして五ヶ年の間全く課稅を免る（已に五ヶ年の期を過ぎしと雖尙依然舊狀を繼續す）只出入共稅關に於て重量價格を登記するの手續を要すのみ稅關長は英人「ハンダソン」にして總稅務司「ロバート、バート」の管轄の下に事務を執り外に支那人西藏人數人あり關長の命を仰ぐ人の來往は貨物の出入の如く自由ならず英國人亞東稅關所在地に來り物品を賣買し又居住し得るも稅關より一歩も西藏內に進むを許されず西藏人は稅關所在地に居住するを許されずと雖「シキム」地方に至るは全く禁制あらず然れども其出づるや或日限を嚴守せざるべからざるのみならず旅行出願の手續甚だ複雜なるを以て實際上容易に出づる能はず而して西藏人の出入及外人の入西藏は西藏ツァイボ（一行政官亞東關稅關より西四五丁離る）にありて之を監視すと

本文

第一欵　藏哲之界以自布坦交界之支莫摯山起至廓爾邊界止分哲屬、梯斯塔及近山南流諸小河藏屬、莫竹及近山北流諸小河、分水流之一帶山頂爲界

第二欵　哲孟雄由英國保護督理、卽爲依認其內政外交均應專由英國逕諸部長暨官員等除由英國經理準行之事外概不得與無論何國交涉來往

第三欵　中英兩國互允、以第一欵所定之界限爲準兩國遵守並使兩邊各無犯越之事

第四欵　藏哲通商、應如何增益便利一事容後再議務期彼此均受其益

第五欵　哲孟雄境內、游牧一事、彼此言明俟查明情形後再爲議訂

第六欵　印藏官員因公交涉如何文移往來一切彼此言明俟後再商另訂

第七欵　自此條欵批准互換之日爲始限以六箇月由中國駐藏大臣英國印度執政大臣各派委員一人將第四第五第三六欵言明隨後議訂各節兼同會商以期妥協

第八欵　以上條欵既定後應送兩國批准隨將條欵原本在倫敦互換彼此各執以照信守

印藏條約補遺條款竝亞東開放に關する規定

一千八百九十年の「シキム」西藏條約に增補せらるべき貿易、公の通信、牧場に關する規定及亞東開放に關する規程

一千八百九十三年十二月五日
光緒十九年十月二十八日
太吉嶺（ゲンデン）に於て調印

一、西藏側の境界に於ける亞東に一貿易市場を開設し千八百九十四年五月一日より貿易の爲め凡ての英國臣民に開放せらるべし印度政府は其市場に於ける英國貿易の狀況を監視する爲め官吏を派遣して自由に亞東に住居せしむることを得べし

二、亞東に於て貿易に從事する英國臣民は境界と亞東との間を彼處此處自由に旅行し亞東に居

住し自己の居住の爲め又は貨物蓄藏の爲め家屋若くは倉庫を賃借すること自由たるべし

清國政府は前記の目的の爲め適當なる建物を英國臣民に供給すべく又印度政府が第一條の規程に基き亞東に居住を命じたる官吏に特別にして適當なる邸宅を供給する樣取計ふべし

英國臣民は何人たるを問はず金錢を以て或は物物交換によりて其貨物を賣却し內地產の物產を購入し又如何なる種類の運送具を使用するも何等煩はしき制限を受くることなく一般地方習慣に從て其業を營むこと自由たるべし斯かる英國臣民は其生命財產の十分なる保護を受くべし西藏當局者の休憩所を設立したる境界と亞東との間なる「ロンヂョウ」及「ターチウン」に於て英國臣民は旅行を中止し此處に日極め貸借にて止宿することを得べし

三、左記物品即ち武器、彈藥、軍需品、鹽、酒類魔醉劑等の輸出入は兩國孰れかの政府が任意によりて全然禁止することを得へく又孰れかの政府が自己の方に於て課稅するを適當なりと思考し得へき條件に於てのみ許容することを得べし

四、前條に列擧したる種類の以外の貨物にして「シキム」西藏の境界を經由して英領印度より西藏に入るもの又は反對に西藏より英領印度に入るものは其出所の孰れにあるを問はす亞東開放の日附より始まり五箇年期間免稅たるへし然れども若し此期間を經過したる後望により一定稅率を相互に協定し之を實施することを得べし

印度茶は支那茶か英國に輸入せらるゝ輸入稅に超過せさる稅率を以て西藏に輸入せらるゝことを得べし然とも印度茶の貿易は他の商品が免稅せらるゝ五箇年の期間は停止せらるべし

五、亞東に到着する凡ての貨物は英領印度より到ると西藏より到るとを問はず貨物の種類數量價値等に就き詳細なる報告を該地稅關に差出し檢査を受くへし

六、西藏に於て英國民と清民若くは西藏人民との間に貿易に關し紛議の起りたる時は能く事情を探究し「シキム」に派遣しある政務官と清國々境官吏と面談を遂けて之を決定すへし

面談の目的は事實を確め公事判決を下すにあるを以て報告所屬國の法律を以て之を處理すべし

七、印度政府より清帝國西藏駐劄官宛の公信は在「シキム」政務官より清國々境官吏に之を手渡し清國官吏は急使を以て之を達すべし

清帝國西藏駐劄官より印度政府宛の公信は清國國境官吏より在「シキム」の政務官に之を手渡し政務官は出來得る限り速に之を送達すべし

八、清國と印度官憲との間に往復する公信は相當の敬意を以て取扱はれ飛脚は兩政府の當局者より往返の際便宜を與へらるべきものとす

九、亞東開放の日附より一年過經の後尙引續き其家畜を「シキム」に於て牧養せんとする西藏人

は英國政府が「シキム」に於ける牧養に關し時々發布する規則に從ふべし此の如き規程に就ては適當なる注意を與ふべし

一般規程

一、在「シキム」の政務官と清國國境官吏との間に意見の衝突ある時は各自其上長官に此事を報告すべし各上長官の間に於て尚決定を見ざる時は各自其政府に申告して處決を請ふべし

二、本條約實施の日より五箇年經過後は各當事者より六箇月前に申告あれば特に任命せられたる委員にて本條約を改訂することを得べし而して委員は自己の考にて諸種の改正及び擴張を決定し又採用するの權利を與へらるべし

三、「シキム」西藏條約第七條に基き該條約の四、五、六條の三箇條の下に保留せられたる問題に最後の決定を與ふるに付會合討議する爲めに英清兩國政府より協同委員の任命せらるべきことを契約せられ而して斯の如くして任命せられたる委員と會合して該問題即ち貿易通信牧場等の問題を討議したる上更に進て前記九箇條の規程及三箇條の一般規程より成る取極書に調印し該九箇條及三箇條の規程は本條約の一部分を形成するものなることを宣言することを命ぜられたり此證として各委員は下に其名を署するものなり

一千八百九十三年十二月五日即ち光緒十九年十月二十八日「ダーヂリン」に於て四通を作る

英國委員　「エ、ダブリユー、ボール」　印
清國委員　何　長　清　印
同　「ジエームス、エッチ、パート」印

第三節　「ヤング、ハスバンド」大佐の遠征及び中英續訂藏印條約

如此にして英國の對西藏政策は漸次其歩を進めつゝあるも飜つて西藏を見れば其嘗て支藩たりし布坦西金（ブータンシキム）（暫孟雄）等遂次英國の蠶食する所となれるを以て外人に對する憎惡の念禁ずる能はず遂に益々鎖國主義を以て國是とし「シキム」條約實行に關しても遲々として要領を得ず是を以て英國は數々清國に迫り交渉を重ねたるも遷延又遷延其慣用の手段を以て無爲に經過せんことを期す此に於て英國已むを得ず方針を一轉して達賴喇嘛に直接談判を開始するも彼れは言を左右に託して遂に條約全部の履行を見る能はざりし是より先き露國が西藏に着目して得意の籠絡手腕を弄し達賴喇嘛を自家の藥籠中のものとなせしは已に前章に說ける所の如し時恰かも日露戰爭に際せるを以て英國は此機を失せず根據を西藏に作らんと欲し千九百〇三年（明治三十六年）「ヤング、ハスバンド」大佐に命じ遠征隊を率ゐ「シキム」より西藏に侵入せしむ其目

的は「シキム」條約の全部實行を迫ると同時に西藏の國力を偵察するにありしなり

遠征隊は十二月十三日「キンチェンジョング」に達し「ツンビ」河濱に入れり此處に數名の清國官吏ありて形式上の故障を唱へたるも何等抵抗を爲さずして一行を接迎したり其進んで「ファリ」に達したるは十二月廿四日なりしが此地に於て翌年三月まで滯在し「マクドノルト」將軍の率ゐる分遣隊の來着を竢て三月廿七日更に前進し江孜に向へり江孜は拉薩及札什倫布に至る道路の分岐點にして頗る要地なり三月盡日「ッナ」と稱せる西藏軍の衞戍地に達せし時特に拉薩より派遣せられたる一將官來りて英軍の前進を制止したり然ども大佐は英軍の使命の平和的なるを告げ之に前進を許すの却て利益なるべきを說き談判未だ終らざるに千五百の西藏人は拔刀して急に英軍を襲ひマクドノルト將軍の身邊に肉薄して殆んど危險に陷らしめたり如何に事の急なりしはや「マクドノルト」將軍自ら短銃を以て敵二人を斃せしにて知るべく「デイリー、メール」の通信員は何氣なく寫生せし所を襲はれて十二箇所に負傷したり英軍は約千人に大砲一門機關砲二門を有し直に應戰せしかば刀劒又は火繩銃を以て戰へる西藏人は忽にして潰へ死傷七百を殘し退却せり英軍は逃るを追ひて江孜に入り軍を止めて拉薩駐藏大臣に意を通じ達賴喇嘛より正當に全權を委任されたる西藏官吏と共に來り談判を開くべきを促したり然ども喇嘛は露國に依賴して英國との交渉を開くことを承諾せず六月七日に至り前後西藏に入れる英軍の總數は四千六百人に達し砲十二門を有せり六月廿九日二人の西藏人は休戰旗を揭げて大佐の營に至り西藏代表者の到着を待つため休戰せんことを請ふ是に於て一定の條件の下に三十日日沒までを期して休戰を約す然るに其期日に至り更に休戰の延期を請へり七月二日に至り西藏の代表者到着し「ヤングバスバンド」大佐に會見せり其際大佐は代表に對し縷々兩國の今日あるに至りたる顚末を述べ英國の當初より平和的協定を望みしに拘はらず西藏人の抗敵行爲に出たるを詰りしに代表者は之に對して辯解する所ありしが結局要領を得ずして別れたり大佐は商議を開始するに先ち其地砲壘より西藏人の撤退せんことを要求せしに代表者は達賴喇嘛の命を得るに非らざれば諾否の答を爲し難きを述べ其砲壘は益戰備を修むるに汲々たるの狀あり斯くて最後の休戰期たる五日正午と爲れるも代表者より何等の申出なかりき是に於て「マクドナルド」將軍は砲壘の攻擊を開始し頑强なる敵軍を敗りて遂に其砲壘を陷れ後之を破壞せり十三日「ヤング、バスバンド」大佐は檄を遠近に移して大佐の拉薩に進むの目的を西藏人民に曉諭し西藏人にして尙ほ抗敵行爲を持續せば英國政府の要求も自ら嚴ならざるを得ず其要求の寬嚴は繫りて西藏人の使節に對する態度如何に在りと警告し其翌日を以て大佐は約二千六百の將士に護衞せられ拉薩に向ひ發進せり途上至る所敵の砲火を受け十九日「ナガーツエ」に達するや西藏の講和代表者の來るに會せり彼は拉薩の純然たる宗教府にして國事を商議するの地に非らざるを言ひ使節の江孜に引

返し、同地に會商せんことを請ひしが大佐は從來の經過に鑑みて之を峻拒し入府の旅程を辿け八月三日正午を以て始めて其目的地たる拉薩に入れり是より先き達賴喇嘛は布達拉宮を出て青海方面に走れり英軍は「ナガーツエ」附近なる「カローラ」嶺を越へてより以來復た西藏人の抵抗に遭はず其拉薩に入るに先ち同所にありし西藏兵は府外の地に撤退し住民は些の惡意を示すことなく唯奇異の觀を以て英國軍を待ち其駐屯地附近には盛に市場を開きて遠來の珍客の需要に應ぜり駐藏大臣は先づ英國使節を訪ひて條約の協定に關しては及ぶべき丈けの力を添ゆべきを言ひ軍隊に贈るに食料品を以てし涅伯爾の代表者も亦來りて使節に謁し爾來其便宜を圖れり大佐は速かに條約の協商を開かんことを西藏當局者に迫りしも當局者は互に其責任を讓り空しく數十日を經て始めて折衝を開くを得（駐藏大臣及び西藏の高官は書を達賴喇嘛に送り其拉薩に還らんとを請ひしに達賴は却て「ドルヂエ」と共に更に蒙古に避遁せることは前章に說けるが如し）遂に副王班禪額爾德尼と商議の結果十箇條より成れる條欵を訂結せり時に千九百〇四年九月二日なり

其條欵は後章に記せる中英續訂藏印條約の附約と全く同一文なれば玆に略す

右調印後「ヤングハスバンド」は更に清國駐藏大臣有泰をして此條約を承認せしめんと欲し左記協商案を提出して調印を求めたり曰く

光緒十六年の「カルカツタ」英清條約及十九年訂立せし協約内に疑惑爲難の處あり藏人は清國の開導を聽かず且悉く之を遵行辨理せざるが故に英本國は應に自ら辨理せんと欲し特に邊務大臣「ヤングハスバンド」を派し清國駐藏大臣有泰と會商し一切を妥辦せんとせしも未だ事宜に協はす即ち光緒十六年の條約内に於ける疑惑爲難の事を以て英本國と西藏との間に十條を締結し清國欽差駐藏大臣有泰之を查閲して異議なきに由り署名調印す今回清國と協商定約の後は西藏少しも之に違背することを得ず本件は光緒十六年、十九年に英國と清國と締結したる條約及規則中妥當ならず且實行し難きの所ありて西藏は之を遵行せざるに因り英國は特に全權大使「ヤング、ハスバンド」を派し境界に至り會議せんとせしに意外にも兵端を啓き和好を失するに至れり玆に締結したる十條は達賴喇嘛と英大臣「ヤング、ハスバンド」とと會商して締結調印したるものにして是より以て和好を修せんことを期すと駐藏大臣有泰は右照會に接するや清歷七月廿三日を以て其條文を清國政府に電報し且其末文に「英官は本條約の締結は英國皇帝の勅旨なるを以て決して變更すること能はず」と聲明せる旨を附記せり清國外務部は同月二十八日有泰の電報に接し直に電訓して曰く本條約は清國の主權を害するものなるが故に調印すべからずと

駐藏大臣は其趣きを英國に通牒せしも英國は頑として之を排斥し爾後兩國の交涉談判を印度

「カルコッタ」に於て開始せしも兩國相執て下らず當時露國は滿洲に於て連戰連敗全力を該方面に用ひしを以て又英國ゝ西藏問題を爭ふの餘裕なかりし只佛獨駐清公使の陰に陽に清國に對し助言を與へたりと信ぜられしも遂に英國の主張を枉ぐる能はざりし然るに此問題の遷延は畢竟清國政府の不利にして徒らに西藏土民の不信用を來たし其內政整理に對し障碍を來すの虞ありしを以て清國政府の提議により談判地を北京に移し千九百〇六年（明治三十九年）四月中旬ゝり外務部と英公使と談判を開始し樽俎の日を重ねる未だ幾ならずして四月二十七日に至り次の條約の調印を見るに至れり

中英續訂藏印條約（清國商務官報ゝり摘載）

一千八白九十年三月十七日（光緒十六年二月二十七日）及千八百九十三年十二月五日（光緒十九年十月二十八日）清英兩國定むる所の兩國の藏印條約所載の各款は西藏が其實施を肯ぜざるに由り英國政府は法を設け該兩條約の權利を保全せざるを得ず故に光緒三十年七月二十八日（千九百四年九月七日）拉薩に於て締結し光緒三十年十月五日（同年十一月十一日）印度總督が英國政府に代り批准したる英藏條約十一條並に同條約に變更を加へたる當日の聲明を茲に附屬せしむ

第一條　英藏兩國は必す力を盡し法を設けて千九百四年九月七日（光緒三十年七月二十八日）定むる所の條約（本文の附約）を實行するを得せしむべし

第二條　英國政府は西藏の土地を其版圖に收容せざること并に西藏一切の政治に干與せざることを承諾し清國政府も亦他國が西藏の內政に干與し或は西藏の土地を占領することを許さゞることを承諾す

第三條　千九百四年九月七日の英藏條約第九條第四節に聲明する所の各種の權利は清國に與ふるを除くの外別に他國政府并に他國人に與ふることを得ず但し其第二條所載の市場には英國は電線を設けて印度境內に通信するの利益を得べきことは清國と商定を經たり

第四條　千八百九十年の英清條約と千八百九十三年の章程に載する所の各條にして本條約及附約に違反せざるものとは實に施行すべし

第五條　此條約は英清兩國文を以て作成し詳細に校正し兩文符合するものとす但し文義上の爭點あるときは則ち英文を以て本據となすべし

第六條　此條約は兩國の皇帝に於て批准署名すべし其批准書は兩國全權署名の日ゝり起算し三個月を限り倫敦に於て交換すべし

今英清兩國大使は此條約に記名調印す英文四通漢文四通を作り證據とす

大英國欽差駐劄中華便宜行事全權大臣　薩道義

大清國欽差全權大臣外務部右侍郎　唐紹儀

光緒三十二年四月初四日
西曆一千九百零六年四月廿七日　於北京調印

附約

光緒三十年七月廿八日即西曆一千九百四年九月七日締結したる條約及聲明を左に揭ぐ

光緒十六十九年清國と英國と定むる所の二回の英藏條約は其意義幷施行に付き均しく疑難の處あり又英藏間歷年和好なるも近來事故の爲め感情圓滿ならざるに因り今重ねて舊好を修め疑難する所の事を全く解定せんと欲し玆に大英國政府は特に邊務大臣「ヤング、ハスバント」を派し噶爾丹寺長羅生憂爾曾(ローサンガ ルッエン)及噶布倫幷に色拉、別蚌、噶爾丹三寺の呼圖克圖は西藏民敎諸首領と西藏を代表し左に列記する條欵を議定せり

第一欵　西藏は光緒十六年清英兩國定むる所の條約を遵行することを承認し亦同條約第一欵に定めたる哲孟雄(シキム)(西金)と西藏の邊界を承認し且つ此欵を按じて界石を建つることを承諾す

第二欵　西藏は江孜(ヂャンツェー)、噶大克(ガタク)及亞東(ヤートン)を通商場となし英國及西藏商民が隨意に往來貿易することを承諾し且光緒十九年清國と英國と締結したる條約內の亞東に關係ある各欵は亦江孜及噶大克にも同樣に施行すべきことを承諾す但し爾後英國西藏双方共改正を承諾するときは右三箇處は其改正規則に從て辨理すべし同處に於て通商場を設立することの外西藏は現に行通する道路の貿易は總て阻碍することなかるべし將來商業盛なるに至らば斟酌の上別に通商場を設くるを許すべく其方法は上述の規則に從ひ同樣に辨理すべし

第三欵　光緒十九年の清英條約中改正すべき處は別案として斟酌處辨すべく西藏は其際專權を有する官吏を派し英國政府の派遣する官吏と會議の上改正することを承諾す

第四欵　西藏は將來制定する稅則內の課稅の外何種の稅たるに論なく總て徵收せざることを承諾す

第五欵　西藏は印度の境界より江孜、噶大克に至る各通路に對し毫も阻礙を與ふることなく且隨時修理して貿易の便を計るべし又亞東、江孜、噶大克及將來續て開設する通商場には西藏は官吏を居住せしめ英國も亦官吏を派して右各處を監管せしむ英國官吏が西藏官吏或は駐藏清國官吏に公文を送付する場合には通商場に居住する右西藏官吏は責任を以て之を受領轉送すべく返信送付の場合も亦同樣たるべし

第六欵　西藏は條約に違背せるに因り其責任を問ふ爲め英國は兵を拉薩に派遣し又拉薩に赴きたる英國邊務大臣及其隨員護衞兵等は西藏人の爲め侮辱攻擊せられたり是を以て西藏は兵費

及侮攻の無禮を加へたる賠償として黄金五十萬磅に相當する銀七百五十萬「ルーピー」を英國政府に支拂ふべし此賠償金は或は西藏境内或は英領大吉嶺孔拉白古里等英國が隨時指定する處の地に於て支拂ふべく其支拂方は毎年西暦一月一日十萬「ルーピー」づゝを支拂ひ七十五箇年に完濟することゝし其授受の場所は英國政府より豫め通告すべく第一期支拂は西暦一千九百〇六年一月一日とす

第七欵　上述の賠償金の支拂及第二第三第四第五欵の通商場を開設するの擔保として英國政府は兵を春丕に駐屯し賠償金が悉く償還せられ而して通商場は差支なく開設せられたる三年後の最終日を以て撤退すべし

第八欵　西藏は印度邊界より江孜拉薩に至る砲臺山寨等を悉く削平し又通路を阻礙する武備を全く撤退することを承諾す

第九欵　西藏は英國政府先づ承諾するにあらざれば左記五項の事を舉辦する能はざるものとす

一、西藏の土地を讓與賣却租借抵當其他如何なる名義を以てするも其權利を外國へ許與するを得ず

二、西藏一切の事に對し何れの外國も干涉するを得ず

三、何れの外國も官吏又は代理人を派して西藏境内に進入せしむるを得ず

四、鐵道道路電線礦山其他何種の權利たるに論なく均しく各外國籍に屬する人民に許與せしむるを許さず若し此種の利權を許すときは之に相當したる權利或は相同しき利權を同樣に英國政府にも享受せしむべし

五、西藏の各收入或は貨物或は金銀錢幣等の類を各外國或は各外國籍に屬する人民に抵當として給與するを許さず

第十欵　此條約は共に五通を作り協議したる各員は光緒甲辰年七月二十八日即西暦一千九百四年九月七日拉薩に於て記名調印して證となす

大英國邊務大臣「ヤング、ハスバント」印

達賴喇嘛　印（此印は噶爾丹寺長の鈐する所）

噶布倫　印

別蚌寺　印

色拉寺　印

噶爾丹寺　印

西藏首領　印

英藏兩國各員は今日定むる所の條約は英文を以て標準となすことを聲明せり

印度總督　噶士爾　署名

此條約は西暦一千九百四年十一月十一日印度新疆に於て印度總督之を批准せり

印度政府外務大臣「フレーサー」署名

印度總督の聲明したる條欵は既に批准したる光緒三十年七月廿八日即西暦一千九百四年九月七日に訂結せる英藏條約の内に附す光緒三十年七月廿八日西暦一千九百四年九月七日英國の派遣したる邊務大臣「ヤングハスバンド」は英國政府に代り噶爾丹寺長羅生憂爾曾及噶布倫並色拉別蚌噶爾丹三大寺の呼圖克圖は西藏民敎諸首領と西藏を代表し締結したる此條約は印度總督の批准を經並に惠恩的に左の件を許せり即同條約第六欵の西藏は英國に賠償すべき入藏兵費七百五十萬「ルーピー」を二百五十萬「ルーピー」に減ずべし又同條約に定めたる賠償金三年三期支拂の後には英國の派遣せる春丕占領兵は撤退することを聲明す但同條約第二欵に定めたる通商場は西藏は第七欵に照して三年間に開設すべく且條約内の各節に照して一々誠實に處辨すべし

印度總督　噶士爾　記名調印

此欵は西暦一千九百四年十一月十一日印度總督之に署名せり

印度總督外務大臣「フレーサー」署名

此に於てか英國は西藏に對して全く優越權を護得せり而して英國は又深く露國の籠絡策に學ぶ所あり副王班禪額爾德尼を誘致して印度に於て英國皇太子に謁見せしめ或は「シキム」王子を勸誘して英京に留學せしめ自國の文明を該方面より漸次西藏に輸入せんとし一面巨資を投じ境上の新路を開鑿し將來鐵道の敷設を容易にし加ふるに邊境電線の接續は速に他國の動靜を察知すべく將來世界秘密國の開發は意外の速力を以て進行するならんか

第六章　西藏と清露英との關係に就て

西藏と支那との關係に就ては前章政體史略其他に於て說述する所に以て已に明瞭ならん要之西藏は名義上支那の屬國たりと雖西藏人が支那人に對し敬意を表せしの時代は已に去り今や西藏人は輕蔑を以て支那人を迎へつゝあり今日の有樣を以てすれば清國政府は恐くは西藏に對して其衰勢を恢復する能はざるべし之に反し英國の西藏に於ける成効は已に前章に說けるが如し然るば則ち西藏に於ける成功者は英國にして而して英國は將來に於ても其の成功を持續し得べきか是れ實に疑問に屬す恐らくは露國は他の成功を傍觀して從來の政策を一擲する如き事なかるべし況んや現任駐清露公使「ポコチロフ」は一昨夏其着任に先だち蒙古庫倫に於て當時西藏を出奔せし達賴喇嘛と密見せしが如き或は達賴に蹈はすに黃金を以てし自國領土の喇嘛信徒（フリ

ヤット人）に布教せしめんとせしが如きは暫く置き露が多年蒙古西藏方面に扶植せる潜勢力は澎湃として現はれ來るの日或は無しと云ふべからず此の如く英露の兩國其政策時に消長差等ありと雖將來西藏問題に解釋を與ふるものは恐くは英露兩國ならんか吾人は活目して之に注意せざるべからざるなり何となれば西藏問題は則ち東亞の大局に多大の影響を與ふるものなればなり

西藏通覽　終

西藏語ト羅々語トノ差別

（第一篇第五章末節參照）

譯語	西藏語	羅々語
一	タ	ツア
二	ナ	ニ
三	シ	ス
四	イ	エル
五	ゲイ	ガ
六	テフ	フオ
七	シャン	シー
八	ジー	シエ
九	ギョ	グ
十	ツイ	ツィエ
太陽	ニマ	ヘブシオ
太陰	ハバ	ラバ
星	ツイ	ムツィオ
雲	グワラ	マハ
雪	イ	ウオ
風	マル	マル
東	シャチオ	ブヅ
西	ノチオ	ブヅィエ

（二其）

譯語	西藏語	玀々語
南	ロチオ	未詳
北	ツィアンチオ	未詳
晝	シオヴァシェ	ムエルコ
夜	クェ	ムケコ
朝	ヂャマツェ	ツィーグヂコ
昨日	ヤミウ	アニヂ
明日	ソニウ	シータヂ
今日	未詳	イニゲ
火	ミエブ	ムト
水	ヂオ	イグ
川	インヂロマ	ヌイ
茶	ヂヤチヤ	ラ
酒	ウオ	ヴィー
牝牛	ムウェ	ルー
狗	チオ	ペ
山羊	チ	チ
羊	ヨ	ヨ
汝	ナ	ニ

（三其）

譯語	西藏語	玀々語
彼	ツ	ツァ或ハヂウ
汝何レヘ行カントスルヤ	ハダイガ	カイ
汝何レヨリ來リシ	ハダワラ	カラ
此所ニ來レ	タカラ	ツクラ
退去セヨ	ネイイ	タシヨ

含ヲ氣中語又リア干若韻子ルス化變ニ怪奇及音喉ハ語言ノ種々玀ヲ語那支テシ概ニ共族種二ハニ稱名ノ品物唯シ多音唇及音フ唱テフ云トフ用

（二其）

西藏音綴リ	英譯	和譯	發音	備考
Gsum	Three	三	Rsum	
Gzugs	Figure	肯像．模樣	Rdzak	
Dkah	difficult	困難	Rka	
Dgra	Enemy	敵	Rja	
Dpag	Fut of dpog		Huak	拉薩ニテ pa
Dpal	Glory	名譽	Huel	
Dpé	Example	例	Hué	
Dper-na	For Example	譬令ヘバ	Huer-na	
Dbus-nas	From the midst	眞中カラ	Dwa-né	
Dugos-po	Reality	實際	Rnyö-po	
Dkyil-hk'or	Circle	圍	Dchyil-k'or	拉薩ニテ chi k'or
Dpung	Host	主人	Hung	
Dben	Solitude	孤獨	Wen	英ノ when
Dbyangs	Song	歌	Ryang	
Dbul-p'ongs-pa	Indigent	貧乏ナル	Wul-p'ong-Va	
Dbye-dzing	Being divided	分タレテ	Djé dzäng	拉薩ニテ jyé-dzin
Dmah	Low	低キ	Ma	
Bral	Deprived of	禮取ル	Jal	
Bkra	Good	善	Ja	亦 tra ト聞ユ
Bkah hstsal	Spoke	話セシ	Knar-tsal	
Bskyod	Moved	動キシ	Rshyot	又 Kyot
Brla	Thigh	股	Vla	
Brjod	Spoke	話セシ	Ryot	
Bgyis	Made	爲セシ	Rjye	
Byams-pa	The mercifulone	慈慈深キ者	Chnam-pa	又 suam-pa
Brgyan-pa	Adorned	飾ザリシ	Rgyan-pa	
Brgya-ba	The hundredth	第百ノ	Rgya-wa	又 rya-va
Bzla-par	Spoken	話シタ	Rdä-par	

性特の音發方地カナバ及びワドムア

西藏音綴リ	英譯	和譯	發音	備考
Dus	Time	時間	Du	佛蘭西ノ du
Ch'os	Law	法	Ch'na	拉薩ニテ ch'ü
Dzus	Asked	乞ヒ求ムル	Duzu	
K'ro	Anger	忿怒	Cho	拉薩ニテ tru
Gus	Garment	著物	Gü	
K'rag	Blood	血液	Chak	拉薩ニテ tra
Nyid	Self	自己	Nyit	高調
T'us	Heard	聞キシ	T'ü	佛蘭西ノ tu
Dag-par	Purely	純粹ニ	Dak-war	
Legs-par	Well	能ク	Lek-war	
P'an ch'en rin-po-ch'é	A title	官稱	Han ch'en rin-po-ch'é	或ハ p'an 蒙古音ナラン
P'ug	Cavern	洞穴	Huk	
P'ul-nas	Having given	與ヘマシタ	Hul-né	
T'eg-pa	Carriage	車	T'é-wa	
Chi smos	Why speak of	何ト云フカ?	Chirmé	拉薩ニテ chimö
Eu gchig	One child.	一人ノ小兒	Vu chik	
Sha stag	Only	唯々	Shartak	
Ma mt'ong	Not seen	見マセン	Mamt'ong	
Mi ldan	Not having	持チマセン	Mir-dän	第一説リハ英ノ mere ノ如シ
Mi gyo	Unmoved	動カザリシ	Mir-yo	
Zak-pa	Sorrow	悲哀	Zak-hua	
Zlawa	Moon	月	Dava	
Os	Proper	適當ナル	Eu	
Shig	Louse	虱	Shick	
Grol	Free	自由	Drol	
Gtso	Chief	酋長	Rtso	
Gdzan	Other	他ノ	Rdzan	
Gso	To cure	治療セヨ	Rso	

（三其）

西藏音綴リ	英譯	和譯	發音	備考
Bkras shi	Good luck	好運	Chua-shi	拉薩ニテ tra-shi
Bkag	Forbade	禁セシ	Kuak	
Bsgral-wa	Cut	切ル	Bral-va	
Bgegs	Hindrance	障害	Hgek	
Brnyam	Reward	報酬	Rnyan	
Bitsegs	Built	建築スル	Rtsek	
Mk'as	Learned	學ブ	K'ua	拉薩ニテ k'é
Mk'an-po	Abbot	僧院長	Kuan-bo	
Mngon	Evident	明瞭ナル	Won	
Mt'ah-yas	Endless	限リナキ	Mt'a-yé	拉薩ニテ t'ä-yä
Mk'ah-hgro	Akind of fairy	鬼神ノ種類	K'ua-dra	
Mngah	Might	.....シ得シ	Mua	
Hdi	This	此ノ	Dé	
Hk'rul	Mistaken	誤リシ	Chul	
Hdi hdra vai	This kind	此ノ種類	Dendravi	
Hdus-byas	Compound	複雜ノ	Dub-ché	
Hp'os-na	If he died	彼ガ死メナラ	Hu-na	
Hjog-pa	Placed	置キシ	Jok-pa	又 wa
Hbar	To burn	燒ク	Bar	
Hkrug-med	Peaceful	平穩ナル	Chuk met	拉薩ニテ tru-mé
Hbyang	Clean	清潔ナル	Hjyang	又 ayang and psyang
Migtsang	Unclean	不清潔ナル	Mirtsang	
Sdug-bsngal	Misery	不幸	Rduk-rnal	
Legs-par	Well	舶ク	Lakwar	
Sprinp'ung	A lat of clouds		Drin p'ung	
Baidûrya	Lapis lazuli	璃瑠	Betriyé	拉薩ニテ bende-rya
Od hpro	Light	光線	Od-cho	拉薩ニテ wö-tro
Ting-nge-hdjin	Meditation	沈思	Teng-en-dzin	

（四其）

西藏音綴リ	英譯	和譯	發音	備考
Dyak-hts'al-lo	Saluted	敬禮スル	Shyak-ts'alo	
Hbrug-sgra	Thunder	雷	Druk-dra	
Gtsug-p'ud	Tuft of hair	髮ノ總	Tsuk-hut	
Bkah drin ch'e	Thank you	有難フ	Kua drin ch'e	
Bkah hbum	Title of dook	書籍ノ名稱	Kuam bum	
Bkah hgynr	Title of dook	〃 〃	Kuan jur	
Bkur-sti	Homage	隨身	Kur-ti	
Blun	Stupid	痴鈍ナル	Hlun	
Ma ste	is not	有リマセン	Marté	拉薩ニテ sacha t'upa
Shâkya t'ub-pa	Shakyamuni	釋迦牟尼	Shakchal'uba	
Mihjigs-pa	not afraid	驚カヌ	Min je-ra	minster ノ min ノ如シ
K'ri-stan	Seat	坐	Chir-tau	
Sra-brtan	Firm	商館	Sar-tan	
Kyang	Also	又	jaug	拉薩ニテ jyang
Hjam dpal	Name of God	神ノ名	jam-hual	
Hjog-pa	To place	置ク	jok-wa	
Hp'ags-pa	Exalted	稱揚セシ	Hp'ak-wa	
Sku	Body	身體	Rku	
Skyong	Defect	缺乏	Schyong	
Sgyu-ma	Illusion	幻影	Ryü-ma	
Sgrai	of the Voice	聲ニ付テ	Dri.	又 gri
Sgral	to Cut	切斷スル	jal	拉薩ニテ dral
Sgrigs-te	arranging	整理	Drik-te	
Sna	nose	鼻	Rna	
Sgrogs-pa	Comrade	伴侶	jok-wa	
Sgo	Door	門	Rgo	
Sgnar	Formerly	正式ニ	Rnar	
Smras-pa	Spoken	話セシ	Rmä-wa	

西藏綴音表及ヒ拉薩 巴塘 札隆ノ發音

西藏綴音ノリ	拉薩	巴塘	札隆	西藏綴音ノリ	拉薩	巴塘	札隆
ka	ka	ka	ka	h'a	h'a	h'a	h'a.
k'a	k'a	k'a	k'a	a	ā	ā	ā.
ga	ga	ga	ga	kya	chā	chia	chia.
nga	na	nga	nga	k'ya	ch'a	ch'ia	ch'ia.
cha	cha	chiā	chiā	gya	jya	gyā	gya.
ch'a	ch'a	ch'ia	ch'ia	pya	cha	hasia	hsia.
ja	ja	ja	ja	p'ya	cha	hs'ia	hs'ia.
nya	nya	nya	nya	bya	ja	hsia	hsia.
ta	ta	ta	ta	mya	nya	nya	nya.
t'a	t'a	t'a	t'a	kra	tra	tra	tra.
da	da	da	da	k'ra	tr'a	tra	tr'a.
na	na	na	na	gra	dra	dra	dra.
pa	pa	pa	pa	tra	tra	tra	tra
p'a	p'a	p'a	p'a	t'ra	tr'a	tr'a	tr'a
ba	ba	ba	ba	dra	dra	drā (soft)	dra.
ma	ma	ma	ma	nra	na	sha	na.
tsa	tsa	tsa	tsa	pra	tra	tra	tra.
ts'a	ts'a	ts'a	ts'a	p'ra	tr'a	tr'a	tr'a.
dja	dja	dja	dja	bra	dra	drā (soft)	dra
wa	wa	wa	wa	mna	ma	na	ma.
dza	dza	dza	dza	sra	sa	sa	sa.
za	za	za	za	h'ra	h'a	sha (soft)	h'a
a	ā	ā	ā	kla	ba	la	la.
ya	ya	ya	ya	gla	la	lā	la.
ra	ra	ra	ra	bla	la	bā	la.
la	la	la	la	zla	da	da	da.
sha	sha	shia	shia	rla	la	la	la.
sa	sa	sa	sa	sla	la	la	la.

（五其）

西藏音綴ノリ	英譯	和譯	發音	備考
Skrag-pa	Frightened	驚カス	Drak-hua	拉薩ニテ tra-pa
Slob-dpon	Teacher	教師	lob-huon	〃 bopön
Sgoms	Meditated	沈思スル	Rgom	
Ltar .	Like	好ム	Rtar	
Lta	to see	視ル	Rta	
Rta	Ho se	馬	Sta	
Rten-hbrel	Cause and effect	源因又結果	Ten-brel	拉薩ニテ teund-rel
Ryal-wa	Victrious	打勝ツ	Yal-ra	
Rgyal-po	Prince	大守	Yaro	
Rdjing-bu	Pond	池	Rdjing-vu	
Rgan-po	Old	老年	Rgan-po	拉薩ニテ dju-t'rul
Rdju-hprul	Witchraft	妖術	Rdjum-chul	拉薩ニテ jyal-ts'ün
Rgyal-mts'an	Trophy	戰勝紀念牌	Ryam-ts'an	
Rgyun	Continual	連續ノ	Ryun	
Rdjogs	Finished.	結了セシ	Rdjok	
jiskad	Thus	斯ノ如クシテ	jir-kad	拉薩ニテ ji kā

（三其）

西藏音綴ヲ	拉薩	巴塘	札隆	西藏音綴ヲ	拉薩	巴塘	札隆
dkah	ka	ka	ka	brgya	jyā	jyā	jya.
dkya	chya	chya	chya	bsga	ga	ga	ga.
dkra	tra	tra	tra	bsgya	jya	jya	jya.
dgah	ga	gì	ga	bsgra	dra	dra	dra.
dgyah	jya	jya	jya	brnga	na	nga	nga.
dgra	dra	dra	dra	bsnga	na	nh'a	nga.
dngah	na	nga	nga	bchah	cha	chiă	chiă.
dpa	pa	pa	pa	brja	ja	jyă	jyă.
dpya	chya	hsia	hsia	brnya	nya	nyă	nyă.
dpra	tra	tra	tra	bska	ka	ka	ka.
dbah	ba	ba	ba	brah	ra	ra	ra.
dpra	dra	dra	dra	brtan	ta	ta	ta.
dbya	jya	ya	hsia	blta	ta	ta	ta.
dmah	ma	ma	ma	bsta	ta	ta	ta.
dmya	nya	nya	nya	bngah	na	nga	nga.
btah	ta	ta	ta.	bdah	da	d'a	da.
bkya	cha	chya.	chya	brda	da	da	da.
bkra	tra	tra	tra	blda	da	da	da.
bkla	la	la	la	bsda	da	da	da.
brka	ka	ka	ka	bsna	na	na	na.
brkya	chya	gya	chya	brna	na	na	na.
bska	ka	ka	ka	btsah	tsa	tsa	tsa.
bskya	chya	hsia	chya	brtsa	tsa	tsa	tsa.
bskra	tra	tra	tra	bstsa	tsa	tsa 又 sa	tsa.
bgah	ga	ga	ga	brdja	dja	dja	za.
bgya	jya	jyâ	jyâ	bdzah	dza	dza	dza.
bgra	dra	dra	dra	bzah	za	za	za.
brga	ga	ga	ga	bzla	da	da	da.

（二其）

西藏音綴ヲ	拉薩	巴塘	札隆	西藏音綴ヲ	拉薩	巴塘	札隆
rka	ka	ka	ka	sgya	jya	jya	jya.
rkya	chya	ekya	ekya	sgra	dra	dra	dra.
rga	ga	ga	ga	snga	na	nga	nga.
rgya	jya	jya	jya	snya	nya	nya	nya.
rnga	na	nga	nga	sta	ta	ta	ta.
rja	ja	ja	ja	sda	da	da	da.
rnya	nya	nya	nya	sna	na	nha	na.
rta	ta	ta	ta	spa	pa	pă	p'a.
rda	da	da	da	spya	ch'ya	hsia	hsia.
rna	na	na	na	spra	tra	tră	tra.
rba	ba	ba	ba	sba	ba	ba	ba.
rma	ma	ma	ma	sbya	jya	hsia	hsia.
rtsa	tsa	tsa	tsa	sbra	dra	dra	dra.
rdza	dza	dzā	dza	sma	ma	mh'a	ma.
lka	ka	ka	ka	smya	nya	nh'a	nya.
lga	ga	gā	ga	smra	ma	mh'a	ma.
lnga	na	nga	nga	stsa	tsa	tsa	tsa.
lcha	cha	chia	chia	gchah	cha	chia	chia.
lja	ja	jya	jya	gnyah	nya	nya	nya.
lta	ta	ta	ta	gtah	ta	ta	ta.
lda	da	da	da	gdah	da	dì	da.
lpa	pa	pa	pa	gnah	na	nă	na.
lba	ba	ba	ba	gtsah	tsa	tsa	tsa.
lh'a	h'la	h'la	h'a	gdzah	dza	dza	dza.
lska	ka	ka	ka	gzah	za	za	za.
lskya	chya	chya	chya	gyah	ya	ya	ya.
lskra	tra	tra	tra	gshah	sha	ha	shia.
lsga	ga	ga	ga	gsah	sa	sa	sa.

（四其）

西藏音綴	拉薩	巴塘	札隆	西藏音綴	拉薩	巴塘	札隆
brla	la	la	ba	hk'ah	k'a	k'a	k'a.
bshah	sha	ha	shia	hk'ya	ch'ya	ch'ya	ch'ya.
bsah	sa	sa	sa	hk'ra	tra	tra	tra.
bsra	sa	sa	sa	hgah	ga	ga	ga.
bsla	la	lh'a	da	hgya	gya	gya	gya.
mk'ah	k'a	k'a	k'a	hgra	dra	dra	tra.
mk'ya	ch'ya	ch'ya	ch'ya	hch'ah	ch'a	ch'a	ch'a.
mk'ra	tr'a	tr'a	tr'a	hjah	ja	nja	ja.
mga	ga	nga	ga	ht'ah	t'a	t'a	t'a.
mgya	gya	gya	gya	hdah	da	nda	da.
mgra	dra	dra	dra	hdra	dra	dra	dra.
mngah	na	nga	nga	hy'ya	p'a	p'a	p'a.
mch'ah	ch'a	ch'ia	chia	hp'ya	ch'a	hsia	hsia.
mjah	ja	nja	ja	hp'ra	tr'a	t'ra	tr'a.
mnyath	nya	nya	nya	hbah	ba	ba	ba.
mt'ah	t'a	t'a	t'a	hbya	ja	hsia	hsia.
mdah	da	nda	da	hbra	dra	dra	dra.
mnah	na	na	na	hts'ah	ts'a	t'a	ts'a.
mts'ah	ts'a	ts'a	ts'a	hdja	dja	dja	dja.
mdjah	dja	dja	dza				

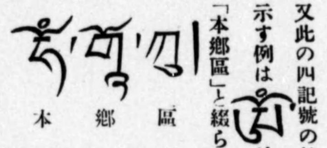
○文　字（第八章參照）

西藏の文字は、通密繖菩喇が印度「デバナガリー」文字に擬して製作したるものにて、其の數三十字母あり。其の内母音と稱すべきもの二字、子音と稱すべきもの二十八字なり、今左に其の發音字體を示す。

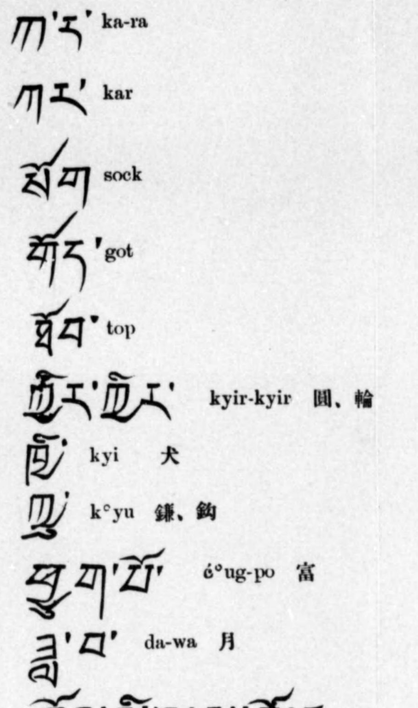
母音は　の二字にて共に「ア」と發音し、殆ど區別なきが如くなれども、其の用所を異にし　は多く首字に用ふ。

此の三十字母の外に四個の記號あり、之を用ひて音に種々の變化を與ふ、其の記號とは　は i 即「イ」にて之を吉固といひ、　は u 即ち「ウ」にて之を紗補佳といひ、　は e 即「エ」にて之を徴トといひ、　は o 即ち「オ」にて之を納囉といふ、此の記號の上若くは下に引ける横線は、只此の記號を文字の上若くは下に附くべきことを示せるまでにて別に意味あるにあらず、即ち四種の記號中唯「ウ」のみ文字の下に附くべきものなり、今此の記號を用ひて音の變化の一斑を示せば左の如し即ち母音「ア」字に此の記號を附すれば「イ」「ウ」「エ」「オ」となり(1)又子音「カ」に之を附すれば「キ」「ク」「ケ」「コ」となり(2)更に其の下に母音「オ」を添ふれば其の長音となる。

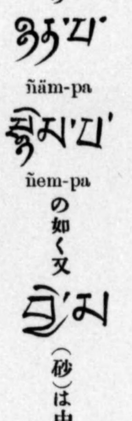
又此の四記號の外に o 點を字頭に加ふれば m 即「ム」又は「ン」の發音を示す例は　は om 即「オム」となるが如し、以上述べたる所によりて「本郷區」と綴らば左の如し而して「キョー」「リョー」等の如き音を表す



には文字を重ねて之を表示す、例は　は kyō 即ち「キョー」にて　を變じて記號として用ひたるなり仍て「リョー」即ち rōy は　なり。西藏文字は羅馬文字と同じく左より横書するものなり。字の右肩に r を附するは綴字を表する記號にて之を「シャット」に等しきものにて之を「シャット」と名く、又 r は英語の「コンマ」「セミコロン」「コロン」に等しきものにて之を「シャット」といふ、「シャット」の前には「ツェック」を附けさるを例とす、但　の字に限りて之を兩用し　と記するなり。今左に五六の演習の例を示す。



（注意）西藏は中央東西等地方に隨ひて其の發音に變化あるとを知らざるべからず例は　の前にある　及び　は東部西藏に於てmと「ム」と發音するが如し即ち



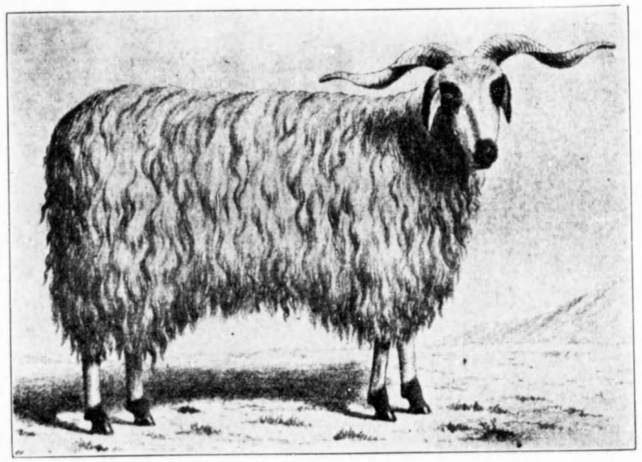
の如く又　（砂）は中央西藏にて j°e-ma と發音すれども、西部西藏にては bé-ma と發音するが如し。此の他地方によりて少異同ありと知るべし。

西藏ノ女

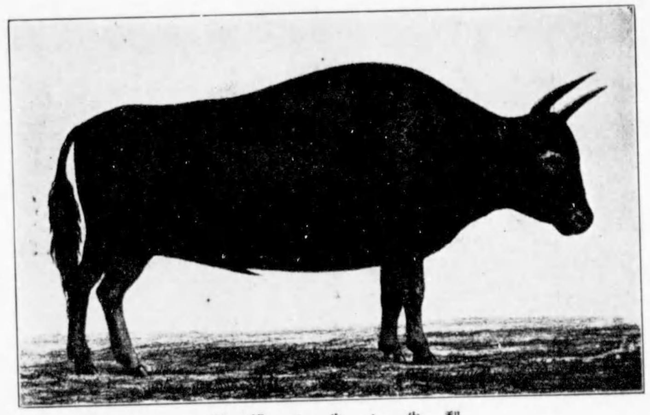
西藏ノ男

西藏ノ兵卒

四藏ノ老人



四藏ノ羊



犁牛ト牛ノ雜種

西藏ノ犁牛(家ニ飼養サルヽ)